

Oracle® Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0

Web Interface 手順ガイド



Copyright © 2008, 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS. Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは, Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は, Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

このマニュアルの使用方法 xiii

1. Web インタフェースの概要 1
 - Web インタフェースについて 2
 - ブラウザおよびソフトウェアの要件 2
 - ILOM で受け付けられるネットワークアドレス 3
 - URL またはディレクトリパスへの IPv6 アドレスの入力 4
 - CMM とサーバー SP の Web インタフェース接続 4
 - サーバー SP の Web インタフェースのコンポーネント 5
 - CMM の ILOM Web インタフェース 6
 - ナビゲーションタブ 9
 - ジャンプリンクを使用したナビゲーション 14
 - 「User Management」 --> 「Active Directory」 14
2. ILOM へのログインと ILOM からのログアウト 15
 - 初回ログインの前に 16
 - ILOM へのログイン 17
 - ▼ root ユーザーアカウントを使用して ILOM にログインする 17
 - ▼ ユーザーアカウントを設定する 18
 - ▼ ユーザーとして ILOM にログインする 19

ILOM からのログアウト 19

- ▼ ILOM からログアウトする 19

バナーメッセージの設定 20

作業を開始する前に 20

- ▼ ILOM でバナーメッセージを設定する 20

次の手順 21

3. ILOM の通信設定 23

ネットワークの設定 25

作業を開始する前に 26

- ▼ IPv4 ネットワーク設定を表示および構成する 27
- ▼ IPv4 と IPv6 のデュアルスタックネットワーク設定を表示および構成する 29
- ▼ IPv4 または IPv6 のネットワーク設定をテストする 33
- ▼ ホスト名およびシステム識別子を割り当てる 34
- ▼ DNS の設定を表示および構成する 34
- ▼ シリアルポートのボーレートを表示および設定する 35
- ▼ x86 ホストシリアルポートの共有 (ポート所有者) を設定する 36
- ▼ HTTP または HTTPS の Web アクセスを有効にする 37
- ▼ SSL 証明書をアップロードする 39

Secure Shell の設定 40

作業を開始する前に 40

- ▼ SSH を有効または無効にする 40
- ▼ 新しい SSH 鍵を生成する 41
- ▼ SSH サーバーを再起動する 41

ローカル相互接続インタフェースの設定 42

作業を開始する前に 42

- ▼ ローカル相互接続インタフェースを設定する 44

4. ユーザーアカウントの管理	47
ユーザーアカウントの設定	48
インストールを開始する前に	49
▼ シングルサインオンを設定する	49
▼ セッションタイムアウトを設定する	49
▼ ユーザーアカウントを追加して役割を割り当てる	50
▼ ユーザーアカウントを設定する	51
▼ ユーザーアカウントを削除する	53
▼ ユーザーセッションを表示する	53
SSH 鍵の設定	54
インストールを開始する前に	54
▼ SSH 鍵を追加する	54
▼ SSH 鍵を削除する	56
Active Directory の設定	57
インストールを開始する前に	57
▼ Active Directory 設定を表示および構成する	57
▼ Active Directory テーブルを設定する	62
▼ Active Directory 認証および承認をトラブルシューティングする	65
LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) の設定	66
インストールを開始する前に	66
▼ LDAP サーバーを設定する	67
▼ LDAP 用に ILOM を設定する	68
LDAP/SSL の設定	69
インストールを開始する前に	69
▼ LDAP/SSL 設定を表示および構成する	69
▼ LDAP/SSL テーブルを設定する	73
▼ LDAP/SSL 認証および承認をトラブルシューティングする	76
RADIUS の設定	78
インストールを開始する前に	78
▼ RADIUS を設定する	78

- 5. システムコンポーネントの管理 81
 - コンポーネント情報の表示およびシステムコンポーネントの管理 82
 - インストールを開始する前に 82
 - ▼ コンポーネント情報を表示および変更する 82
 - ▼ コンポーネントを取り外す準備をする 84
 - ▼ コンポーネントをサービスに復帰させる 84
 - ▼ コンポーネントの有効および無効を切り替える 84

- 6. システムコンポーネントの監視 85
 - システムセンサー、インジケータ、および ILOM イベントログの監視 86
 - ▼ センサー測定値の表示 86
 - ▼ システムインジケータの構成 87
 - ▼ クロック設定の構成 88
 - ▼ タイムゾーン設定の構成 89
 - ▼ イベントログ出力のフィルタ 89
 - ▼ ILOM イベントログの表示およびクリア 91
 - ▼ リモート syslog レシーバの IP アドレスの構成 93
 - ▼ 障害の表示およびクリア 93

- 7. ストレージコンポーネントおよび Zone Manager の監視 95
 - ストレージコンポーネントの表示および監視 96
 - インストールを開始する前に 96
 - ▼ RAID コントローラの詳細の表示および監視 97
 - ▼ RAID コントローラに接続されているディスクの詳細の表示および監視 98
 - ▼ RAID コントローラのボリュームの詳細の表示および監視 100
 - Zone Manager の有効化または無効化 101

- 8. システム警告の管理 103
 - 警告ルールの設定の管理 104
 - インストールを開始する前に 104
 - ▼ 警告ルールを作成または編集する 105

- ▼ 警告ルールを無効にする 106
- ▼ テスト警告を生成する 106
- ▼ 特定の警告の宛先にテスト電子メール警告を送信する 107
- 電子メール通知警告用の SMTP クライアントの設定 107
 - インストールを開始する前に 107
 - ▼ SMTP クライアントを有効にする 108
- SNMP の MIB の ILOM からの直接ダウンロード 108
 - インストールを開始する前に 108
 - ▼ SNMP の MIB をダウンロードする 109
- 9. 電源監視およびハードウェアインタフェースの管理 111
 - 電源管理機能の更新の概要 112
 - システムの消費電力の監視 114
 - インストールを開始する前に 114
 - ▼ システムの消費電力を監視する 115
 - ▼ 個々の電源装置の消費電力を監視する 116
 - ▼ 電力統計情報と電力履歴を監視する 116
 - サーバーの電力使用量を管理するための電力ポリシーの設定 118
 - インストールを開始する前に 118
 - ▼ 消費電力ポリシーを設定する 119
 - ▼ 電力上限のサーバー電力ポリシーを設定する 120
 - 消費電力通知しきい値の設定 121
 - インストールを開始する前に 121
 - ▼ Web インタフェースを使用して通知しきい値を表示および設定する 121
 - コンポーネント割り当て配電の監視と設定 122
 - インストールを開始する前に 122
 - ▼ サーバーコンポーネントの電力割り当てを表示する 123
 - ▼ ILOM 3.0.8 でサーバーの電力制限プロパティを設定する 124
 - ▼ CMM コンポーネントの電力割り当てを表示する 125

- ▼ ILOM 3.0.6 で CMM のブレードスロットの許容電力を設定する 128
- ▼ ILOM 3.0.10 で CMM のブレードスロットの許可制限を設定する 129
- サーバーの電力制限プロパティの設定 130
 - インストールを開始する前に 131
 - ▼ サーバーの電力制限プロパティを設定する 131
- CMM の電源装置冗長性プロパティの監視または設定 133
 - インストールを開始する前に 133
 - ▼ CMM の電源装置冗長性プロパティを表示または設定する 133
- 10. ILOM 設定のバックアップおよび復元 135
 - ILOM 設定のバックアップ 136
 - インストールを開始する前に 136
 - ▼ ILOM 設定をバックアップする 136
 - ILOM 設定の復元 139
 - インストールを開始する前に 139
 - ▼ ILOM 設定を復元する 139
 - ▼ バックアップ XML ファイルを編集する 141
 - ILOM 設定のリセット 144
 - インストールを開始する前に 144
 - ▼ ILOM 設定をデフォルトにリセットする 145
- 11. ILOM ファームウェアの更新 147
 - ファームウェアの更新 148
 - 作業を開始する前に 149
 - ▼ ILOM ファームウェアのバージョンを確認する 149
 - ▼ 新しい ILOM ファームウェアイメージをダウンロードする 150
 - ▼ ファームウェアイメージを更新する 150
 - ▼ ファームウェア更新時のネットワーク障害から回復する 152
 - ILOM SP のリセット 153
 - 作業を開始する前に 153
 - ▼ ILOM SP をリセットする 153

- 12. リモートホストのリダイレクトの管理および ILOM リモートコンソールのセキュリティ保護 155
 - リモートホストの管理 156
 - インストールを開始する前に 157
 - ILOM リモートコンソールのビデオリダイレクトを有効にするための初期セットアップタスクの実行 158
 - ▼ ILOM リモートコントロールのビデオリダイレクトを設定する 159
 - ▼ Windows Internet Explorer の使用時に 32 ビット JDK ファイルの種類を登録する 161
 - Oracle ILOM リモートコンソールを使用したリダイレクトの開始 162
 - インストールを開始する前に 163
 - ▼ Oracle ILOM リモートコンソールを起動する 164
 - ▼ デバイスのリダイレクトを開始、停止、または再開する 166
 - ▼ キーボード入力をリダイレクトする 166
 - ▼ キーボードモードとキー送信オプションを制御する 167
 - ▼ マウス入力をリダイレクトする 169
 - ▼ ストレージメディアをリダイレクトする 169
 - ▼ 新規サーバーセッションを追加する 171
 - ▼ Oracle ILOM リモートコンソールを終了する 171
 - ILOM リモートコンソールのセキュリティー保護 172
 - インストールを開始する前に 172
 - ▼ ILOM リモートコンソールのロックオプションを編集する 172
- 13. リモートホストの電源状態の管理 175
 - リモートサーバー SP または CMM の電源状態の制御 176
 - インストールを開始する前に 176
 - ▼ サーバー SP Web を使用してリモートホストサーバーの電源状態を制御する 176
 - ▼ CMM Web インタフェースを使用してリモートシャシの電源状態を制御する 177

x86 システムの BIOS 起動デバイスのホスト制御の管理	178
インストールを開始する前に	178
▼ BIOS ホスト起動デバイスのオーバーライドを設定する	179
14. SPARC サーバーでの TPM と LDom の状態の管理	181
SPARC サーバーでの TPM の状態の制御	182
作業を開始する前に	182
▼ SPARC サーバーでの TPM の状態を制御する	182
SPARC サーバーでの LDom 設定の管理	183
作業を開始する前に	184
▼ SPARC T3 シリーズのサーバーに格納されている LDom 設定を 表示する	184
▼ 格納されている LDom 設定に対してホストの電源を設定する	185
▼ 格納されている LDom 設定に対してホストの電源を指定する	186
15. リモートホストシステムの診断の実行	187
x86 システムのハードウェア問題の診断	188
作業を開始する前に	188
▼ x86 システムの PC-Check 診断を設定する	188
▼ NMI を生成する	189
SPARC システムのハードウェア問題の診断	190
作業を開始する前に	190
▼ SPARC システムの診断を設定する	190
システムの問題を診断するための SP データの収集	191
作業を開始する前に	192
▼ システムの問題を診断するために SP データを収集する	192
A. IPv4 または IPv6 の ILOM 接続問題の診断	195
B. ローカル相互接続インタフェースの手動によるホスト OS 設定のガイドライン	197
索引	201

このマニュアルの使用法

この Web インタフェース手順ガイドでは、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 をサポートする Oracle の Sun ラックマウント型サーバーまたはサーバーモジュールに共通する Oracle ILOM 3.0 の Web インタフェース機能について説明します。

このガイドは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ、およびシステムハードウェアの管理についての経験を持つユーザーを対象としています。

このガイドに記載されている情報を完全に理解するには、Web インタフェース手順ガイドとともに、ILOM 3.0 のほかのガイドを使用してください。ILOM 3.0 の各種ガイドについては、[xi ページの「関連ドキュメント」](#)を参照してください。

ここでは、次のトピックについて説明します。

- [xi ページの「関連ドキュメント」](#)
- [xiii ページの「マニュアル、サポート、およびトレーニング」](#)
- [xiii ページの「ILOM 3.0 のバージョン番号」](#)
- [xiv ページの「ドキュメントのコメント」](#)

関連ドキュメント

このガイドに記載されている情報を完全に理解するには、このガイドとともに、次の表に示すマニュアルを使用してください。これらのマニュアルは、次の Web サイトからオンラインで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

注 – ILOM 3.0 の各種ガイドは、これまで Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ガイドと呼ばれていました。

タイトル	コンテンツ	パーツ番号	形式
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』	ILOM の特長と機能に関する説明	820-7370	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』	ネットワーク接続、初回の ILOM へのログイン、およびユーザーアカウントやディレクトリサービスの設定の説明と手順	820-7382	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』	ILOM Web インタフェースを使用して ILOM 機能にアクセスするための説明と手順	820-7373	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』	ILOM CLI を使用して ILOM 機能にアクセスするための説明と手順	820-7376	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』	SNMP または IPMI 管理ホストを使用して ILOM 機能にアクセスするための説明と手順	820-7379	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) CMM 管理ガイド – Sun Blade 6000/Sun Blade 6048 モジュールシステム』	ILOM で CMM の機能を管理するための説明と手順	821-3083	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』	ILOM 3.0 の新機能に関する最新情報と既知の問題および回避方法	821-0647	PDF HTML

ILOM 3.0 の各種マニュアルに加えて、関連する ILOM 補足マニュアルやプラットフォームの管理マニュアルにも、使用しているサーバープラットフォームに固有の ILOM の機能やタスクが記載されています。ILOM 3.0 の各種マニュアルとともに、使用しているサーバープラットフォームに付属している ILOM 補足マニュアルやプラットフォームの管理マニュアルを使用してください。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

- マニュアル: <http://docs.sun.com/>
- サポート: <http://www.sun.com/support/>
- トレーニング: <http://www.sun.com/training/>

ILOM 3.0 のバージョン番号

ILOM 3.0 では、システムで動作している ILOM のバージョンを識別しやすいように、新しいバージョン番号方式を採用しています。この番号方式では、5 つのフィールドがある文字列を使用しています。たとえば、a.b.c.d.e となります。

- a – ILOM のメジャーバージョンを示します。
- b – ILOM のマイナーバージョンを示します。
- c – ILOM の更新バージョンを示します。
- d – ILOM のマイクロバージョンを示します。マイクロバージョンは、プラットフォームまたはプラットフォームのグループ単位で管理されます。詳細は、使用しているプラットフォームの製品ノートを参照してください。
- e – ILOM のナノバージョンを示します。ナノバージョンは、マイクロバージョンの増分反復です。

たとえば、ILOM 3.1.2.1.a の意味は、次のとおりです。

- ILOM 3 は、ILOM のメジャーバージョンです。
- ILOM 3.1 は、ILOM3 のマイナーバージョンです。
- ILOM 3.1.2 は、ILOM 3.1 の 2 番目の更新バージョンです。
- ILOM 3.1.2.1 は、ILOM 3.1.2 のマイクロバージョンです。
- ILOM 3.1.2.1.a は、ILOM 3.1.2.1 のナノバージョンです。

ドキュメントのコメント

このドキュメントに関するコメントは、次のサイトで「Feedback [+]」リンクをクリックしてお送りください。

<http://docs.sun.com>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルとパーツ番号を記載してください。

『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』、
Part No. 820-7373-11

第1章

Web インタフェースの概要

項目	
説明	リンク
ILOM Web インタフェースの特長と機能について学習する	<ul style="list-style-type: none">• 2 ページの「Web インタフェースについて」• 2 ページの「ブラウザおよびソフトウェアの要件」• 3 ページの「ILOM で受け付けられるネットワークアドレス」• 4 ページの「CMM とサーバー SP の Web インタフェース接続」• 5 ページの「サーバー SP の Web インタフェースのコンポーネント」• 6 ページの「CMM の ILOM Web インタフェース」• 9 ページの「ナビゲーションタブ」• 14 ページの「ジャンプリnkを使用したナビゲーション」

関連項目		
ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	• ILOM の概要	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
• CLI	• CLI の概要	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』(820-7376)
• SNMP および IPMI のホスト	• SNMP の概要 • IPMI の概要	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』(820-7379)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

この章では、ILOM Web インタフェースを使用して手順を実行する前に知っておく必要のある基本的な情報を提供します。

Web インタフェースについて

ILOM Web インタフェースはブラウザからアクセス可能で、標準のインタフェースを使用しています。ILOM Web インタフェースを使用すると、ローカルおよびリモートシステムの監視および管理をすることができます。ILOM のもっとも強力な機能の 1 つに、サーバーのグラフィカルコンソールをローカルのワークステーションまたはラップトップシステムにリダイレクトする機能があります。ホストのコンソールをリダイレクトすると、ローカルシステムのキーボードおよびマウスを、サーバーのキーボードおよびマウスとして動作するように設定することができます。さらに、リモートシステムのフロッピーディスクドライブまたは CD-ROM ドライブを、Oracle Sun システムに接続した仮想デバイスとして設定することができます。これらの機能には、ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してアクセスできます。

ブラウザおよびソフトウェアの要件

Web インタフェースは、新たにリリースされた Mozilla™、Firefox、および Internet Explorer Web ブラウザで正常にテストされていますが、ほかの Web ブラウザとも互換性がある可能性があります。

ILOM は、次の表に示すブラウザをサポートしています。

表 1-1 サポートされている Web ブラウザ

オペレーティングシステム	Web ブラウザ
Oracle Solaris (9 および 10)	<ul style="list-style-type: none">• Mozilla 1.4 および 1.7• Firefox 1.x 以降
Linux (Red Hat, SuSE, Ubuntu, Oracle)	<ul style="list-style-type: none">• Mozilla 1.x 以降• Firefox 1.x 以降• Opera 6.x 以降

表 1-1 サポートされている Web ブラウザ (続き)

オペレーティングシステム	Web ブラウザ
Microsoft Windows (98、2000、XP、Vista)	<ul style="list-style-type: none">• Internet Explorer 5.5、6.x、7.x• Mozilla 1.x 以降• Firefox 1.x 以降• Opera 6.x 以降
Macintosh (OSX v10.1 以降)	<ul style="list-style-type: none">• Internet Explorer 5.2• Mozilla 1.x 以降• Firefox 1.x 以降• Safari すべて

注 – ILOM は Sun のシステムにプリインストールされており、リモートコンソールアプリケーションも含まれています。ILOM リモートコンソールを実行するには、Java Runtime Environment 1.5 (JRE 1.5) またはそれ以降のバージョンの JRE ソフトウェアがローカルクライアントにインストールされている必要があります。JRE ソフトウェアをダウンロードするには、<http://java.com> にアクセスしてください。リモートコンソールアプリケーションがサポートする Web ブラウザおよびオペレーティングシステムのリストについては、[第 12 章](#)を参照してください。

ILOM で受け付けられるネットワークアドレス

ILOM 3.0.12 以降では、次のネットワークアドレスが ILOM で受け付けられます。

注 – IPv6 アドレスまたはリンクローカル IPv6 アドレスが正しく機能するためには、アドレスの入力時にそのアドレスを角括弧で囲む必要があります。

- IPv4 アドレス – 10.8.183.106
- IPv6 アドレス – [fec0:a:8:b7:214:4fff:5eca:5f7e/64]
- リンクローカル IPv6 アドレス – [e80::214:4fff:feca:5f7e/64]
- DNS ホストドメインアドレス – company.com

デュアルスタックネットワーク設定の詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)を参照してください。IPv4 と IPv6 の接続に関する問題の診断のヘルプについては、[195 ページの「IPv4 または IPv6 の ILOM 接続問題の診断」](#)を参照してください。

URL またはディレクトリパスへの IPv6 アドレスの入力

IPv6 アドレスが正しく機能するためには、URL またはディレクトリパスへのアドレスの入力時にそのアドレスを角括弧で囲む必要があります。

- ファイルを転送するには、次のように入力します。

```
load -source tftp://[fec0:a:8:b7:214:rfff:fe01:851d]desktop.pkg
```

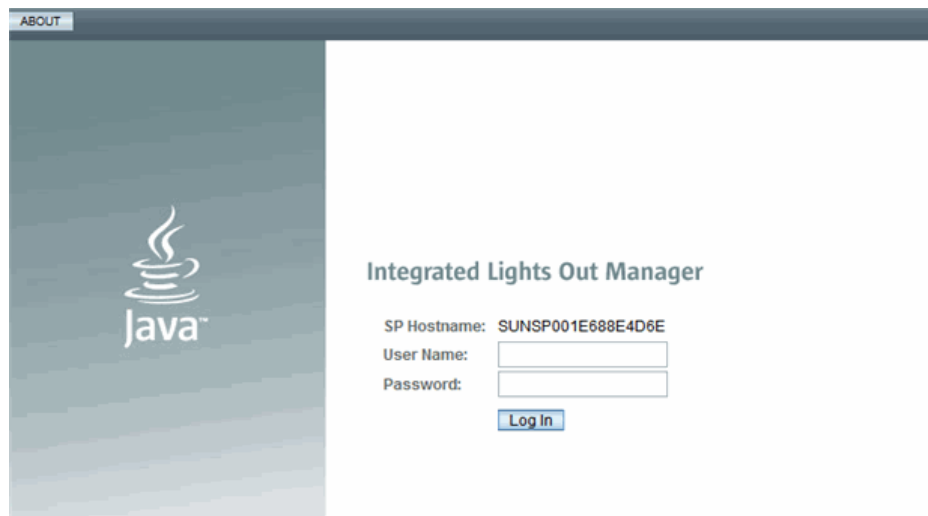
- URL を入力するには、次のように入力します。

```
https://[fe80::221:28ff:fe77:1402]
```

IPv6 アドレスの入力の詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)を参照してください。IPv4 と IPv6 の接続に関する問題の診断のヘルプについては、195 ページの「IPv4 または IPv6 の ILOM 接続問題の診断」を参照してください。

CMM とサーバー SP の Web インタフェース接続

CMM またはサーバー SP の ILOM への Web インタフェース接続を確立するには、Web ブラウザで CMM またはサーバー SP の IP アドレスを指定します。ユーザー名とパスワードを入力するように求める開始画面が表示されます。



ABOUT

Integrated Lights Out Manager

SP Hostname: SUNSP001E688E4D6E

User Name:

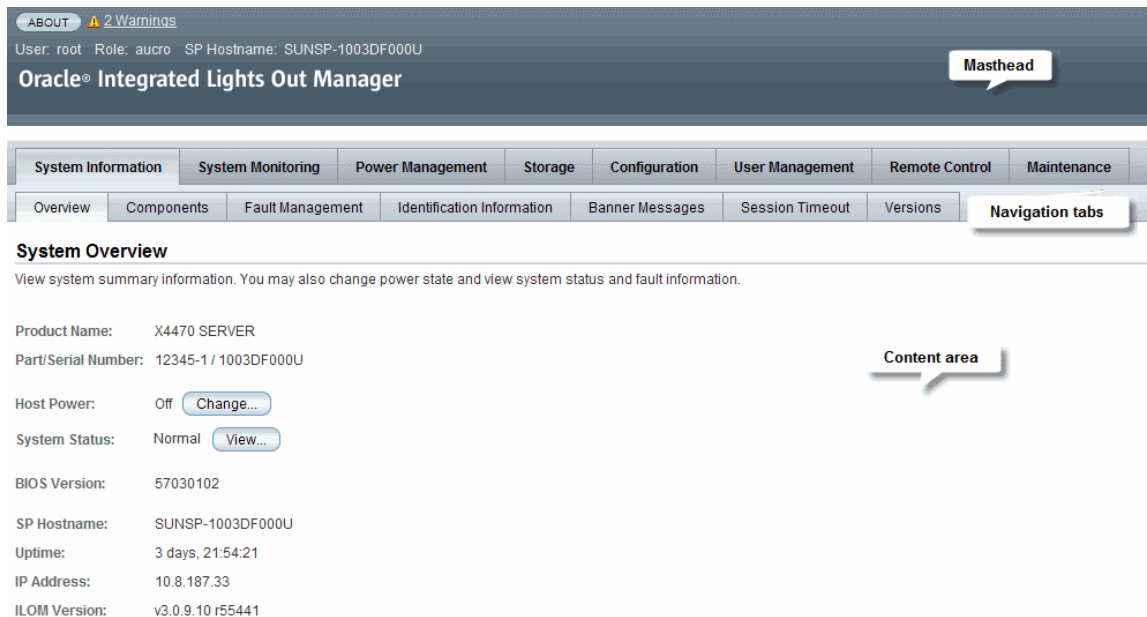
Password:

サーバー SP の Web インタフェースのコンポーネント

サーバー SP の ILOM のメイン Web ページでは、次の例に示すように、表示または構成できるそのサーバーの設定がページの上部に表示されるタブにまとめられています。CMM の ILOM Web インタフェースについては、6 ページの「CMM の ILOM Web インタフェース」を参照してください。

注 – ILOM Web インタフェースのナビゲーションタブは、特定のプラットフォームに実装されている ILOM の機能およびシステムに現在インストールされている ILOM のバージョンによって多少異なります。このため、この節で説明するタブとは異なるタブにアクセスできる場合があります。使用しているシステムの ILOM インタフェースに関する詳細は、お手持ちの ILOM の補足マニュアルまたはプラットフォームの「管理ガイド」を参照してください。

図 1-1 ILOM Web インタフェースのメインページ



Web インタフェースの各ページには、マストヘッド、ナビゲーションタブ、およびコンテンツという 3 つのメインエリアがあります。

マストヘッドには、Web インタフェースの各ページにおいて、次のボタンと情報が提供されます。

- **「About」 ボタン** – クリックすると、製品情報および著作権情報を表示します。
- **「User」 フィールド** – Web インタフェースの現在のユーザーのユーザー名とユーザーの役割を表示します。
- **「Server」 フィールド** – ILOM SP または CMM のホスト名を表示します。
- **「Refresh」 ボタン** – クリックすると、ページのコンテンツエリアの情報を再表示します。「Refresh」 ボタンは、ページで入力または選択した新しいデータを保存しません。
- **「Log Out」 ボタン** – クリックすると、Web インタフェースの現在のセッションを終了します。

注 – ILOM Web インタフェースに備わっている「Refresh」および「Log Out」ボタンを使用してください。Web インタフェースの使用中は、Web ブラウザの「Refresh」ボタンまたは「Log Out」ボタンを使用しないでください。

ILOM Web インタフェースのナビゲーション構造にはタブおよび第 2 レベルのタブがあります。これをクリックして特定のページを開くことができます。メインのタブをクリックすると、第 2 レベルのタブが表示され、さらにオプションが表示されます。コンテンツエリアは、特定のトピックまたは操作に関する情報が表示される場所です。

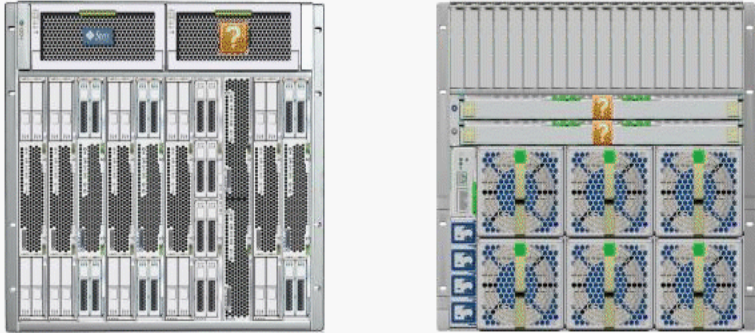
CMM の ILOM Web インタフェース

CMM の ILOM Web ページは次のエリアで構成されます。

- **ナビゲーション区画** – 画面の左側に表示され、シャーシに含まれる管理可能なコンポーネントの表示可能なエントリのみを一覧表示します。
- **「Chassis View」と「Chassis Inventory」テーブル** – ナビゲーション区画でシャーシエントリを選択すると、画面の右側に表示されます。「Chassis View」には、シャーシの正面図と背面図が表示されます。「Chassis Inventory」テーブルには、シャーシに含まれる管理可能なシャーシコンポーネントに関する情報が表示されます。

Chassis View

To manage a Blade or Chassis Monitoring Module, click on it in the left navigation pane or in the image below.



Chassis Inventory

Component	Name	Part Number	Serial Number
/CH	SUN BLADE 6000 MODULAR SYSTEM	product	0000000000
/CH/CMM	CMM	501-7769-02	0000000-7001

- **CMM 管理設定** – ナビゲーション区画で CMM エントリを選択すると、画面の右側に表示されます。次の例に示すように、表示または構成できる CMM の設定が、ページの上部に表示される 8 つのタブにまとめられています。

System Overview

View system summary information. You may also change power state and view system status and fault information.

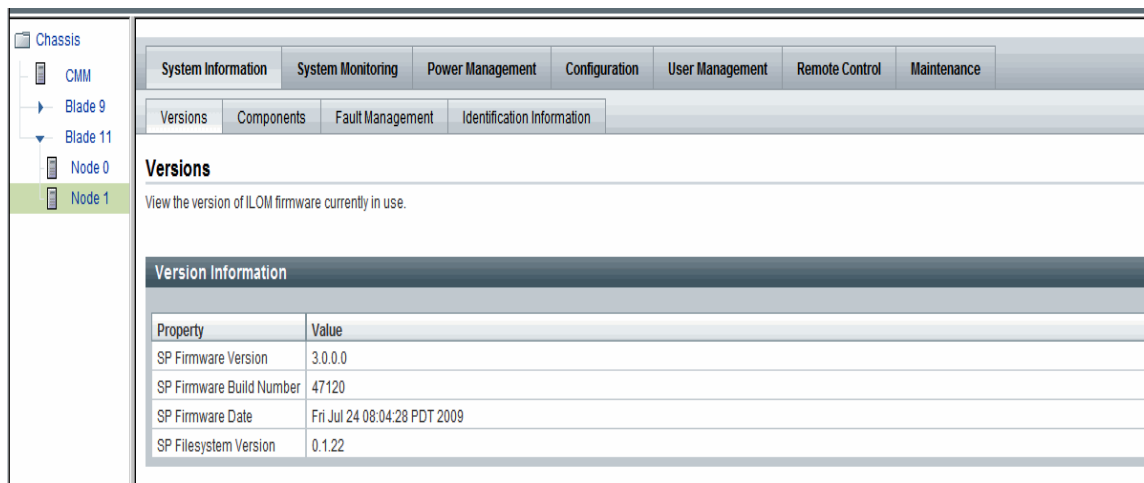
Chassis Name: SUN BLADE 6048 MODULAR SYSTEM
 Part/Serial Number: PPN-1234 / PSN-1234
 SysSN: CSN-1234

Chassis Power: **On** [Change...](#)
 System Status: [View...](#)

CMM Hostname: mpk12-1200-42-235
 Uptime: 0 days, 06:12:17
 IP Address: 10.60.42.235
 ILOM Version: v3.0.10.15 r55581

注 – ILOM 3.0.10 で使用できる「CMM Storage」の「Zoning Management」機能の詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) CMM 管理ガイド – Sun Blade 6000/Sun Blade 6048 モジュラーシステム』(821-3083) を参照してください。

- **ブレード管理設定** – ナビゲーション区画でブレードエントリを選択すると、画面の右側に表示されます。複数のサービスプロセッサ (Service Processor, SP) を搭載したブレードを管理している場合は、次の例に示すように、各専用 SP の「Node」エントリがナビゲーション区画に表示されます。



View the version of ILOM firmware currently in use.

Property	Value
SP Firmware Version	3.0.0.0
SP Firmware Build Number	47120
SP Firmware Date	Fri Jul 24 08:04:28 PDT 2009
SP Filesystem Version	0.1.22

前の例に示すように、表示または構成できる個々のブレード SP の設定が、ILOM Web インタフェースページの右側に表示される 7 つのタブにまとめられています。

この節で説明したタブの詳細は、[9 ページの「ナビゲーションタブ」](#)を参照してください。

ナビゲーションタブ

次の表に、Web インタフェースを使用して ILOM のもっとも一般的な機能にアクセスするために使用できる各種タブおよびサブタブを示します。タブを選択すると表示される Web ページで機能を使用する方法の詳細は、このガイドの関連する章を参照してください。

注 – ILOM Web インタフェースのナビゲーションタブは、特定のプラットフォームに実装されている ILOM の機能およびシステムに現在インストールされている ILOM のバージョンによって多少異なります。このため、次の表に示すタブとは異なるタブにアクセスできる場合があります。使用しているシステムの ILOM インタフェースに関する詳細は、お手持ちの ILOM の補足マニュアルまたはプラットフォームの「管理ガイド」を参照してください。

表 1-2 ILOM 3.0 Web インタフェースのタブ

メインタブ	第 2 および第 3 レベルのタブ	可能な操作	適用対象
System Information			
Overview		製品名、パーツ/シリアル番号、ホストの電源状態、システムの状態、BIOS のバージョン、SP ホスト名、システム稼働時間、IP アドレス、および実行中の ILOM のバージョンを表示します。 <ul style="list-style-type: none">「Host Power」の状態では、システムの電源状態を制御できます。「System Status」の状態では、障害が発生したハードウェアを表示できます。「SysFW Information」(SPARC のみ) は、サーバーに組み込まれているシステムファームウェアのバージョンを示します。	サーバー SP CMM
Components		ILOM が監視しているコンポーネントの名前、種類、および状態を表示します。	サーバー SP CMM
Fault Management		障害状態にあるコンポーネントに関する情報を表示します。	サーバー SP CMM
Identification Information		ホスト名またはシステム識別子を割り当てることにより、サービスプロセッサの識別情報を入力または変更します。	サーバー SP CMM
Banner Messages		ユーザーのログイン前に表示されるメッセージとログイン後に表示されるログインメッセージを表示および設定します。	サーバー SP CMM

表 1-2 ILOM 3.0 Web インタフェースのタブ (続き)

メインタブ	第 2 および第 3 レベルのタブ	可能な操作	適用対象
	Session Timeout	セッションタイムアウトを表示したりセッションタイムアウトパラメータを変更したりします。	サーバー SP CMM
	Versions	SP ファイルシステムのバージョン、SP ファームウェアのバージョン、SP ファームウェアのビルド番号、および SP ファームウェアの日付を表示します。	サーバー SP CMM
System Monitoring			
	Sensor Readings	センサーの名前、種類、および測定値を表示します。	サーバー SP CMM
	Indicators	インジケータと LED の名前および状態を表示します。	サーバー SP CMM
	Event Logs	イベント ID、クラス、種類、重要度、日時、イベントの説明を含む、特定の各イベントに関するさまざまな詳細を表示します。	サーバー SP CMM
電源管理			
	Consumption	実電力と許容電力の消費電力基準値を表示し、電子メール警告または SNMP 通知を生成するための消費電力しきい値を設定します。	サーバー SP CMM
	Allocation	容量計画のためにシステム電源の要件を表示します。 このタブは、ILOM 3.0.10 より前では「Distribution」という名前でした。	サーバー SP CMM
	Limit	サーバー電源の制限を表示または設定します。 このタブは、ILOM 3.0.8 より前では「Budget」という名前でした。	サーバー SP
	Settings	SPARC サーバーの消費電力のポリシーオプションを設定します。	SPARC
	Redundancy	CMM 電源装置の冗長性オプションを表示および設定します。 このタブは、ILOM 3.0.6 で使用できるようになりました。	CMM
	Statistics	CMM およびサーバーモジュール (ブレード) の電力統計データを表示します。	CMM
	History	消費電力の移動平均の履歴を表示します。	サーバー SP CMM

表 1-2 ILOM 3.0 Web インタフェースのタブ (続き)

メインタブ	第 2 および第 3 レベルのタブ	可能な操作	適用対象
Storage			
	RAID --> Controllers	RAID コントローラの情報を表示します。詳細を表示するには、コントローラ名をクリックします。	サーバー SP
	RAID --> Disks	RAID コントローラに接続されているすべてのディスクの情報を表示します。詳細を表示するには、ディスク名をクリックします。	サーバー SP
	RAID --> Volumes	RAID ボリュームの情報を表示します。詳細を表示するには、ボリューム名をクリックします。	サーバー SP
	Zoning	Zone Manager の設定を有効または無効にしたり、Zone Manager のパスワードをリセットしたりします。	CMM
Configuration			
	System Management Access --> Web Server	HTTP Web サーバー、HTTP ポートなど、Web サーバーの設定を編集または更新します。	サーバー SP CMM
	System Management Access --> SSL Certificate	デフォルトの SSL 証明書に関する情報を表示し、任意で、新しい SSL 証明書を検索または入力します。	サーバー SP CMM
	System Management Access --> SNMP	SNMP の設定を編集または更新します。	サーバー SP CMM
	System Management Access --> SSH Server	Secure Shell (SSH) サーバーのアクセスと鍵の生成に関する設定を行います。	サーバー SP CMM
	System Management Access --> IPMI	コマンド行インタフェースを使用して、サーバープラットフォームに関する情報を取得するだけでなく、サーバープラットフォームを監視および制御します。	サーバー SP CMM
	System Management Access --> CLI	CLI の設定を行います。「Session Timeout」の値は、CLI の自動ログアウトが発生するまでのアイドル時間を分単位で示します。	サーバー SP CMM
	System Management Access --> WS-Man	WS-Management の設定を行います。WS-Management は、サーバーとデバイスを管理するための Web サービスおよび SOAP ベースのプロトコルです。	サーバー SP
	Alert Management	それぞれの警告に関する詳細を表示したり、設定された警告のリストを変更したりします。	サーバー SP CMM
	Network	ILOM およびローカル相互接続インタフェース設定の IPv4 と IPv6 のネットワーク設定を表示および編集します。	サーバー SP CMM

表 1-2 ILOM 3.0 Web インタフェースのタブ (続き)

メインタブ	第 2 および第 3 レベルのタブ	可能な操作	適用対象
	DNS	ホスト名を指定し、そのホスト名を、ドメインネームサービス (Domain Name Service、DNS) を使用して IP アドレスに解決します。	サーバー SP CMM
	Serial Port	内部および外部のシリアルポートのボーレートを表示および編集します。	サーバー SP CMM
	Clock	ILOM クロックの時間を表示および手動で編集したり、ILOM クロックを NTP サーバーと同期させたりします。	サーバー SP CMM
	Timezone	サービスプロセッサによって表示されるタイムスタンプが、ほかの場所 (Solaris オペレーティングシステムなど) で作成されるログと対応するように、特定のタイムゾーンを指定します。	サーバー SP CMM
	Syslog	syslog メッセージの送信先となるサーバーのアドレスを設定します。	サーバー SP CMM
	SMTP Client	警告の電子メール通知の送信に使用する SMTP クライアントの状態を設定します。	サーバー SP CMM
	Policy	電源投入ポリシーなど、システムの動作を制御する設定を有効または無効にします。	サーバー SP CMM
User Management			
	Active Sessions	現在 ILOM にログインしているユーザーと、ユーザーが開始したセッションの種類を表示します。	サーバー SP CMM
	User Accounts	ローカルの ILOM ユーザーアカウントを追加、削除、または変更します。	サーバー SP CMM
	LDAP	LDAP ユーザーの ILOM へのアクセスを設定します。	サーバー SP CMM
	LDAP/SSL	Secure Socket Layer (SSL) テクノロジーによって実現される高度なセキュリティ設定を使用して、LDAP ユーザーの ILOM へのアクセスを設定します。	サーバー SP CMM
	RADIUS	RADIUS ユーザーの ILOM へのアクセスを設定します。	サーバー SP CMM
	Active Directory	Active Directory ユーザーの ILOM へのアクセスを設定します。	サーバー SP CMM

表 1-2 ILOM 3.0 Web インタフェースのタブ (続き)

メインタブ	第 2 および第 3 レベルのタブ	可能な操作	適用対象
Remote Control			
	Redirection	使用しているローカルマシンにシステムコンソールをリダイレクトすることにより、ホストをリモート管理します。	サーバー SP CMM
	KVMS	キーボード、ビデオ、マウス、またはストレージデバイスのリモート管理状態を有効または無効にします。	サーバー SP
	Remote Power Control	電源の状態 (「Immediate Power Off」、 「Graceful Shutdown and Power Off」、 「Power On」、 「Power Cycle」、または 「Reset」) を選択します。	サーバー SP CMM
	Diagnostics	x64 プロセッサベースのシステムまたは SPARC プロセッサベースのシステムの診断を有効または無効にします。	サーバー SP
	Host Control	ホスト制御情報を表示および設定します。次のシステム電源投入時の起動デバイスを設定します。	サーバー SP
Maintenance			
	Firmware Upgrade	ILOM のファームウェアのアップグレードを取得する処理を開始します。	サーバー SP CMM
	Backup/Restore	サービスプロセッサの設定を安全な方法でリモートホストまたは取り外し可能なストレージデバイスにバックアップしたり復元したりします。	サーバー SP CMM
	Reset SP	サービスプロセッサをリセットします。	サーバー SP
	Configuration Management	サービスプロセッサの設定データを管理します。	サーバー SP CMM
	Reset Components	シャーシ監視モジュールおよびサービスプロセッサをリセットします。	CMM
	Snapshot	環境、ログ、エラー、および FRUID に関するデータを収集して USB メモリや外部ホストに送信したり (CLI を使用)、ダウンロードされたファイルとして保存したりします。	サーバー SP CMM

ジャンプリンクを使用したナビゲーション

ILOM 3.0.3 で、いくつかの Web ページにジャンプリンクが追加され、ページ内のサブセクションに簡単に移動できるようになりました。次の図に、ジャンプリンクを含む ILOM Web ページの例を示します。

「User Management」 --> 「Active Directory」

The screenshot displays the ILOM Web Interface navigation menu. The 'User Management' tab is selected and highlighted. Below it, the 'Active Directory' sub-tab is also selected and highlighted. The main content area shows the 'Active Directory Management' page, which includes instructions for configuring settings and a list of expandable sections.

System Information	System Monitoring	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance
User Accounts	Active Sessions	LDAP	LDAP/SSL	RADIUS	Active Directory

Active Directory Management

Configure Active Directory settings on this page. Select default roles for all Active Directory users, either Administrator, Operator, Advanced or none(server authorization). Enter the Hostname or IP address of your server. To change the port used to communicate with your server, uncheck *Autoselect*. Enter a timeout value in seconds. Use the log detail levels to control the amount of debug information sent to the log. To load a certificate, fill in the Certificate File Upload information and click Load Certificate to complete the process.

- Settings
- Operator Groups
- Alternate Servers
- Certificate Information
- Custom Groups
- DNS Locator Queries
- Admin Groups
- User Domains

第2章

ILOM へのログインと ILOM からのログアウト

項目

説明	リンク
準備すべき事柄を確認する	• 16 ページの「初回ログインの前に」
ILOM への初回のログインを実行する	• 17 ページの「root ユーザーアカウントを使用して ILOM にログインする」
ユーザーアカウントを設定する	• 18 ページの「ユーザーアカウントを設定する」
通常ユーザーとして ILOM にログインする	• 19 ページの「ユーザーとして ILOM にログインする」
ILOM からログアウトする	• 19 ページの「ILOM からログアウトする」
ILOM でバナーメッセージを設定する	• 20 ページの「ILOM でバナーメッセージを設定する」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• はじめに	• ILOM の使用開始プロセス • Web インタフェースを使用した ILOM の初期セットアップ手順	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』(820-7382)
• CLI	• ILOM へのログインと ILOM からのログアウト	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights_mgr30#hic

この章は、ILOM のログインおよびログアウト手順のクイックリファレンスとして使用してください。詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』で説明している初回ログインの作業と手順を参照してください。

初回ログインの前に

この章の手順を開始する前に、必ず、次の作業を完了していることを確認してください。

- データセンター環境で動作するようにサーバー上の ILOM をどのように設定するかを計画します。『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の ILOM との通信の確立に関する節を参照してください。
- ネットワーク接続を使用せずにシリアルポート経由で ILOM に接続するか、ネットワーク経由で ILOM にログインします。シリアルで直接接続してログインするには、ワークステーション、端末、または端末エミュレータと、サーバーの SER MGT ポート (モジュラーシャーシシステムを使用している場合はシャーシ監視モジュール (Chassis Monitoring Module、CMM) ポート) にシリアルケーブルを接続します。ネットワーク接続を使用してログインする場合は、サーバーまたは CMM の NET MGT ポートに Ethernet ケーブルを接続します。詳細は、使用しているプラットフォームのドキュメントを参照してください。
- ネットワーク設定を行います。DHCP または静的ネットワーク接続を使用できません。デフォルトで、ILOM は、DHCP を使用してネットワーク設定を取得しようとします。『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』の ILOM への接続に関する節を参照してください。
- ILOM SP (CMM またはサーバー) との初回の通信を確立しておく必要があります。
- ILOM でユーザーアカウントを作成しておく必要があります。

ILOM へのログイン

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
ILOM にログインしてユーザーアカウントを設定する	<ul style="list-style-type: none">• 17 ページの「root ユーザーアカウントを使用して ILOM にログインする」• 18 ページの「ユーザーアカウントを設定する」• 19 ページの「ユーザーとして ILOM にログインする」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP• CMM

▼ root ユーザーアカウントを使用して ILOM にログインする

root ユーザーアカウントで ILOM Web インタフェースへの初回のログインを実行するには、Web ブラウザを開いて、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザで `http://system_ipaddress` と入力します。

ILOM がデュアルスタックネットワーク環境で動作している場合は、IPv4 または IPv6 のアドレス形式を使用して `system_ipaddress` を入力できます。

例:

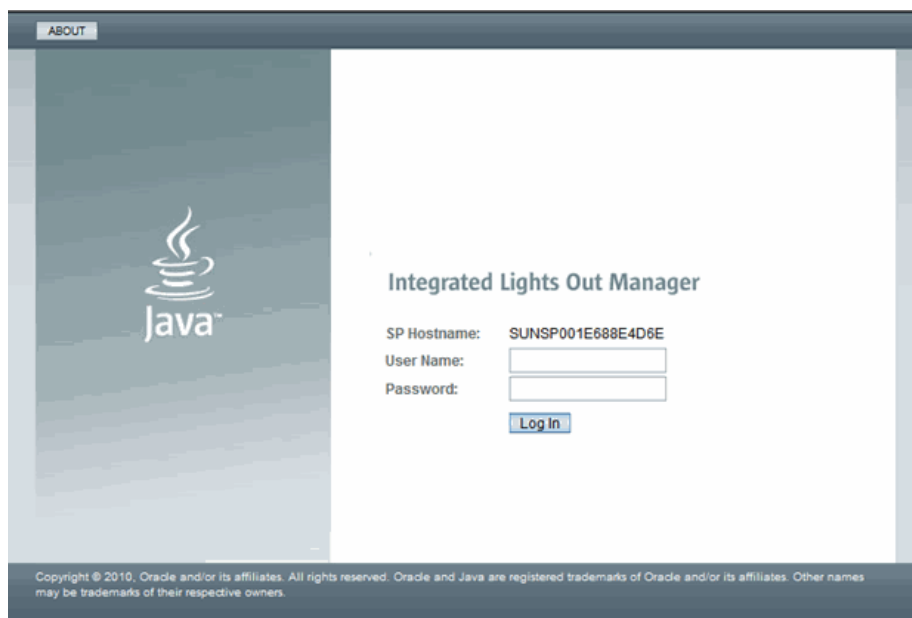
`http://10.8.183.106`

または

`http://[fec0:a:8:b7:214:4fff:5eca:5f7e/64]`

デュアルスタック環境での IP アドレスの入力に関する詳細は、[3 ページの「ILOM で受け付けられるネットワークアドレス」](#)を参照してください。IPv4 と IPv6 の接続に関する問題の診断のヘルプについては、[195 ページの「IPv4 または IPv6 の ILOM 接続問題の診断」](#)を参照してください。

Web インタフェースのログインページが表示されます。



2. 次のように、root ユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名: **root**

パスワード: **changeme**

3. 「Log In」をクリックします。

Web インタフェースの「Version」ページが表示されます。

▼ ユーザーアカウントを設定する

ILOM にログインしたら、一般の (root 以外の) ユーザーアカウントを作成する必要があります。作成したユーザーアカウントを使用して、システムおよび環境の ILOM 設定を行います。

次の手順に従って、ユーザーアカウントを設定します。

- 次の 5 つのユーザークラスのいずれかでユーザーアカウントを設定します。
 - ローカルユーザー
 - Active Directory ユーザー
 - LDAP ユーザー
 - LDAP/SSL ユーザー
 - RADIUS ユーザー

詳細な役割 (Advanced Role) を割り当てたローカルユーザーアカウントを最大 10 個まで作成および設定するか、ディレクトリサービスを 1 つ設定することができます。

ユーザーアカウントの設定に関する詳細は、[50 ページの「ユーザーアカウントを追加して役割を割り当てる」](#)を参照してください。

▼ ユーザーとして ILOM にログインする

ここに示す手順を使用して、ILOM にログインし、ユーザーアカウントまたはディレクトリサービスが正常に機能していることを確認します。

次の手順に従って、root 以外のユーザーアカウントを使用して ILOM にログインします。

1. Web ブラウザで、**http://system_ipaddress** と入力します。
Web インタフェースのログインページが表示されます。
2. 設定したユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
3. 「Log In」をクリックします。
ILOM の Web インタフェースで、「Version」ページが表示されます。

ILOM からのログアウト

項目	リンク	プラットフォームの機能のサポート
ILOM からログアウトする	<ul style="list-style-type: none">• 19 ページの「ILOM からログアウトする」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP• CMM

▼ ILOM からログアウトする

- ILOM の Web インタフェースで、「Log Out」ボタンをクリックします。
「Log Out (ログアウト)」ボタンは Web インタフェースの右上の端にあります。
Web ブラウザの「Log Out」ボタンを使用して ILOM を終了しないでください。

バナーメッセージの設定

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
ILOM でバナーメッセージを設定する	<ul style="list-style-type: none">20 ページの「ILOM でバナーメッセージを設定する」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SPSPARC システムのサーバー SPCMM

作業を開始する前に

- ILOM でバナーメッセージを設定するには、Admin (a) の役割が必要です。
- ILOM 3.0.8 以降のバージョンの ILOM を使用する必要があります。

▼ ILOM でバナーメッセージを設定する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. ILOM Web インタフェースで、「System Information」 --> 「Banner Messages」を選択します。
3. 「Banner Message」ページで、次の手順を実行します。

タスク	手順
「Login」ページに表示されるバナーメッセージを作成する	「Connect Message」テキストボックスにメッセージを入力します。
ILOM へのログイン後のダイアログボックスに表示されるバナーメッセージを作成する	「Login Message」テキストボックスにメッセージを入力します。

4. 「Login Message Acceptance」チェックボックスを選択して、バナーメッセージが表示されるようにします。
5. 「Save (保存)」をクリックします。

次の手順

ユーザーアカウントの設定またはディレクトリサービスの設定が完了したら、ILOM を設定できます。この『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の残りの章では、ILOM の機能にアクセスするために実行できるタスクについて詳しく説明します。

第3章

ILOM の通信設定

項目	
説明	リンク
ネットワークを設定する	<ul style="list-style-type: none">• 27 ページの「IPv4 ネットワーク設定を表示および構成する」• 29 ページの「IPv4 と IPv6 のデュアルスタックネットワーク設定を表示および構成する」• 33 ページの「IPv4 または IPv6 のネットワーク設定をテストする」• 34 ページの「ホスト名およびシステム識別子を割り当てる」• 34 ページの「DNS の設定を表示および構成する」• 35 ページの「シリアルポートのボーレートを表示および設定する」• 37 ページの「HTTP または HTTPS の Web アクセスを有効にする」• 39 ページの「SSL 証明書をアップロードする」• 36 ページの「x86 ホストシリアルポートの共有 (ポート所有者) を設定する」
Secure Shell を設定する	<ul style="list-style-type: none">• 40 ページの「SSH を有効または無効にする」• 41 ページの「新しい SSH 鍵を生成する」• 41 ページの「SSH サーバーを再起動する」
ローカル相互接続インタフェースを設定する	<ul style="list-style-type: none">• 44 ページの「ローカル相互接続インタフェースを設定する」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	• ILOM のネットワーク設定	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
• 概要	• ILOM の使用を開始する	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』(820-7382)
• CLI	• ILOM の通信設定	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)
• IPMI ホスト と SNMP ホ スト	• ILOM の通信設定	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンス ガイド』(820-7379)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

ネットワークの設定

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">• 26 ページの「作業を開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP
ネットワークを設定する	<ul style="list-style-type: none">• 27 ページの「IPv4 ネットワーク設定を表示および構成する」• 29 ページの「IPv4 と IPv6 のデュアルスタックネットワーク設定を表示および構成する」• 33 ページの「IPv4 または IPv6 のネットワーク設定をテストする」• 34 ページの「ホスト名およびシステム識別子を割り当てる」• 34 ページの「DNS の設定を表示および構成する」• 35 ページの「シリアルポートのボーレートを表示および設定する」• 37 ページの「HTTP または HTTPS の Web アクセスを有効にする」• 39 ページの「SSL 証明書をアップロードする」• 36 ページの「x86 ホストシリアルポートの共有 (ポート所有者) を設定する」	<ul style="list-style-type: none">• CMM• x86 システムのサーバー SP

作業を開始する前に

ILOM のネットワーク設定を表示または構成する前に次の情報を確認してください。

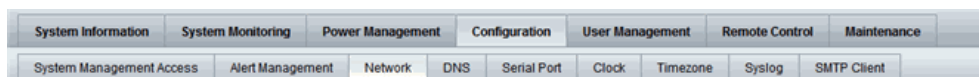
ネットワーク環境	作業を開始する前に
IPv4 のネットワーク設定	<ul style="list-style-type: none">ネットワーク設定を表示するには、Read Only (o) の役割を有効にする必要があります。ネットワーク設定を構成するには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。ILOM の通信設定を構成する前に、ILOM に常に同じ IP アドレスが割り当てられるようにしてください。そのためには、初期設定後に静的 IP アドレスを ILOM に割り当てるか、または常に同じ IP アドレスを ILOM に割り当てるよう DHCP サーバーを構成します。これにより、ネットワーク上で ILOM を簡単に検出できるようになります。デフォルトで、ILOM は、DHCP を使用してネットワーク設定を取得しようとしています。
IPv4 と IPv6 のデュアルスタックネットワーク設定	<ul style="list-style-type: none">ILOM のネットワーク設定を表示するには、Read Only (o) の役割を有効にする必要があります。ネットワーク設定を構成またはテストするには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。サーバーまたは CMM に ILOM ファームウェア 3.0.12 以降がインストールされていることを確認します。 <p>注 - ILOM Web インタフェースでは、IPv4 と IPv6 のデュアルスタック設定を CMM レベルで編集できません。IPv4 と IPv6 のデュアルスタックプロパティを CMM レベルで編集するには、ILOM CLI を使用する必要があります。詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">使用しているプラットフォームの ILOM 補足マニュアルまたは管理マニュアルで IPv6 設定オプションのサポートについて確認します。『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370) の第 2 章に記載されている IPv6 の拡張機能を確認します。ILOM ではデュアルモードの TCP/IP スタックがサポートされており、出荷時には IPv4 と IPv6 の両方の状態がデフォルトで有効になっています。必要に応じて、IPv6 ネットワーク状態を無効にすることもできます。ただし、ILOM が IPv4 ネットワーク環境または IPv4 と IPv6 のデュアルスタックネットワーク環境で動作するためには、IPv4 のネットワークの状態は常に有効にしておく必要があります。ILOM では、IPv4 と IPv6 の両方のネットワーク環境の静的なネットワーク設定と DHCP ネットワーク設定がサポートされています。

ネットワーク環境	作業を開始する前に
IPv4 と IPv6 のデュアルスタック	<ul style="list-style-type: none"> • IPv6 ステートレス自動設定のために、ILOM (3.0.12 以降) ではネットワークルーターを IPv6 用に設定する必要があります。 • DHCPv6 自動設定オプションのために、ILOM (3.0.14 以降) ではネットワーク DHCPv6 サーバーがデバイスの IPv6 アドレスおよび DNS 情報を提供する必要があります。 <p>注 - DHCP と DHCPv6 は別のプロトコルです。デュアルスタックネットワーク環境では、DHCP と DHCPv6 は次のように動作します。(1) DHCPv6 サーバーはネットワークノードに IPv6 アドレスを提供でき、ネットワークノードは常に IPv6 プロトコルを使用して DHCPv6 サーバーと通信します。(2) DHCP サーバーはネットワークノードに IPv4 アドレスを提供でき、ネットワークノードは常に IPv4 プロトコルを使用して DHCP サーバーと通信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP と DHCPv6 の自動設定を行うためには、DNS 情報を IPv6 DHCP サーバーと IPv4 DHCP サーバーの両方からではなくそのどちらかから受信するようにします。ネットワーク DNS ターゲットで ILOM の DNS ネームサーバーを手動で設定できます。DNS 情報を指定する手順については、34 ページの「DNS の設定を表示および構成する」を参照してください。

▼ IPv4 ネットワーク設定を表示および構成する

注 - ここでは、ILOM 3.0.10 およびそれ以前のバージョンの ILOM でサポートされている IPv4 のみのネットワーク環境で動作するように ILOM を設定する手順について説明します。IPv4 と IPv6 のデュアルスタックネットワーク環境で動作するように ILOM を設定する場合は、[29 ページの「IPv4 と IPv6 のデュアルスタックネットワーク設定を表示および構成する」](#)を参照してください。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「設定 (Configuration)」 --> 「ネットワーク (Network)」を選択します。
「Network Settings (ネットワーク設定)」ページが表示されます。「Network Settings」ページでは、MAC アドレスを表示し、サーバーのシャーシ監視モジュール (Chassis Monitoring Module、CMM) およびサービスプロセッサ (Service Processor、SP) のネットワークアドレスを設定できます。
3. DHCP を使用して IP アドレスを自動的に割り当てることも、アドレスを手動で割り当てることも選択することもできます。
 - IP アドレスを自動的に取得するには、「DHCP」の横にあるラジオボタンをクリックします。次の図は例を示しています。



Network Settings

View the MAC address and configure network settings for the Service Processor from this page. DHCP is the default mode, but you can manually configure a static IP Address.

State: Enabled

MAC Address: 00:1E:68:8E:4D:6E

IP Discovery Mode: DHCP Static

IP Address:

Netmask:

Gateway:

- 静的 IP アドレスを手動で設定するには、「Network Settings」ページに情報を入力します。次の表の説明を参照してください。

アイテム	説明
State	ネットワークの状態を有効にするには、チェックボックスをクリックします。
MAC Address	SP のメディアアクセス制御 (Media Access Control、MAC) アドレスは出荷時に設定されています。MAC アドレスは、各ネットワークデバイスに固有のハードウェアアドレスです。MAC アドレスは、SP または CMM のラベル、出荷キットに含まれている Customer Information Sheet、BIOS 設定画面で確認できます。
IP Discovery Mode	IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイを手動で割り当てるには、「Static」の横にあるラジオボタンをクリックします。
IP Address	サーバーの IP アドレスを入力します。IP アドレスは、システムを TCP/IP ネットワーク上で識別する一意の名前です。
Netmask	SP が属するネットワークのサブネットマスクを入力します。
Gateway	SP のゲートウェイアクセスアドレスを入力します。

4. 「Save」をクリックして設定を有効にします。

「Save」をクリックするまで、設定は「待ち状態」とみなされます。IP アドレスを変更すると、ILOM セッションが終了します。

Web ブラウザを閉じるように要求するプロンプトが表示されます。

5. 新しい IP アドレスを使用して、ILOM にふたたびログインします。

注 – ネットワーク設定を変更した場合には、新しいブラウザセッションでもう一度ログインし直す必要がある場合があります。

▼ IPv4 と IPv6 のデュアルスタックネットワーク設定を表示および構成する

注 – ここでは、IPv4 と IPv6 のデュアルスタックネットワーク環境で動作するように ILOM を設定する手順について説明します。ILOM 3.0.10 以前のバージョンの ILOM でサポートされている IPv4 のみのネットワーク環境で動作するように ILOM を設定する場合は、27 ページの「IPv4 ネットワーク設定を表示および構成する」を参照してください。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Network」タブにある IPv4 と IPv6 のネットワーク設定に移動します。
例:
 - サーバー SP では、「Configuration」->「Network」を選択します。
 - CMM では、次の手順を実行します。
 - 左区画でブレード SP を選択し、右区画で「Configuration」->「Network」を選択します。

注 – ILOM Web インタフェースでは、IPv4 と IPv6 のデュアルスタック設定を CMM レベルで編集できません。IPv4 と IPv6 のデュアルスタックプロパティを CMM レベルで編集するには、ILOM CLI を使用する必要があります。詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』を参照してください。

次の図に、IPv4 と IPv6 の ILOM SP ネットワーク設定を示します。

System Information	System Monitoring	Power Management	Storage	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance		
System Management Access	Alert Management	Network	DNS	Serial Port	Clock	Timezone	Syslog	SMTP Client	Policy

Network Settings

View the MAC address and configure network settings for the Service Processor from this page. DHCP is the default mode, but you can manually configure a static IP Address, Netmask, a port you wish to use for managing this Service Processor.

State: Enabled

MAC Address: 00:14:4F:CA:5F:7E

Out Of Band MAC Address: 00:14:4F:CA:5F:7E

Sideband MAC Address: 00:14:4F:CA:5F:7F

Management Port: /SYS/SP/NET0

IPv4

IP Discovery Mode: DHCP Static

IP Address: 10.8.183.106

Netmask: 255.255.255.0

Gateway: 10.8.183.254

IPv6

IPv6 State: Enabled

Autoconfig: Stateless DHCPv6 stateless DHCPv6 stateful

Link-Local IP Address: fe80::214:4fff:fece:5f7e/64

Static IP Address: ::128

Gateway: fe80::211:5dff:febe:5000/128

Dynamic Addresses	
Number	IP Address
1	fec0:a:8:b7:214:4fff:fece:5f7e/64

[Save](#)

3. ネットワークの「State」が有効になっていることを確認します。

注 - ネットワークの「State」の設定は、IPv4 と IPv6 の両方についてデフォルトで有効になっています。必要に応じて、IPv6 のネットワークの「State」を無効にする (選択解除する) こともできます。ただし、ILOM が IPv4 ネットワーク環境または IPv4 と IPv6 のデュアルスタックネットワーク環境で動作するには、IPv4 のネットワークの「state」は常に有効にしておく必要があります。

4. 次のネットワーク設定手順のうち、使用しているネットワーク環境に該当する手順を実行します。

- 静的 IP を手動で設定するには、次の IPv4 向けの手順または IPv6 向けの手順、あるいはその両方を参照してください。
 - 静的 IPv4 アドレスを手動で設定する手順

手順	説明
a.	IP の「Static」ラジオボタンを有効にします。
b.	IP アドレスのテキストボックスにデバイスの IP アドレスを入力します。
c.	デバイスが属するネットワークのサブネットマスクを入力します。
d.	デバイスのゲートウェイアクセスアドレスを入力します。

- 静的 IPv6 アドレスを手動で設定する手順

手順	説明
•	IP アドレスのテキストボックスにデバイスの IP アドレスを入力します。 IPv6 の静的 IP とネットマスクを指定する入力パラメータは次のとおりです。 <IPv6_address>/<サブネットマスク長 (ビット単位)> 例: fec0:a:8:b7:214:4fff:feca:5f7e/64 注 - IPv6 では、1 つのデバイスに複数の IP アドレスを割り当てることがサポートされています。したがって、ILOM で 1 つの静的 IPv6 アドレスを手動で設定し、必要に応じて ILOM で 1 つ以上の IPv6 自動設定オプションを有効にすることもできます。

- DHCP で IPv4 アドレスを自動的に割り当てることができるようにするには、「IPv4」の「DHCP」ラジオボタンを選択します。
- 1 つ以上の IPv6 自動設定オプションを有効にするには、次の中から適切なオプションを選択します。
 - IPv6 自動設定オプションを設定します。

IPv6 自動設定オプション	説明
Stateless (デフォルトで有効)	有効にすると、「Stateless」自動設定オプションが実行され、デバイスの IPv6 ステートレスアドレスがネットワークの IPv6 ルーターから取得されます。
DHCPv6 Stateless	有効にすると、「DHCPv6 Stateless」自動設定オプションが実行され、デバイスの DNS 情報がネットワークの DHCPv6 サーバーから取得されます。 注 - 「DHCPv6 Stateless」自動設定オプションは 3.0.14 以降の ILOM で使用できます。
DHCPv6 Stateful	有効にすると、「DHCPv6 Stateful」自動設定オプションが実行され、デバイスの IPv6 アドレスおよび DNS 情報がネットワーク DHCPv6 サーバーから取得されます。 注 - 「DHCPv6 Stateful」自動設定オプションは 3.0.14 以降の ILOM で使用できます。

注 - ILOM 3.0.14 以降では、「DHCPv6 Stateless」または「DHCPv6 Stateful」のオプションを有効にしたとき、「Stateless」の自動設定オプションも同時に有効にすることが可能です。ただし、「DHCPv6 Stateless」と「DHCPv6 Stateful」の自動設定オプションは同時に有効にすることはできません。

注 - 「DHCPv6 Stateful」または「DHCPv6 Stateless」の自動設定を有効にすると、「Network Settings」ページで、最後に DHCP 情報の取得に使用された DHCPv6 サーバーの一意の DHCP ID が特定されます。

5. 「Save」をクリックして変更内容を適用します。

「Save」をクリックするまで、ネットワーク設定に対する変更はすべて ILOM セッション内で「待ち状態」とみなされます。

注 - デバイス (SP または CMM) の静的 IP アドレスを変更すると、デバイスに対するすべてのアクティブな ILOM セッションが終了します。ブラウザセッションを閉じるように要求するメッセージが表示されます。新しく割り当てられた静的 IP アドレスを使用して、ILOM にふたたびログインする必要があります。

注 - いずれかの IPv6 自動設定オプションから取得されたデバイスの IPv6 アドレスは、デバイスに対するアクティブな ILOM セッションに影響しません。新しく取得された自動設定アドレスは「Network」タブで確認できます。

6. IPv4 または IPv6 のネットワーク設定を ILOM からテストするには、ネットワークテストツール (Ping または Ping6) を使用します。詳細は、[33 ページの「IPv4 または IPv6 のネットワーク設定をテストする」](#)を参照してください。

▼ IPv4 または IPv6 のネットワーク設定をテストする

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. Web インタフェースページで、「Configuration」 --> 「Network」を選択します。
3. 「Network Settings」ページで、ページの下部に表示されている「Tools」ボタンをクリックします。

Network Tools

Access tools to test the network configuration.

Tools

「Test Tools」ダイアログが表示されます。

4. 「Test Tools」ダイアログで、次の情報を指定します。

フィールド	説明
Test Type	<ul style="list-style-type: none">• IPv4 ネットワーク設定をテストするには、「Ping」を選択します。または• IPv6 ネットワーク設定をテストするには、「Ping6」を選択します。
Destination	ネットワーク上のデバイスの IP アドレスを入力します。テストはネットワーク上のこの宛先に送信されます。

▼ ホスト名およびシステム識別子を割り当てる

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Information (システム情報)」 --> 「Identification Information」を選択します。
「Identification Information」ページが表示されます。
3. 「SP host name」フィールドで、SP ホスト名を入力します。
ホスト名は最大 60 文字まで入力できます。
4. 「SP System Identifier」フィールドで、システムを識別するために使用するテキストを入力します。
システム識別子には、標準的なキーボードの任意のキーを使用したテキスト文字列を使用できます。ただし、引用符は除きます。
5. 「SP System Contact」フィールドで、連絡先の担当者名前を入力します。
システムの連絡先には、標準的なキーボードの任意のキーを使用したテキスト文字列を使用できます。ただし、引用符は除きます。
6. 「SP System Location」フィールドで、システムの物理的な場所を記述するテキストを入力します。
システムの場所には、標準的なキーボードの任意のキーを使用したテキスト文字列を使用できます。ただし、引用符は除きます。
7. 「Save」をクリックして設定を有効にします。

▼ DNS の設定を表示および構成する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration」 --> 「DNS」を選択します。
「DNS Configuration」ページが表示されます。
3. DHCP で DNS ネームサーバーおよび検索パスを自動的に割り当てることも、アドレスを手動で割り当てることもできます。
 - アドレスを自動的に割り当てるには、「Auto DNS via DHCP」の横にあるラジオボタンをクリックします。
 - アドレスを手動で割り当てるには、「DNS Name Server」および「DNS Search Path」テキストボックスに情報を入力します。次の図は例を示しています。

System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance		
System Management Access	Alert Management	Network	DNS	Serial Port	Clock	Timezone	Syslog	SMTP Client

DNS Configuration

Configure the DNS settings. Enabling *Auto DNS via DHCP* will override the configured DNS values and use the settings provided by the DHCP server.

Auto DNS via DHCP: Enabled

DNS Name Server:

Enter up to three comma separated name server IP addresses in preferred order e.g. 11.2.3.44, 12.3.45.6

DNS Search Path:

Enter up to six comma separated search suffixes in preferred order e.g. abc.efg.com, efg.com

▼ シリアルポートのボーレートを表示および設定する


1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「Serial Port (シリアルポート)」を選択します。
「シリアルポート設定 (Serial Port Settings)」ページが表示されます。次の図は例を示しています。

System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance		
System Management Access	Alert Management	Network	DNS	Serial Port	Clock	Timezone	Syslog	SMTP Client

Serial Port Settings

The Host Serial Port is the connection between the host server and the service processor that allows a service processor user to access the host serial console. The Host Serial Port should match the speed of the serial console port on the host server, often referred to as serial port 0, COM0, or /dev/ttyS0. The External Serial Port is the serial management port on the server. host and external serial port connections should run at the same speed to avoid flow control issues when connecting to the host console from the SP external serial port. Settings will take effect on subsequent sessions opened over the serial port.

Serial Port Sharing

 This setting controls whether the external serial port is electrically connected to the Host Server or the Service Processor. Once set to Host Server, the Service Processor will have no access to the serial port. All serial port settings will be that of the Host Server.

Owner:

Host Serial Port

 This setting must match the setting for Serial Port 0, COM1 or /dev/ttyS0 on the host operating system.

Baud Rate:

Flow Control:

3. 外部シリアルポートおよび内部ホストシリアルポートのボーレートを表示します。
4. 内部シリアルポートのボーレートを「Host Serial Port Baud Rate」ドロップダウンリストから選択します。

x64 システムの場合、この設定は、ホストオペレーティングシステムのシリアルポート 0、COM 1、または /dev/ttyS0 の設定と一致させてください。

このボーレートの値は、BIOS のシリアルリダイレクト機能で指定されている速度 (デフォルトは 9600 ボー) と、ブートローダおよびオペレーティングシステムの設定で使用されている速度に一致させてください。

ILOM を使用してシステムコンソールに接続するには、デフォルトのホストシリアル設定 (9600 ボー、8N1 (データビット 8、パリティなし、ストップビット 1)、フロー制御なし) を設定する必要があります。
5. 外部シリアルポートのボーレートを「External Serial Port Baud Rate」ドロップダウンリストから選択します。

この設定は、Oracle Sun サーバーの RJ-45 シリアルポートのボーレートと一致させてください。
6. 「Save」をクリックして変更を有効にします。

▼ x86 ホストシリアルポートの共有 (ポート所有者) を設定する

注 – 使用しているサーバーでシリアルポートの共有がサポートされているかどうかを確認するには、プラットフォームの ILOM 補足マニュアルまたは管理マニュアルを参照してください。



注意 – SP 上でネットワークを設定してから、シリアルポートの所有者をホストサーバーに切り替えるようにしてください。ネットワークが設定されていない状態でシリアルポートの所有者をホストサーバーに切り替えると、CLI または Web インタフェースを使用して接続できないため、シリアルポートの所有者を SP に戻すことができなくなります。シリアルポートの所有者設定を SP に戻すには、サーバー上のシリアルポートへのアクセスを回復する必要があります。使用しているサーバー上のポートへのアクセスを回復する方法の詳細は、そのサーバーに付属しているプラットフォームのドキュメントを参照してください。

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration」 --> 「Serial Port」を選択します。

「シリアルポート設定 (Serial Port Settings)」ページが表示されます。

3. 「Serial Port Settings」ページで、シリアルポートの所有者として「Host Server」を選択します。

注 – デフォルトのシリアルポートの共有設定は「Service Processor」です。

4. 変更を有効にするには、「Save」をクリックします。

注 – 「Serial Port Owner」を変更してこの変更を保存すると、「Can not change serial settings - the serial console in use.」というエラーが発生する可能性があります。このエラーは、シリアルポート上にアクティブなセッションが存在する場合に発生するもので、無視してかまいません。エラーにかかわらず、ポート所有者の変更およびポート速度の変更は ILOM で有効になります。

5. ドングルケーブルを使用してシリアルホストをサーバーに接続します。

ドングルケーブルを使用してデバイスをサーバーに接続する方法の詳細は、使用しているサーバーに付属しているプラットフォームのドキュメントを参照してください。

▼ HTTP または HTTPS の Web アクセスを有効にする

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「System Management Access (システム管理アクセス)」 --> 「Web Server (ウェブサーバー)」の順に選択します。
「Web Server Settings (Web サーバー設定)」ページが表示されます。

System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Remote Control		
System Management Access	Alert Management	Network	DNS	Serial Port	Clock	Timezone	Syslog
Web Server	SSL Certificate	SNMP	SSH Server	IPMI	CLI	WS-Man	

Web Server Settings

Configure which types of web server access to allow, and the associated ports. HTTPS is the default. If both HTTP and HTTPS are disabled, you must log into the CLI and enable HTTP or HTTPS access.

HTTP Webserver:

HTTP Port:
The default is: 80

HTTPS Webserver: Enabled

HTTPS Port:
The default is: 443

3. HTTP または HTTPS Web サーバーを選択します。

- **HTTP を有効にする** – ドロップダウンリストボックスから「Enabled」を選択します。また、次を選択することもできます。
 - Redirect HTTP Connection to HTTPS – HTTP 接続が自動的に HTTPS にリダイレクトされます。
 - Disabled – HTTP を無効にします。
- **HTTPS を有効にする** – 「HTTPS Web Server」の「Enabled」チェックボックスを選択します。

HTTPS Web サーバーはデフォルトで有効になっています。

注 – HTTP を無効にする、または「Redirect HTTP Connection to HTTPS (HTTP 接続を HTTPS にリダイレクト)」を選択してから、HTTPS を無効にすると、ILOM Web インタフェースにアクセスできなくなります。アクセスを回復するには、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「HTTP または HTTPS の Web アクセスを有効にする」の説明に従って、CLI の /SP/services/http コマンドまたは /SP/services/https コマンドを使用します。

4. HTTP または HTTPS ポート番号を割り当てます。

5. 「Save」をクリックして設定を有効にします。

6. SP インタフェースに割り当てられた IP アドレスを編集するには、次の手順を実行します。

- a. 「Configuration」 --> 「Network」を選択して、「Network Settings」ページにアクセスします。
- b. 「Use the Following IP Address (次の IP アドレスを使用)」のラジオボタンを選択します。
- c. テキストボックスに IP アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイの値を入力します。
- d. 「Save (保存)」をクリックして新しい設定を有効にします。

IP アドレスの割り当てまたは変更を行うと、以前の IP アドレスを使用して確立された ILOM への接続はタイムアウトします。ILOM に接続するには、新しく割り当てた IP アドレスを使用します。

System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance		
System Management Access	Alert Management	Network	DNS	Serial Port	Clock	Timezone	Syslog	SMTP Client

Network Settings

View the MAC address and configure network settings for the Service Processor from this page. DHCP is the default mode, but you can manually configure a static IP Address

State: Enabled

MAC Address: 00:1E:68:8E:4D:6E

IP Discovery Mode: DHCP Static

IP Address:

Netmask:

Gateway:

▼ SSL 証明書をアップロードする

注 - ILOM では、HTTPS アクセスを行うためのデフォルトの SSL 証明書と自己署名鍵が用意されています。任意で、別の SSL 証明書とこれに一致する非公開鍵をアップロードできます。新しい証明書と鍵が、ネットワークまたはローカルファイルシステムからアクセスできることを確認してください。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「System Management Access (システム管理アクセス)」 --> 「SSL Certificate (SSL 証明書)」の順に選択します。
「SSL Certificate Upload (SSL 証明書アップロード)」ページが表示されます。
3. 新しい SSL 証明書のファイル名を入力するか、または「Browse」ボタンをクリックして新しい SSL 証明書を検索します。
ファイル名には拡張子 .pem が付いています。サービスプロセッサはパスフレーズ方式の暗号化証明書をサポートしていません。
4. 「Upload (アップロード)」ボタンをクリックし、選択した SSL 証明書を取得します。
「SSL Certificate Upload Status (SSL 証明書アップロード状況)」ダイアログボックスが表示されます。
5. 証明書と非公開鍵をアップロードしたら、「OK」ボタンをクリックして ILOM Web サーバーをリセットし、新しい SSL 証明書の使用を開始します。
新しい証明書を有効にするには、ILOM Web サーバーをリセットする必要があります。

Secure Shell の設定

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
Secure Shell を設定する	<ul style="list-style-type: none">• 40 ページの「SSH を有効または無効にする」• 41 ページの「新しい SSH 鍵を生成する」• 41 ページの「SSH サーバーを再起動する」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP• CMM

作業を開始する前に

- Secure Shell (SSH) を設定するには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。

▼ SSH を有効または無効にする

注 – SSH は ILOM でデフォルトで有効になっています。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「System Management Access (システム管理アクセス)」 --> 「SSH Server」の順に選択します。
「SSH Server Settings」ページが表示されます。
3. SSH サーバーを有効にするには、「State」の横にある「Enabled」チェックボックスをクリックします。
4. 「Save」をクリックして設定を有効にします。

▼ 新しい SSH 鍵を生成する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「System Management Access (システム管理アクセス)」 --> 「SSH Server」の順に選択します。
「SSH Server Settings」ページが表示されます。
3. 「Generate RSA Key」ボタンをクリックして RSA を選択するか、「Generate DSA Key」ボタンをクリックして DSA を選択します。
プロンプトが表示されたら、「OK」または「Cancel」をクリックします。
新しい鍵は、新しい接続ですぐに有効になります。

▼ SSH サーバーを再起動する

注 – SSH サーバーを再起動すると、既存のすべての SSH 接続が終了します。

次の手順に従って、SSH サーバーを再起動します。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「System Management Access (システム管理アクセス)」 --> 「SSH Server」の順に選択します。
「SSH Server Settings」ページが表示されます。
3. 「Restart」ボタンをクリックして SSH サーバーを再起動します。

ローカル相互接続インタフェースの設定

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">42 ページの「作業を開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SPSPARC システムのサーバー SP
ローカル相互接続インタフェースを設定する	<ul style="list-style-type: none">44 ページの「ローカル相互接続インタフェースを設定する」	

作業を開始する前に

ここで説明する ILOM でローカル相互接続インタフェースを設定する手順を実行する前に、次の要件を確認する必要があります。

- ILOM SP とホスト OS の間のローカル相互接続インタフェースの使用について説明する概念を確認します。詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370) の「ローカル相互接続インタフェース: ホストオペレーティングシステムから ILOM へのローカル接続」を参照してください。
- ILOM の「Local Host Interconnect」設定に関する説明を確認します。詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370) の「ILOM の「Local Host Interconnect」設定」を参照してください。
- サーバーで ILOM 3.0.12 以降のバージョンの ILOM が実行されていることを確認します。
- プラットフォームでローカル相互接続インタフェースがサポートされていることを確認します。使用しているプラットフォームサーバーの ILOM 補足マニュアルまたは管理マニュアルを参照してください。

注 – ILOM のローカル相互接続インタフェースに関する設定は CMM ではサポートされていません。

- ローカル相互接続インタフェースを自動設定するには、ILOM の「Host Managed」(hostmanaged) 設定を有効にして (True に設定)、Oracle Hardware Management Pack 2.1.0 以降のソフトウェアをサーバーにインストールする必要があります。Oracle Hardware Management Pack 2.1.0 ソフトウェアのインストールに関する詳細は、『Oracle Server Hardware Management Pack ユーザーズガイド』(821-2181) を参照してください。
- ILOM SP とホストオペレーティングシステム間のローカル相互接続インタフェースを手動で設定するには、ILOM の「Host Managed」(hostmanaged) 設定を無効にして (False に設定)、その他の設定をホストオペレーティングシステムで設定する必要があります。

ローカル相互接続インタフェースのホスト OS 接続ポイントを設定するためのガイドラインについては、[197 ページの「ローカル相互接続インタフェースの手動によるホスト OS 設定のガイドライン」](#)を参照してください。
- ホストオペレーティングシステムで、ILOM SP から提供される内蔵 USB Ethernet デバイスがサポートされている必要があります。したがって、ILOM でローカル相互接続インタフェースを設定する前に、内蔵 USB Ethernet デバイスドライバがオペレーティングシステムのディストリビューションに含まれており、サーバーにインストールされていることを確認してください。内蔵 USB Ethernet デバイスドライバがオペレーティングシステムのディストリビューションによってインストールされなかった場合は、使用しているオペレーティングシステム用のデバイスドライバを Oracle Hardware Management Pack 2.1.0 ソフトウェアから入手できます。詳細は、『Oracle Server Hardware Management Pack ユーザーズガイド』(821-2181) を参照してください。
- ILOM で変更を確定するまで、ILOM のローカル相互接続インタフェースに関する設定に対するネットワークパラメータの変更は「待ち状態」とみなされます。たとえば、ILOM CLI では、`commitpending=true` コマンドを発行して `network/interconnect` ターゲットの `pendingipaddress` と `pendingipnetmask` を保存する必要があります。ILOM Web インタフェースでは、「Configure USB Ethernet Parameters」ダイアログで入力したネットワークパラメータの変更は「Save」をクリックすると確定されます。
- ILOM のローカル相互接続インタフェースに関する設定を変更するには、Administrator (a) の役割の権限を持つ ILOM ユーザーアカウントが必要です。
- 使用しているサーバーでサポートされているオペレーティングシステムを確認するには、プラットフォームサーバーのインストールマニュアルまたはオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

▼ ローカル相互接続インタフェースを設定する

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. Web インタフェースページで、「Configuration」 --> 「Network」 を選択します。
3. 「Network Settings」 ページで、「Local Host Interconnect」 セクションが表示されるまでページをスクロールダウンし、「Configure」 をクリックします。

Local Host Interconnect

Local Network Connection between the Service Processor and the Host System.

Status: 169.254.182.76 ([Configure](#))

USB Ethernet パラメータを設定するためのダイアログが表示されます。

Configure USB Ethernet Parameters

These parameters can be used to control the internal network connection between the Host and the Service Processor. Typically, the *HostManaged* parameter is set to true, which allows configuration utilities from the Host to control this connection. However, it is possible to disable the connection, or configure the parameters manually when the connection is not *HostManaged*.

Local USB Network Connection between the Service Processor and the Host System.

Host Managed:	<input type="checkbox"/> True
State:	<input checked="" type="checkbox"/> Enabled
IP Address:	<input type="text" value="169.254.182.76"/>
Netmask:	<input type="text" value="255.255.255.0"/>
Service Processor MAC Address:	02:21:28:57:47:16
Host MAC Address:	02:21:28:57:47:17
Connection Type:	USB Ethernet

4. ルーティングの宛先とならない IPv4 アドレスをローカル相互接続インタフェースの接続ポイントに割り当てるには、次のいずれかを実行します。

- ルーティングの宛先とならない IPv4 アドレスをローカル相互接続インタフェースの各接続ポイントに自動的に割り当てるには、「Host Managed」の「True」チェックボックスをクリックしてこの設定を有効にします。

「Host Managed」プロパティの設定を有効にする場合は、Oracle Hardware Management Pack 2.1.0 (およびそれ以降の) をサーバーにインストールして、「Local ILOM Interconnect」を有効にするインストールのデフォルトを受け入れることも必要になります。詳細は、『Oracle Server Hardware Management Pack ユーザーズガイド』(821-2181) の「Local ILOM Interconnect」の設定に関する節を参照してください。

または

- ルーティングの宛先とならない IPv4 アドレスをローカル相互接続インタフェースの各接続ポイントに手動で割り当てるには、「Configure USB Ethernet Parameters」ダイアログで次のプロパティを指定します。

フィールド	手順と説明
Host Managed	「Host Managed」のチェックボックスを選択解除し、ホスト管理モードを無効にします。
State	「State」のチェックボックスをクリックし、ILOM SP とホスト OS の間のローカル相互接続モードを手動で有効にします。 「State」は、デフォルトでは無効になっています。
IP Address (IP アドレス)	ILOM では、ローカル相互接続インタフェースの ILOM SP 接続ポイントに対してデフォルトのルーティングの宛先とならない IPv4 アドレスが用意されています。 このデフォルトの IPv4 アドレス (169.254.182.76) は、ネットワーク環境で競合が発生しないかぎり変更しないでください。
NetMask	ILOM では、ローカル相互接続インタフェースの ILOM SP 接続ポイントに対してデフォルトの IPv4 ネットマスクアドレスが用意されています。 このデフォルトの IPv4 ネットマスク (255.255.255.0) アドレスは、ネットワーク環境で競合が発生しないかぎり変更しないでください。

注 – Oracle Hardware Management Pack ソフトウェアによって ILOM SP とホスト OS の間のローカル相互接続インタフェースが自動設定されないようにするには、

「Host Managed」の設定を選択解除する (無効にする) 必要があります。ILOM SP とホスト OS の間のローカル相互接続インタフェースが使用されないようにするには、「Host Managed」と「State」の両方の設定を選択解除する (無効にする) 必要があります。

5. 「Configure USB Ethernet Parameters」ダイアログで入力した変更を確定するには、「Save」をクリックします。

注 – Oracle Hardware Management Pack 2.1.0 以降のソフトウェアを使用せずに ILOM でローカル相互接続インタフェースを手動で設定することを選択した場合は、ホストオペレーティングシステムで追加の設定をいくつか実行する必要があります。これらホスト OS での追加設定の詳細は、[197 ページの「ローカル相互接続インタフェースの手動によるホスト OS 設定のガイドライン」](#)を参照してください。

第4章

ユーザーアカウントの管理

項目	
説明	リンク
ユーザーアカウントを設定する	<ul style="list-style-type: none">• 49 ページの「シングルサインオンを設定する」• 49 ページの「セッションタイムアウトを設定する」• 50 ページの「ユーザーアカウントを追加して役割を割り当てる」• 51 ページの「ユーザーアカウントを設定する」• 53 ページの「ユーザーアカウントを削除する」• 53 ページの「ユーザーセッションを表示する」
SSH ユーザー鍵を設定する	<ul style="list-style-type: none">• 54 ページの「SSH 鍵を追加する」• 56 ページの「SSH 鍵を削除する」
Active Directory を設定する	<ul style="list-style-type: none">• 57 ページの「Active Directory 設定を表示および構成する」• 62 ページの「Active Directory テーブルを設定する」• 65 ページの「Active Directory 認証および承認をトラブルシューティングする」
LDAP を設定する	<ul style="list-style-type: none">• 67 ページの「LDAP サーバーを設定する」• 68 ページの「LDAP 用に ILOM を設定する」
LDAP/SSL を設定する	<ul style="list-style-type: none">• 69 ページの「LDAP/SSL 設定を表示および構成する」• 73 ページの「LDAP/SSL テーブルを設定する」• 76 ページの「LDAP/SSL 認証および承認をトラブルシューティングする」
RADIUS を設定する	<ul style="list-style-type: none">• 78 ページの「RADIUS を設定する」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	<ul style="list-style-type: none">• ユーザーアカウント管理• ユーザーアカウントの管理のガイドライン	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
• CLI	<ul style="list-style-type: none">• ユーザーアカウントの管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)
• SNMP	<ul style="list-style-type: none">• ユーザーアカウントの管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』(820-7379)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。

http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights_mgr30#hic

ユーザーアカウントの設定

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
ユーザーアカウントを設定する	<ul style="list-style-type: none">• 49 ページの「シングルサインオンを設定する」• 49 ページの「セッションタイムアウトを設定する」• 50 ページの「ユーザーアカウントを追加して役割を割り当てる」• 51 ページの「ユーザーアカウントを設定する」• 53 ページの「ユーザーアカウントを削除する」• 53 ページの「ユーザーセッションを表示する」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP• CMM

インストールを開始する前に

- シングルサインオンとセッションタイムアウトのプロパティを設定するには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。
- ユーザー管理 (ユーザーアカウントおよび役割) のプロパティを設定するには、User Management (u) の役割を有効にする必要があります。

▼ シングルサインオンを設定する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management (ユーザー管理)」 --> 「User Accounts (ユーザーアカウント)」を選択します。
「User Account Settings」ページが表示されます。
3. 「Enable Single Sign On」の隣のチェックボックスをクリックして機能を有効にするか、チェックボックスの選択を解除して機能を無効にします。

▼ セッションタイムアウトを設定する

注 – セッションタイムアウトの設定は、ILOM セッションがアイドル状態になってからログアウトされるまでの時間を制御します。セッションタイムアウトの設定は、現在の ILOM セッションをログアウトしたあとは保持されません。ILOM Web インタフェースにログインするたびに、セッションタイムアウトをリセットする必要があります。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Information (システム情報)」 --> 「Session Time-Out (セッションタイムアウト)」の順に選択します。
「Session Time-Out」ページが表示されます。
3. ドロップダウンリストから、希望する時間を選択します。
4. 「Apply」ボタンをクリックして変更を保存します。

▼ ユーザーアカウントを追加して役割を割り当てる

注 – User Management (u) の役割のあるアカウントのみ、ユーザーアカウントを追加、変更、または削除することができます。ただし、自分のパスワードを変更するために必要な役割は、Read Only (o) のみです。新しいユーザーに User Management (u) の役割が割り当てられている場合、ILOM へのコマンド行インターフェース (Command-Line Interface, CLI) および Intelligent Platform Management Interface (IPMI) にも同じ権限が自動的に付与されます。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management (ユーザー管理)」 --> 「User Accounts (ユーザーアカウント)」を選択します。
「User Account Settings」 ページが表示されます。
3. 「Users」 テーブルで「Add」 をクリックします。
「Add User」 ダイアログが表示されます。

Integrated Lights Out Manager

The user name must be 4 to 16 characters and must start with an alphabetic character and use no spaces. The password must be 8 to 16 characters, which are case sensitive. Use any characters except a colon and space.

User Name:

Roles: Admin (a) User Management (u)
 Console (c) Reset and Host Control (r)
 Read Only (o) Service (s)

New Password:

Confirm New Password:

4. 次の情報を入力します。

- a. 「User Name」フィールドに、ユーザー名を入力します。
- b. 役割を選択します。次のようなオプションがあります。
 - 「Advanced Role」 – ILOM 3.0 のすべての新規インストール向け。
「Advanced Role」を選択すると、「Admin」(a)、「Console」(c)、「Read Only」(o)、「User Management」(u)、「Reset and Host Control」(r)、および「Service」(s)を選択できるようになります。ユーザーアカウントに割り当てられる役割および権限の詳細については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ILOM ユーザーアカウントの役割」を参照してください。
 - 「Administrator」または「Operator」 – ILOM 2.0 から ILOM 3.0 にアップグレードするユーザー向け。
 - None
- c. 適切な役割を選択します。
- d. 「Password (パスワード)」フィールドにパスワードを入力します。

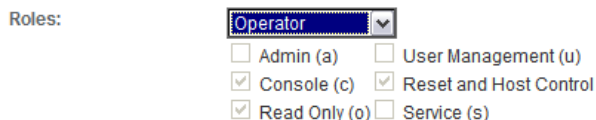
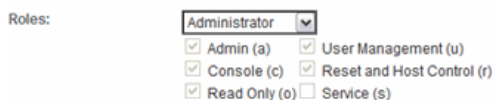
パスワードは、8 文字以上 16 文字以下にしてください。パスワードの大文字と小文字は区別されます。英数字のほか、セキュリティを高めるため特殊文字も使用してください。コロン以外のすべての文字を使用できます。パスワードにはスペースは使用できません。
- e. 「Confirm Password (パスワードの確認)」フィールドにパスワードを再入力し、パスワードを確認します。
- f. 新しいユーザーの情報を入力し終わったら、「Save」ボタンをクリックします。

「User Account Settings」ページが再表示されます。「User Account Settings」ページには、新しいユーザーアカウントとその関連情報が表示されています。

▼ ユーザーアカウントを設定する

注 – ユーザーのパスワード、およびユーザーのネットワーク権限とシリアル権限を変更することにより、ユーザーアカウントを変更できます。ユーザーアカウントを追加、変更、または削除するには、User Management (u) の役割を有効にする必要があります。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management (ユーザー管理)」 --> 「User Accounts (ユーザーアカウント)」を選択します。
「User Account Settings」 ページが表示されます。
3. 「Users」 テーブルで、変更するユーザーアカウントの隣のラジオボタンを選択し、「Edit」 をクリックします。
割り当てられている役割を示すダイアログが表示されます。
4. ユーザーに割り当てられている役割を変更します。
「Advanced Role」 が選択されている場合、ユーザーは 6 つの役割から自由に (複数) 選択できます。一方、「Administrator」 または 「Operator」 を選択した場合、役割は自動的に割り当てられます。たとえば、次の図は、「Administrator」 および 「Operator」 に対して割り当てられる役割を示しています。



5. 「New Password」 フィールドに新しいパスワードを入力します。
パスワードは 8 文字以上 16 文字以下で指定してください。パスワードの大文字と小文字は区別されます。英数字のほか、セキュリティを高めるため特殊文字も使用してください。コロン以外のすべての文字を使用できます。パスワードにはスペースは使用できません。
6. 「Confirm New Password」 フィールドにパスワードを再入力し、パスワードを確認します。
7. アカウント情報を変更したあとで、「Save (保存)」 をクリックするとその変更が有効になり、「Close (閉じる)」 をクリックすると前の設定に戻ります。
変更が反映された 「User Account Settings」 ページが再表示されます。

▼ ユーザーアカウントを削除する

注 – ユーザーアカウントを追加、変更、または削除するには、User Management (u) の役割を有効にする必要があります。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management (ユーザー管理)」 --> 「User Accounts (ユーザーアカウント)」を選択します。
「User Account Settings」ページが表示されます。
3. 削除するユーザーアカウントの隣のラジオボタンを選択します。
4. 「Users」テーブルで「Delete」をクリックします。
確認のダイアログが開きます。
5. 「OK」をクリックしてアカウントを削除するか、「Cancel」をクリックして処理を中止します。
「User Account Settings」ページが更新され、削除したユーザーアカウントが表示されなくなります。

▼ ユーザーセッションを表示する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management (ユーザー管理)」 --> 「Active Sessions (アクティブセッション)」を選択します。
「Active Sessions (アクティブセッション)」ページが表示されます。現在 ILOM にログインしているユーザーのユーザー名、そのユーザーがセッションを開始した日時、セッションの種類、およびモードを確認できます。ILOM 3.0.4 以降のバージョンの ILOM を使用している場合は、各ユーザーに割り当てられている役割も表示できます。

SSH 鍵の設定

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
SSH ユーザー鍵を設定する	<ul style="list-style-type: none">54 ページの「SSH 鍵を追加する」56 ページの「SSH 鍵を削除する」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SPSPARC システムのサーバー SPCMM

インストールを開始する前に

- ほかのユーザーの SSH 鍵を変更するには、User Management (u) の役割を有効にする必要があります。ただし、自分の SSH 鍵は Read Only (o) の役割が有効になっていれば設定できます。

SSH 鍵を使用するとパスワード認証を自動化することができます。次の手順を使用して、SSH 鍵を追加または削除します。

▼ SSH 鍵を追加する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management」 --> 「User Accounts」 を選択します。
「User Account Settings」 ページが表示されます。
3. 「User Account Settings」 ページで、「SSH」 テーブルまでスクロールダウンして「Add」 をクリックします。
SSH 鍵の追加画面が表示されます。

Integrated Lights Out Manager

To add an SSH key, select a User, fill in the upload information, and click Load. Only users with at least one empty key are listed. If a user seems to be missing from the menu list, close this window and delete at least one of their existing keys before adding a new one.

User:

Key Upload

Transfer Method:

Select File:

- 「User」 ドロップダウンリストからユーザーを選択します。
- 「Transfer Method」 ドロップダウンリストから転送方法を選択します。
次の転送方法を使用できます。
 - Browser
 - TFTP
 - FTP
 - SFTP
 - SCP
 - HTTP
 - HTTPS
- 「Browser」を選択した場合は、「Browse」をクリックして SSH 鍵の場所を指定します。手順 9 に進みます。
- 「TFTP」を選択すると以下の図に示すプロンプトが表示されるので、次の情報を入力して手順 9 に進みます。
 - **Host** – リモートホストの IP アドレスか、DNS を設定している場合はリモートホストの名前を入力します。
 - **Filepath** – 設定ファイルの保存先のパスを `directoryPath/filename` 形式で入力します。

Key Upload

Transfer Method:

Host: Filepath:

8. 「SCP」、「FTP」、「SFTP」、「HTTP」、または「HTTPS」を選択すると以下の図に示すプロンプトが表示されるので、次の情報を入力して手順 9 に進みます。
 - **Host** – リモートホストの IP アドレスか、DNS を設定している場合はリモートホストの名前を入力します。
 - **Filepath** – 設定ファイルの保存先のパスを `directoryPath/filename` 形式で入力します。
 - **Username** – リモートシステムでのアカウントのユーザー名を入力します。
 - **Password** – リモートシステムでのアカウントのパスワードを入力します。

Key Upload

Transfer Method:

Host: Filepath:

Username: Password:

9. 選択したユーザーアカウントに SSH 鍵を追加するには、「Load」をクリックします。
SSH 鍵がユーザーアカウントに追加されます。

▼ SSH 鍵を削除する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management」 --> 「User Accounts」を選択します。
「User Account Settings」ページが表示されます。
3. ページをスクロールして下部にある「SSH Keys」セクションを表示し、ユーザーを選択して、「Delete」をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示されます。
4. 「OK」をクリックします。
SSH 鍵が削除されます。

Active Directory の設定

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
Active Directory を設定する	<ul style="list-style-type: none">57 ページの「Active Directory 設定を表示および構成する」62 ページの「Active Directory テーブルを設定する」65 ページの「Active Directory 認証および承認をトラブルシューティングする」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SPSPARC システムのサーバー SPCMM

インストールを開始する前に

- Active Directory の設定を行うには、User Management (u) の役割を有効にする必要があります。
- 「Expanded Search Mode」プロパティを設定するには、ILOM 3.0.4 以降を使用する必要があります。
- 「Strict Credential Error Mode」プロパティを設定するには、ILOM 3.0.10 以降を使用する必要があります。

▼ Active Directory 設定を表示および構成する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management (ユーザー管理)」 --> 「Active Directory」を選択します。
「Active Directory」ページが表示されます。次の図に示すように、「Active Directory」ページには 3 つのセクションがあります。

- 一番上のセクション (ターゲットとプロパティ)

Settings

State: Enabled
Roles: **None (server authorization)**
 Admin (a) User Management (u)
 Console (c) Reset and Host Control (r)
 Read Only (o) Service (s)

Address:
IP Address or Hostname

Port: Autoselect
The default is: Autoselect (0)

Timeout:

Strict Certificate Mode: Enabled
Requires validation of retrieved certificate

DNS Locator Mode: Enabled
Uses DNS services to obtain list of ActiveDirectory Servers

Expanded Search Mode: Enabled
Use the SAMAccountName from the domain context of the authentication server in addition to the preferred UPN from the explicit domain

Strict Credential Error Mode: Enabled
Fails user authentication for a specific user/domain when "invalid credential" error is returned by any server

Log Detail: **None**

- 中央のセクション (主要な証明書情報)

Certificate Information

Certificate File Status: certificate present [\(details\)](#)

Certificate File Upload

Transfer Method:

Select File:

- 一番下のセクション (Active Directory テーブル)

Admin Groups		
<input type="button" value="Edit"/>		
ID	Name	
1	CN=SpSuperAdmin,OU=Groups,DC=davide,DC=example,DC=sun,DC=com	
2	CN=SpAdmin	
3	-	
4	-	
5	-	

3. 「Active Directory」設定ページの一番上のセクションに表示される Active Directory 設定を構成します。

Active Directory の設定については、次の表を参照してください。

プロパティ	デフォルト値	説明
State	Disabled	Enabled Disabled
Roles	(none)	Administrator Operator Advanced なし 認証されたすべての Active Directory ユーザーに付与されるアクセスの役割。このプロパティでは、旧バージョンの Administrator 役割や Operator 役割、または個々の役割 ID 「a」、「u」、「c」、「r」、「o」、「s」の任意の組み合わせがサポートされます。たとえば、aucros となっている場合、a は Admin、u は User Management、c は Console、r は Reset and Host Control、o は Read-Only、s は Service を意味します。ここで役割を設定しない場合、役割の決定には Active Directory サーバーが使用されます。
Address	0.0.0.0	Active Directory サーバーの IP アドレスまたは DNS 名。DNS 名が使用される場合は、DNS が設定済みで機能している必要があります。
Port	0	サーバーとの通信に使用するポート。「autoselect」を選択すると、ポートは 0 に設定されます。 使用している標準以外の TCP ポートで予期しないイベントが発生した場合に使用できます。
Timeout	4	秒単位のタイムアウトの値。 個々のトランザクションが完了するまで待機する秒数です。トランザクションの数は設定に応じて異なるため、この値はすべてのトランザクションの合計時間を表すわけではありません。 このプロパティは、サーバーが応答していない場合や到達不可能な場合に待機する時間を調整するために使用できます。
Strict Certificate Mode	Disabled	Enabled Disabled 有効にすると、認証時にデジタル署名を利用してサーバー証明書の内容が検証されます。厳密な証明書モードを有効にするには、証明書がロードされている必要があります。
DNS Locator Mode	Disabled	Enabled Disabled 有効にすると、設定された DNS ロケータクエリに基づき、Active Directory サーバーの検出が試みられます。

プロパティ	デフォルト値	説明
Expanded Search Mode	Disabled	Enabled Disabled ILOM 3.0.4 以降では、拡張検索モードを使用できます。有効にすると、拡張検索モードを使用してユーザーエントリの検索が制御されます。より厳密な userPrincipleName 検索がすぐに成功しなかった場合は、別の検索が試行されます。 無効にすると、userPrincipleName に完全修飾ドメイン名 (Fully Qualified Domain Name、FQDN) 接尾辞が必要です。
Strict Credential Error Mode	Disabled	Enabled Disabled ILOM 3.0.10 以降では、厳密な資格エラーモードを使用できます。 このモードを無効に設定 (チェックボックスの選択を解除) すると、使用できるほかのサーバー (代替サーバーテーブルで設定されているか DNS クエリーで検出される) でユーザー資格が再試行されます。無効な場合、別の分離されたドメインのユーザーは、そのドメインの認証サーバーが使用可能なかぎり ILOM にログインできます。 このモードを有効に設定 (チェックボックスを選択) すると、サーバーから資格エラーがレポートされた場合、ユーザー資格エラーが発生した最初の認証試行後、そのユーザー資格の認証は失敗します。
Log Detail	None	None High Medium Low イベントログに記録される診断項目の量を指定します。

- 「Active Directory」設定ページの一番上のセクションにある「Save」をクリックして設定を有効にします。
- 「Active Directory」設定ページの中央のセクションにある Active Directory 証明書情報を表示します。

Active Directory の証明書の設定については、次の表を参照してください。

プロパティ	表示	説明
Certificate File Status	certificate not present	証明書の有無を示す読み取り専用の項目。
Certificate File Status	certificate present (details)	「details」をクリックして、発行者、主題、シリアル番号、有効期限開始、有効期限終了、およびバージョンの情報を確認します。

6. 「Certificate File Upload」セクションで、証明書ファイルをアップロードする転送方法と必要なパラメータを選択します。

注 – このセクションは、「Strict Certificate Mode」を有効にする場合にのみ必要です。「Strict Certificate Mode」が無効になっている場合、データは保護されますが証明書は不要です。

次の表では、転送方法ごとに必要なパラメータを示します。

転送方法	必要なパラメータ
Browser	File Name
TFTP	Host Filepath
FTP	Host Filepath Username Password
SCP	Host Filepath Username Password

7. 「Load Certificate」ボタンまたは「Remove Certificate」ボタンをクリックします。
8. 証明書がロードされている場合は、「details」リンクをクリックして次の情報を表示します。

アイテム	説明
Issuer	証明書を発行した認証局。
Subject	証明書の対象となるサーバーまたはドメイン。
Valid From	証明書の有効期限の開始日。
Valid Until	証明書の有効期限の終了日。
Serial Number	証明書のシリアル番号。
Version	証明書のバージョン番号。

▼ Active Directory テーブルを設定する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management (ユーザー管理)」 --> 「Active Directory」 を選択します。
「Active Directory」 ページが表示されます。
3. 「Active Directory」 ページの一番下で、設定するテーブルのカテゴリにアクセスするリンクを次の中からクリックします。
 - Admin Groups
 - Operator Groups
 - Custom Groups
 - User Domains
 - Alternate Servers
 - DNS Locator Queries
4. 個別のテーブルのラジオボタンを選択して、「Edit」 をクリックします。
5. テーブルに必要なデータを入力します。

次の表に、Active Directory データの望ましい形式を示すためのデフォルトデータを示します。

■ Admin Groups テーブル

Admin Groups テーブルには、Microsoft Active Directory グループの名前が、識別名 (Distinguished Name、DN) 形式、単純名形式、または NT 形式で含まれます。

ID	名前
1	CN=SpSuperAdmin,OU=Groups,DC=sales,DC=east,DC=oracle,DC=com
2	

■ Operator Groups テーブル

Operator Groups テーブルには、Microsoft Active Directory グループの名前が、識別名 (Distinguished Name、DN) 形式、単純名形式、または NT 形式で含まれます。

ID	名前
1	CN=SpSuperOper,OU=Groups,DC=sales,DC=east,DC=oracle,DC=com
2	

■ Custom Groups テーブル

Custom Groups テーブルには、Microsoft Active Directory グループの名前が、識別名 (Distinguished Name、DN) 形式、単純名形式、または NT 形式で含まれます。エントリに関連付けられている役割も設定されています。

ID	名前	Roles
1	custom_group_1	Admin, User Management, Console, Reset and Host Control, Read Only (aucro)

■ User Domains テーブル

User Domains は、ユーザーの認証に使われる認証ドメインです。ユーザーがログインする際、使用した名前は特定のドメイン名形式に書式設定されます。ユーザー認証は、入力されたユーザー名と設定済みのユーザードメインに基づいて試行されます。

このあとの例では、エントリ 1 のドメインは、ユーザー認証を最初に試行する際に使用される原則の形式を示しています。エントリ 2 は、Active Directory が最初のエントリでの認証に失敗した場合に使用する、完全な識別名を示します。

注 - <USERNAME> は、ユーザーのログイン名で置き換えられます。認証時に、ユーザーのログイン名が <USERNAME> に置き換わります。

ID	ドメイン
1	<USERNAME>@sales.east.oracle.com
2	CN=<USERNAME>,CN=Users,DC=sales,DC=east,DC=oracle,DC=com

■ Alternate Servers テーブル

Alternate Servers テーブルは、ドメインの分離によって必要となる場合、冗長性と同時に他のサーバーの選択肢を提供します。証明書が必要にもかかわらず指定されていない場合は、トップレベルの主証明書が使用されます。代替サーバーのルールと要件は、トップレベル証明書モードと同じです。各サーバーにそれぞれの証明書状態があり、必要に応じてそれぞれの証明書コマンドで証明書を取得します。

ID	アドレス	ポート	証明書の状態
1	-	0	certificate not present
2	10.8.136.165	0	certificate present (details)

次の図に、ID 2 に証明書が存在する Alternate Servers テーブルを示します。

Alternate Servers				
Edit				
ID	Address	Port	Certificate Status	
1	-	0	certificate not present	
2	10.8.136.165	636	certificate present (details)	
3	-	0	certificate not present	
4	-	0	certificate not present	
5	-	0	certificate present (details)	

「details」リンクをクリックすると、次の証明書情報が表示されます。

アイテム	説明
Issuer	証明書を発行した認証局。
Subject	証明書の対象となるサーバーまたはドメイン。
Valid From	証明書の有効期限の開始日。
Valid Until	証明書の有効期限の終了日。
Serial Number	証明書のシリアル番号。
Version	証明書のバージョン番号。

■ DNS Locator Queries テーブル

DNS Locator Queries テーブルは、認証に使用するホストについて DNS サーバーに問い合わせます。

DNS ロケータサービスクエリーは、DNS の名前付きのサービスを特定します。ポート ID は通常レコードに含まれますが、<PORT:636> 形式を使用してオーバーライドできます。また、認証されるドメイン固有の名前付きサービスは、<DOMAIN> 置換マーカーを使用して指定できます。

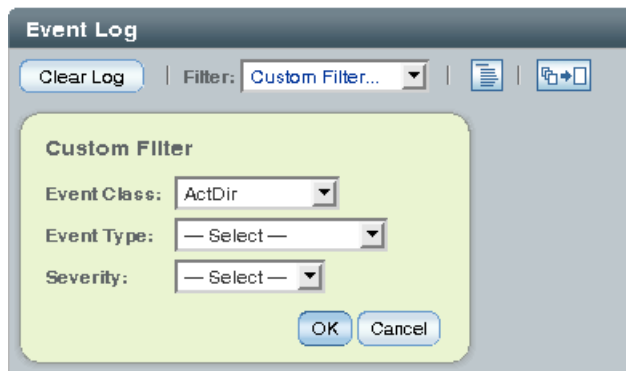
名前	ドメイン
1	_ldap._tcp.gc._msdcs.<DOMAIN>.<PORT:3269>
2	_ldap._tcp.dc._msdcs.<DOMAIN>.<PORT:636>

注 – DNS Locator Queries が機能するためには、DNS および DNS ロケータモードが有効になっている必要があります。

6. 「Save」をクリックして変更を有効にします。

▼ Active Directory 認証および承認をトラブルシューティングする

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management (ユーザー管理)」 --> 「Active Directory」 を選択します。
「Active Directory」 ページが表示されます。
3. 「Log Detail」 ドロップダウンリストで、イベントログに記録する詳細レベルを選択します。
「None」、「High」、「Medium」、「Low」、または「Trace」 を選択できます。
4. 「Save」 をクリックして変更を保存します。
5. イベントを生成するために認証を試みます。次の手順を実行します。
 - a. 「System Monitoring」 タブで、「Event Logs」 を選択します。
 - b. 「Filter」 ドロップダウンリストで、「Custom Filter」 を選択します。



- c. 「Event Class」 ドロップダウンリストで、「ActDir」を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。
- すべての Active Directory イベントがイベントログに表示されます。

Event Log

Displays every event in the SP, including IPMI, Audit, and FMA events. Click the *Clear Log* button to delete all current log entries.

Event ID	Class	Type	Severity	Date/Time	Description
92	ActDir	Log	critical	Mon Jul 7 11:27:15 2008	(ActDir) authentication status: auth-ERROR
91	ActDir	Log	major	Mon Jul 7 11:27:15 2008	(ActDir) server-authenticate: auth-error idx 2 cfg-server 0.0.0.0
90	ActDir	Log	major	Mon Jul 7 11:27:15 2008	(ActDir) ServerUserAuth - Error 0, config not valid
89	ActDir	Log	major	Mon Jul 7 11:27:15 2008	(ActDir) server-authenticate: auth-error idx 0 cfg-server 0.0.0.0
88	ActDir	Log	major	Mon Jul 7 11:27:15 2008	(ActDir) ServerUserAuth - Error 0, config not valid
87	ActDir	Log	minor	Mon Jul 7 11:27:15 2008	(ActDir) _DNS_MaxServers: num-svrs - 0

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) の設定

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
LDAP を設定する	<ul style="list-style-type: none"> • 67 ページの「LDAP サーバーを設定する」 • 68 ページの「LDAP 用に ILOM を設定する」 	<ul style="list-style-type: none"> • x86 システムのサーバー SP • SPARC システムのサーバー SP • CMM

インストールを開始する前に

- LDAP の設定を行うには、User Management (u) の役割を有効にする必要があります。

▼ LDAP サーバーを設定する

1. ILOM に対して認証を行うすべてのユーザーが、「crypt」形式か、または一般的には「MD5 crypt」と呼ばれる、crypt の GNU 拡張で保存されたパスワードを使用していることを確認します。

ILOM は、これらの 2 種類の crypt 形式で保存されたパスワードによる LDAP 認証のみをサポートしています。

例:

```
userPassword: {CRYPT}ajCa2He4PJhNo
```

または

```
userPassword: {CRYPT}$1$spzKng1$du1Bf0NWBjh9t3FbUgf46
```

2. オブジェクトクラス `posixAccount` および `shadowAccount` を追加し、このスキーマ (RFC 2307) に必要なプロパティ値を入力します。必要なプロパティ値については、次の表を参照してください。

必須プロパティ	説明
<code>uid</code>	ILOM にログインするためのユーザー名
<code>uidNumber</code>	一意な数値
<code>gidNumber</code>	一意な数値
<code>userPassword</code>	パスワード
<code>homeDirectory</code>	任意の値 (ILOM でこのプロパティは無視される)
<code>loginShell</code>	任意の値 (ILOM でこのプロパティは無視される)

3. LDAP サーバーを設定して、ILOM のユーザーアカウントにアクセスできるようにします。

LDAP サーバーが匿名バインドを許可するようにするか、または LDAP サーバーにプロキシユーザーを作成します。LDAP サーバーは、ILOM により認証されるすべてのユーザーアカウントに読み取り専用アクセスができます。

詳細は、LDAP サーバーのマニュアルを参照してください。

▼ LDAP 用に ILOM を設定する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management (ユーザー管理)」 --> 「LDAP」を選択します。
「LDAP Settings」ページが表示されます。
3. 次の値を入力します。
 - **State** – LDAP ユーザーを認証するには、「Enabled」チェックボックスを選択します。
 - **Role** – LDAP ユーザーのデフォルトの役割です。
 - **Address** – LDAP サーバーの IP アドレスまたは DNS 名です。
 - **Port** – LDAP サーバーのポート番号です。デフォルトのポートは 389 です。
 - **Searchbase** – ユーザーを検索する LDAP サーバーのブランチを入力します。
 - **Bind DN** – LDAP サーバー上の読み取り専用プロキシユーザーの識別名 (DN) を入力します。ILOM がユーザーの検索と認証を行うには、LDAP サーバーに対する読み取り専用のアクセス権が必要になります。
 - **Bind Password** – 読み取り専用ユーザーのパスワードを入力します。
4. 「Save」をクリックして変更を有効にします。
5. LDAP 認証の動作を確認するには、LDAP ユーザー名とパスワードを使用して、ILOM にログインします。

注 – ILOM は、LDAP ユーザーの前にローカルユーザーを検索します。LDAP ユーザー名がローカルユーザーとして存在する場合は、ILOM は認証にローカルアカウントを使用します。

LDAP/SSL の設定

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
LDAP/SSL を設定する	<ul style="list-style-type: none">69 ページの「LDAP/SSL 設定を表示および構成する」73 ページの「LDAP/SSL テーブルを設定する」76 ページの「LDAP/SSL 認証および承認をトラブルシューティングする」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SPSPARC システムのサーバー SPCMM

インストールを開始する前に

- LDAP/SSL の設定を行うには、User Management (u) の役割を有効にする必要があります。
- 認証イベントおよび承認イベントを表示するには、Read Only (o) の役割を有効にする必要があります。
- 「Optional User Mapping」プロパティを設定するには、ILOM 3.0.4 またはそれ以降のバージョンの ILOM を使用する必要があります。

▼ LDAP/SSL 設定を表示および構成する

次の手順に従って、LDAP/SSL の設定を表示および構成します。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management」 --> 「LDAP/SSL」を選択します。
「LDAP/SSL」ページが表示されます。「LDAP/SSL」ページには 3 つのセクションがあります。

- 一番上のセクション (ターゲットとプロパティ)

Settings

State: Enabled

Roles: Administrator

Admin (a) User Management (u)
 Console (c) Reset and Host Control (r)
 Read Only (o) Service (s)

Address: 129.152.194.97

Port: 0 Autoselect

Timeout: 4

Strict Certificate Mode: Enabled

Optional User Mapping: Enabled [\[edit\]](#)

Log Detail: None

[Save](#)

- 中央のセクション (証明書情報)

Certificate Information

Certificate File Status: certificate present [\(details\)](#)

Certificate File Upload

Transfer Method: Browser

Select File: [Browse...](#)

[Load Certificate](#) [Remove Certificate](#)

- 一番下のセクション (LDAP/SSL テーブル)

Admin Groups

[Edit](#)

ID	Name
1	CN=SuperAdmin,OU=Groups,DC=davidc,DC=sun,DC=com
2	-
3	cn=posixGroup_200,ou=Group,dc=sun,dc=com
4	-

3. 「LDAP/SSL」設定ページの一番上のセクションに表示される LDAP/SSL 設定を構成します。

LDAP/SSL の設定については、次の表を参照してください。

プロパティ (Web)	デフォルト値	説明
State	Disabled	Enabled Disabled
Roles	(none)	Administrator Operator Advanced (none) 認証されたすべての LDAP/SSL ユーザーに付与されるアクセスの役割。このプロパティでは、旧バージョンの Administrator 役割や Operator 役割、または個々の役割 ID 「a」、「u」、「c」、「r」、「o」、「s」の任意の組み合わせがサポートされます。たとえば、aucros となっている場合、a は Admin、u は User Management、c は Console、r は Reset and Host Control、o は Read-Only、s は Service を意味します。ここで役割を設定しない場合、役割の決定には LDAP/SSL サーバーが使用されます。
Address	0.0.0.0	LDAP/SSL サーバーの IP アドレスまたは DNS 名。
Port	0	サーバーとの通信に使用するポート。autoselect が有効になっている場合、ポートは 0 に設定されます。 使用している標準以外の TCP ポートで予期しないイベントが発生した場合に使用できます。
Timeout	4	秒単位のタイムアウトの値。 個々のトランザクションが完了するまで待機する秒数です。トランザクションの数は設定に応じて異なるため、この値はすべてのトランザクションの合計時間を表すわけではありません。 このプロパティは、サーバーが応答していない場合や到達不可能な場合に待機する時間を調整するために使用できます。
Strict Certificate Mode	Disabled	Enabled Disabled 有効にすると、認証時にデジタル署名を利用してサーバー証明書の内容が検証されます。厳密な証明書モードを有効にするには、証明書がロードされている必要があります。

プロパティ (Web)	デフォルト値	説明
Optional User Mapping	Disabled	Enabled Disabled 3.0.4 以降では、オプションのユーザーマッピングを使用できます。有効にすると、識別名 (DN) 以外の属性をユーザー資格の認証に使用できます。このプロパティを使用して、単純なユーザーログイン名を DN に変換してユーザー資格を検証します。 「edit」をクリックし、「User Attribute Mapping Parameters」ダイアログを表示して内容を変更し、「Save」をクリックします。
Log Detail	None	None High Medium Low イベントログに記録される診断項目の量を指定します。

- 「LDAP/SSL」設定ページの一番上のセクションにある「Save」をクリックして、このセクションで行った変更を保存します。
- 「LDAP/SSL」設定ページの中央セクションで、LDAP/SSL の証明書情報を確認します。
LDAP/SSL 証明書の設定については、次の表を参照してください。

プロパティ	表示	説明
Certificate File Status	certificate not present	証明書の有無を示す読み取り専用の項目。
Certificate File Status	certificate present (details)	「details」をクリックして、発行者、主題、シリアル番号、有効期限開始、有効期限終了、およびバージョンの情報を確認します。

- 「Certificate File Upload」セクションで、証明書ファイルをアップロードする際の転送方法を選択します。

注 – このセクションは、「Strict Certificate Mode」を使用する場合にのみ必要です。「Strict Certificate Mode」が無効になっている場合、データは保護されますが証明書は不要です。

次の表では、転送方法ごとに必要なパラメータを示します。

転送方法	必要なパラメータ
Browser	File Name
TFTP	Host Filepath
FTP	Host Filepath Username Password
SCP	Host Filepath Username Password

7. 「Load Certificate」 ボタンまたは「Remove Certificate」 ボタンをクリックします。
8. 証明書がロードされていた場合は、Web インタフェースの「details」リンクをクリックして次の情報を表示します。

アイテム	説明
Issuer	証明書を発行した認証局。
Subject	証明書の対象となるサーバーまたはドメイン。
Valid From	証明書の有効期限の開始日。
Valid Until	証明書の有効期限の終了日。
Serial Number	証明書のシリアル番号。
Version	証明書のバージョン番号。

▼ LDAP/SSL テーブルを設定する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management」 --> 「LDAP/SSL」 を選択します。
「LDAP/SSL」 ページが表示されます。

3. 「LDAP/SSL」 ページの一番下で、設定するテーブルのカテゴリにアクセスするリンクを次の中からクリックします。

- Admin Groups
- Operator Groups
- Custom Groups
- User Domains
- Alternate Servers

4. 個別のテーブルのラジオボタンを選択して、「Edit」をクリックします。

5. テーブルに必要なデータを入力します。

以下の各表で、デフォルトデータは LDAP/SSL データの正しい入力形式を示しています。

■ Admin Groups テーブル

Admin Groups テーブルには、LDAP/SSL グループの名前が、識別名 (Distinguished Name、DN) 形式で含まれます。

ID	名前
1	CN=SpSuperAdmin,OU=Groups,DC=sales,DC=east,DC=oracle,DC=com
2	

■ Operator Groups テーブル

Operator Groups テーブルには、LDAP/SSL グループの名前が、識別名 (Distinguished Name、DN) 形式で含まれます。

ID	名前
1	CN=SpSuperOper,OU=Groups,DC=sales,DC=east,DC=oracle,DC=com
2	

■ Custom Groups テーブル

Custom Groups テーブルには、LDAP/SSL グループの名前が、識別名 (Distinguished Name、DN) 形式、単純名形式、または NT 形式で含まれます。エントリに関連付けられている役割も設定されています。エントリ 1 に表示されている名前は、単純名形式を使用しています。

ID	名前	役割
1	custom_group_1	Admin, User Management, Console, Reset and Host Control, Read Only (aucro)

■ User Domains テーブル

User Domains は、ユーザーの認証に使われる認証ドメインです。ユーザーがログインする際、使用した名前は特定のドメイン名形式に書式設定されます。ユーザー認証は、入力されたユーザー名と設定済みのユーザードメインに基づいて試行されます。

エントリ 1 は、LDAP/SSL が最初のエントリでの認証に失敗した場合に使用する完全な識別名です。

注 - 認証の際、<USERNAME> はユーザーのログイン名に置き換えられます。原則の形式または識別名形式がサポートされます。

ID	ドメイン
1	UID=<USERNAME>,OU=people,DC=oracle,DC=com
2	

■ Alternate Servers テーブル

代替サーバーテーブルは、認証に冗長性を提供します。証明書が必要にもかかわらず指定されていない場合は、トップレベルの主証明書が使用されます。代替サーバーのルールと要件は、トップレベル証明書モードと同じです。各サーバーにそれぞれの証明書状態があり、必要に応じてそれぞれの証明書コマンドで証明書を取得します。

ID	アドレス	ポート	証明書の状態
1	-	0	certificate not present
2	-	0	certificate not present
3	10.7.143.246	0	certificate present (details)

次の図に、ID 2 に証明書が存在する Alternate Servers テーブルを示します。

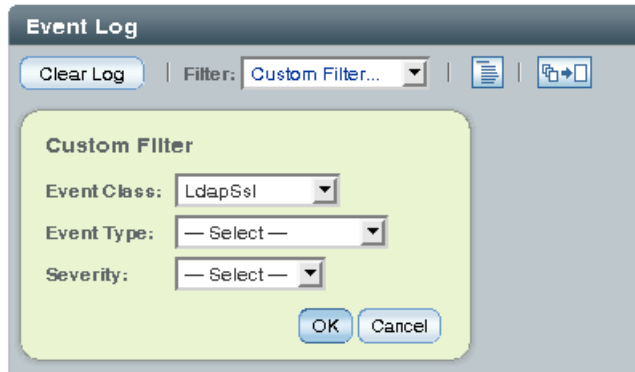
Alternate Servers				
Edit				
ID	address	Port	Certificate Status	
1	-	0	certificate not present	
2	-	0	certificate present [details]	
3	-	0	certificate not present	
4	-	0	certificate not present	
5	-	0	certificate not present	

「details」リンクをクリックすると、次の情報が表示されます。

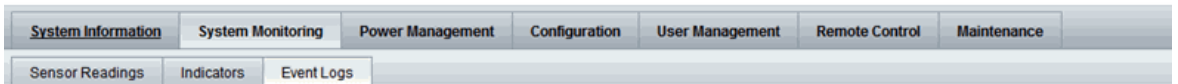
アイテム	説明
Issuer	証明書を発行した認証局。
Subject	証明書の対象となるサーバーまたはドメイン。
Valid From	証明書の有効期限の開始日。
Valid Until	証明書の有効期限の終了日。
Serial Number	証明書のシリアル番号。
Version	証明書のバージョン番号。

▼ LDAP/SSL 認証および承認をトラブルシューティングする

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「User Management」--> 「LDAP/SSL」を選択します。
「LDAP/SSL」ページが表示されます。
3. 「Log Detail」ドロップダウンリストで、イベントログに記録する詳細レベルを選択します。
「None」、「High」、「Medium」、「Low」、または「Trace」を選択できます。
4. 「Save」をクリックして変更を保存します。
5. イベントを生成するために認証を試みます。
 - a. 「System Monitoring」 --> 「Event Logs」を選択します。
 - b. 「Filter」ドロップダウンリストで、「Custom Filter」を選択します。



- c. 「Event Class」 ドロップダウンリストで、「LdapSsl」を選択します。
- d. 「OK」をクリックして変更を有効にします。
すべての LDAP/SSL イベントがイベントログに表示されます。



Event Log

Displays every event for the SP. Click the *Clear Log* button to delete all current log entries.

Event Log					
Clear Log Filter: All Events					
Event ID	Class	Type	Severity	Date/Time	Description
365	Audit	Log	minor	Fri Apr 30 00:06:53 2010	root: Delete : object = "/SP/users/user1" : value = "N/A" : success
364	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 23:53:30 2010	root: Open Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
363	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 23:43:11 2010	root: Close Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
362	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 23:18:02 2010	root: Set : object = "/SP/users/user1/password" : value = "*****" : success
361	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 23:18:02 2010	root: Set : object = "/SP/users/user1/role" : value = "auro" : success
360	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 23:18:02 2010	root: Create : object = "/SP/users/user1" : value = "N/A" : success
359	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 23:06:42 2010	root: Open Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
358	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 22:57:57 2010	root: Close Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
357	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 22:21:21 2010	root: Open Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
356	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 22:07:12 2010	root: Close Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
355	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 21:50:40 2010	root: Open Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
354	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 19:31:11 2010	root: Close Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
353	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 19:15:03 2010	root: Open Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
352	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 15:14:02 2010	root: Close Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
351	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 15:13:21 2010	root: Open Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
350	System	Log	critical	Thu Apr 29 15:03:18 2010	SP is about to reboot
349	System	Log	critical	Thu Apr 29 15:03:12 2010	upgrade to version 3.0.0.0 succeeded
348	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 14:54:50 2010	root: Open Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success
347	Audit	Log	minor	Wed Apr 28 13:24:13 2010	root: Close Session : object = "/SP/session/type" : value = "shell" : success
346	Audit	Log	minor	Wed Apr 28 13:20:17 2010	root: Open Session : object = "/SP/session/type" : value = "shell" : success
345	Audit	Log	minor	Wed Apr 28 12:33:22 2010	root: Close Session : object = "/SP/session/type" : value = "www" : success

RADIUS の設定

項目

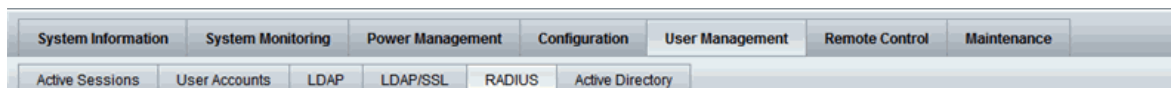
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
RADIUS を設定する	<ul style="list-style-type: none">78 ページの「RADIUS を設定する」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SPSPARC システムのサーバー SPCMM

インストールを開始する前に

- RADIUS の設定を行うには、User Management (u) の役割を有効にする必要があります。

▼ RADIUS を設定する

- ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
- 「User Management (ユーザー管理)」 --> 「RADIUS」を選択します。
「RADIUS Settings」ページが表示されます。



RADIUS Settings

Configure ILOM access for RADIUS users on this page. Select default roles for all of your RADIUS users, either Administrator, Operator or Advanced roles are available. Enter the Hostname or IP address of the RADIUS server, and the shared secret your RADIUS server uses to authenticate users.

State: Enabled

Roles: ▼

Admin (a) User Management (u)
 Console (c) Reset and Host Control (r)
 Read Only (o) Service (s)

Address:
IP Address or Hostname

Port:
The default is: 1812

Shared Secret:

3. 設定を完了します。

プロパティ (Web)	デフォルト値	説明
State	Disabled	Enabled Disabled RADIUS クライアントを有効にするか無効にするかを指定します。
Role	Operator	Administrator Operator Advanced Roles 認証されたすべての RADIUS ユーザーに付与されるアクセスの役割。このプロパティには、Administrator や Operator といった従来の役割に加え、a、u、c、r、o、s の各役割 ID を自由に組み合わせて指定できます。たとえば、aucrs となっている場合、a は Admin、u は User Management、c は Console、r は Reset and Host Control、o は Read-Only、s は Service を意味します。
Address	0.0.0.0	RADIUS サーバーの IP アドレスまたは DNS 名。DNS 名を使用する場合は、DNS が設定され機能していません。
Port	1812	RADIUS サーバーとの通信に使用するポート番号を指定します。デフォルトのポートは 1812 です。
Shared Secret	(none)	機密データを保護しクライアントとサーバーの相互認識を可能にするために使われる共有シークレットを指定します。

4. 「Save」をクリックして変更を有効にします。

第5章

システムコンポーネントの管理

項目

説明	リンク
システムコンポーネントを管理する	<ul style="list-style-type: none">• 82 ページの「コンポーネント情報の表示およびシステムコンポーネントの管理」• 84 ページの「コンポーネントを取り外す準備をする」• 84 ページの「コンポーネントをサービスに復帰させる」• 84 ページの「コンポーネントの有効および無効を切り替える」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	• 障害管理について	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
• CLI	• システムコンポーネントの管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

コンポーネント情報の表示およびシステムコンポーネントの管理

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">• 82 ページの「インストールを開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP
システムコンポーネントを表示および管理する	<ul style="list-style-type: none">• 82 ページの「コンポーネント情報を表示および変更する」• 84 ページの「コンポーネントを取り外す準備をする」• 84 ページの「コンポーネントをサービスに復帰させる」• 84 ページの「コンポーネントの有効および無効を切り替える」	<ul style="list-style-type: none">• CMM

インストールを開始する前に

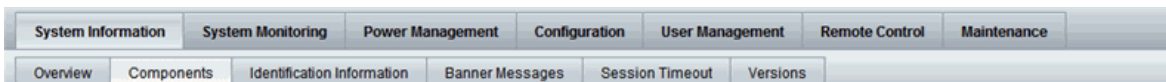
この節の手順を開始する前に、必ず、次の要件が満たされていることを確認してください。

- システムコンポーネントを管理するには、Reset and Host Control (r) の役割を有効にする必要があります。

▼ コンポーネント情報を表示および変更する

次の手順に従って、コンポーネント情報を表示および変更します。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Information (システム情報)」 --> 「Components (部品)」を選択します。「Component Management」ページが表示されます。



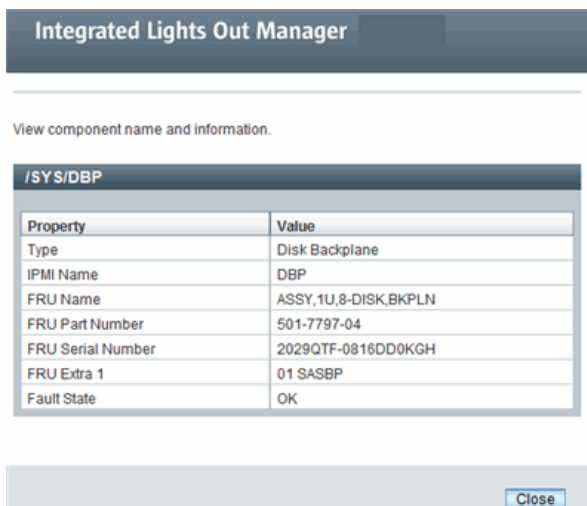
Component Management

View component information, or clear fault status from this page. To modify a component, select the radio button next to that component, then choose an option from the Action drop cannot be modified. To view further details, click on a Component Name.

Component Status			
Filter: <input type="text" value="All Components"/>			
<input type="checkbox"/>	Component Name	Type	Fault Status
<input type="checkbox"/>	/SYS	Host System	-
<input type="checkbox"/>	/SYS/DBP	Disk Backplane	OK
<input type="checkbox"/>	/SYS/DBP/DMC0	NVRAM	-
<input type="checkbox"/>	/SYS/DBP/HDD0	Hard Disk Module	-
<input type="checkbox"/>	/SYS/DBP/HDD1	Hard Disk Module	-
<input type="checkbox"/>	/SYS/DBP/HDD2	Hard Disk Module	-
<input type="checkbox"/>	/SYS/DBP/HDD3	Hard Disk Module	-

- コンポーネントで障害が発生している場合、コンポーネント名の左横にラジオボタンが表示されます。ラジオボタンをクリックして障害の状態を確認します。コンポーネント名の横にラジオボタンが表示されない場合は、コンポーネント名をクリックして状態を確認します。

選択した部品に関する情報を示すダイアログボックスが表示されます。次の図は例を示しています。



▼ コンポーネントを取り外す準備をする

次の手順に従って、コンポーネントを取り外す準備をします。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Information (システム情報)」 --> 「Components (部品)」を選択します。
3. 「Component Management」ページが表示されます。取り外すコンポーネントの横にあるラジオボタンを選択します。
ラジオボタンが表示されていない部品は取り外せません。
4. 「Actions」ドロップダウンリストから「Prepare to Remove」を選択します。

▼ コンポーネントをサービスに復帰させる

次の手順に従って、コンポーネントをサービスに復帰させます。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Information (システム情報)」 --> 「Components (部品)」を選択します。
「Component Management」ページが表示されます。
3. サービスに復帰させる部品の横にあるラジオボタンを選択します。
4. 「Actions」ドロップダウンリストから「Return to Service」を選択します。

▼ コンポーネントの有効および無効を切り替える

次の手順に従って、コンポーネントを有効または無効にします。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Information (システム情報)」 --> 「Components (部品)」を選択します。
「Component Management」ページが表示されます。
3. 有効または無効にする部品の横にあるラジオボタンを選択します。
4. 「Actions」ドロップダウンリストから「Enable (有効)」または「Disable (無効)」を選択します。
選択した内容に応じて、部品が有効または無効になります。

第6章

システムコンポーネントの監視

項目	
説明	リンク
センサー測定値の表示	<ul style="list-style-type: none">86 ページの「センサー測定値の表示」
システムインジケータ、クロック、およびタイムゾーン設定の構成	<ul style="list-style-type: none">87 ページの「システムインジケータの構成」88 ページの「クロック設定の構成」89 ページの「タイムゾーン設定の構成」
イベントログのフィルタ、表示、クリア、および構成	<ul style="list-style-type: none">89 ページの「イベントログ出力のフィルタ」91 ページの「ILOM イベントログの表示およびクリア」93 ページの「リモート syslog レシーバの IP アドレスの構成」
障害の状態の表示	<ul style="list-style-type: none">93 ページの「障害の表示およびクリア」

関連項目		
ILOM	章または節	マニュアル
<ul style="list-style-type: none">概念	<ul style="list-style-type: none">システム監視と警告管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
<ul style="list-style-type: none">CLI	<ul style="list-style-type: none">システムセンサー、インジケータ、および ILOM イベントログの監視	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)
<ul style="list-style-type: none">SNMP	<ul style="list-style-type: none">システムの監視	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』(820-7379)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

システムセンサー、インジケータ、および ILOM イベントログの監視

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
センサー測定値の表示	<ul style="list-style-type: none">86 ページの「センサー測定値の表示」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SPSPARC システムのサーバー SPCMM
システムインジケータの状態の変更	<ul style="list-style-type: none">87 ページの「システムインジケータの構成」	<ul style="list-style-type: none">CMM
クロック設定の表示および構成	<ul style="list-style-type: none">88 ページの「クロック設定の構成」	
タイムゾーン設定の構成	<ul style="list-style-type: none">89 ページの「タイムゾーン設定の構成」	
イベントログデータのフィルタの設定	<ul style="list-style-type: none">89 ページの「イベントログ出力のフィルタ」	
イベントログの表示およびクリア	<ul style="list-style-type: none">91 ページの「ILOM イベントログの表示およびクリア」	
リモート syslog レシーバの IP アドレスの設定	<ul style="list-style-type: none">93 ページの「リモート syslog レシーバの IP アドレスの構成」	
コンポーネントの障害の状態の表示	<ul style="list-style-type: none">93 ページの「障害の表示およびクリア」	<ul style="list-style-type: none">ほとんどの x86 システムサーバー SPほとんどの SPARC システムサーバー SPCMM

▼ センサー測定値の表示

センサー測定値を表示するには、次の手順に従います。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Monitoring」 --> 「Sensor Readings」を選択します。
「Sensor Readings (センサー測定値)」ページが表示されます。

注 – サーバーの電源が切断されている場合は、多くのコンポーネントが「測定値なし」として表示されます。

3. 「Sensor Reading (センサー測定値)」ページで、次の手順を実行します。

- a. 構成するセンサーの名前を見つけます。
- b. センサーの名前をクリックして、そのセンサーに関連付けられているプロパティ値を表示します。

アクセス可能なディスクリットセンサーのターゲットの種類とそれらにアクセスするためのパスの詳細は、Sun サーバープラットフォームに付属のユーザーマニュアルを参照してください。

▼ システムインジケータの構成

インストールを開始する前に

- インジケータの状態を構成するには、User Management (u) の役割を有効にする必要があります。

システムインジケータを構成するには、次の手順に従います。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Monitoring」 --> 「Indicators」を選択します。
「Indicators」ページが表示されます。

注 – サーバーの電源が切断されている場合は、多くのインジケータが「測定値なし」として表示されます。

3. 「Indicators」ページで、次の手順を実行します。

- a. 構成するインジケータの名前を見つけます。
- b. インジケータの状態を変更するには、変更するインジケータに関連付けられているラジオボタンをクリックします。次に、「Actions」ドロップダウンリストボックスをクリックして、「Turn LED Off」または「Set LED to Fast Blink」を選択します。
変更を確認するダイアログが表示されます。
- c. 「OK」をクリックして変更を確認します。

▼ クロック設定の構成

インストールを開始する前に

- クロック設定を表示および構成するには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。
- この手順を完了するには、NTP サーバーの IP アドレスが必要です。

クロック設定を構成するには、次の手順に従います。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration」 --> 「Clock」 を選択します。
「Clock Settings (クロック設定)」 ページが表示されます。
3. 「Clock Settings」 ページで、次のいずれかの処理を実行します。
 - 既存の設定を表示します。
 - ホストサーバー SP の日時を手動で設定します。手順 4 を参照してください。
 - ホストサーバー SP の日時を NTP サーバーと同期させます。手順 5 を参照してください。
4. ホストサーバー SP の日時を手動で設定するには、次の手順に従います。
 - a. 「Date (日付)」 テキストボックスに、mm/dd/yy の形式で日付を入力します。
 - b. 「Time」 ドロップダウンリストボックスで、時間と分を設定します。
 - c. 手順 6 に進みます。
5. NTP サーバーの IP アドレスを設定して同期を有効にするには、次の手順に従います。
 - a. 「Synchronize Time Using NTP (NTP を使用して時刻を同期する)」 の隣にある「Enabled (有効)」 チェックボックスを選択します。
 - b. 「Server 1」 テキストボックスに、使用する主 NTP サーバーの IP アドレスを入力します。
 - c. (省略可能) 「Server 2」 テキストボックスに、使用する副 NTP サーバーの IP アドレスを入力します。
6. 「Save」 をクリックして変更を有効にします。

次の点に関するプラットフォーム固有のクロック情報については、Sun サーバープラットフォームのユーザードキュメントを参照してください。

 - ILOM の現在の時間は SP を再起動しても維持されるかどうか。
 - ILOM の現在の時間をホストの起動時にホストと同期させることができるかどうか。
 - 時刻を格納するリアルタイムクロック要素があるかどうか。

▼ タイムゾーン設定の構成

インストールを開始する前に

- クロックのタイムゾーン設定を表示および構成するには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。

タイムゾーン設定を構成するには、次の手順に従います。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration」 --> 「Timezone」 を選択します。
「Timezone Settings」 ページが表示されます。
3. 「Timezone」 ドロップダウンリストを使用してタイムゾーンを選択します。

次の点に関するプラットフォーム固有のクロック情報については、Sun サーバプラットフォームのユーザードキュメントを参照してください。

- ILOM の現在の時間は SP を再起動しても維持されるかどうか。
- ILOM の現在の時間をホストの起動時にホストと同期させることができるかどうか。
- 時刻を格納するリアルタイムクロック要素があるかどうか。

▼ イベントログ出力のフィルタ

イベントログ出力をフィルタするには、次の手順に従います。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Monitoring」 --> 「Event Logs」 を選択します。
「Event Logs (イベントログ)」 ページが表示されます。

Event Log

Displays every event for the SP. Click the *Clear Log* button to delete all current log entries.

The screenshot shows the 'Event Log' interface. At the top, there is a 'Clear Log' button and a 'Filter' dropdown menu set to 'Custom Filter'. Below this is a 'Custom Filter' dialog box with three dropdown menus: 'Event Class' (set to '-- Select --'), 'Event Type' (set to '-- Select --'), and 'Severity' (set to '-- Select --'). There are 'OK' and 'Cancel' buttons at the bottom of the dialog. Below the dialog is a table of log entries with the following columns: Event ID, Class, Type, Severity, Date/Time, and Description.

Event ID	Class	Type	Severity	Date/Time	Description
365	Audit	Log	minor	Fri Apr 30 00:06:53 2010	root : Delete : object = "/SP/users/user1*": value = "N/A": success
364	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 23:53:30 2010	root : Open Session : object = "/SP/session/type": value = "www": success
363	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 23:43:11 2010	root : Close Session : object = "/SP/session/type": value = "www": success
362	Audit	Log	minor	Thu Apr 29 23:18:02 2010	root : Set : object = "/SP/users/user1/password": value = "*****": success

3. 「Event Log」 ページで、次の標準フィルタの中から選択します。

- All Events
- Class: Fault
- Type: Action
- Severity: Down
- Severity: Critical

4. また、次の図に示したカスタム出力フィルタの中から選択することもできます。

図の下の方に、各フィルタで使用できるオプションの一覧を示します。

イベントクラス	イベントタイプ	重要度
Developer	Log	Debug
Email	Connection	Down
Captive Shell	Send	Critical
Backup	Command Entered	Major
Restore	State	Minor
Reset	Action	
Chassis	Fault	
Audit	Repair	
IPMI	Warning	

イベントクラス	イベントタイプ	重要度
Fault		
System		
ActDir		

▼ ILOM イベントログの表示およびクリア

インストールを開始する前に

- イベントログを表示またはクリアするには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。

ILOM イベントログを表示およびクリアするには、次の手順に従います。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Monitoring」 --> 「Event Logs」を選択します。
「Event Logs (イベントログ)」ページが表示されます。
3. 「Event Logs (イベントログ)」ページで、次のいずれかの手順を実行します。
 - エントリ全体でページを操作する – テーブルの上部および下部にあるページナビゲーションコントロールを使用して、テーブル内の使用可能なデータを前後に移動します。
大量のエントリを選択すると、少数のエントリを選択した場合よりも Web インタフェースの応答が遅くなる場合があります。
 - 一覧をスクロールしてエントリを表示する – 次の表で、ログに表示される各列について説明します。

列のラベル	説明
Event ID	(1 番から順番に付けられた) イベントの番号。
Class/Type	<ul style="list-style-type: none"> • Audit/Log – 設定が変更されるコマンド。説明には、ユーザー、コマンド、コマンドパラメータ、成功と失敗が記述されます。 • IPMI/Log – IPMI SEL に記録されたイベントは、管理ログにも記録されます。 • Chassis/State – インベントリの変更および全般的なシステム状態の変更。 • Chassis/Action – サーバーのモジュールおよびシャーシの停止イベント、FRU のホットインサート/リムーバブル、および押された「Reset Parameters」ボタンのカテゴリ。 • Fault/Fault – 「Fault Management」の障害。説明には、障害が検出された時刻および疑わしいコンポーネントが記述されます。 • Fault/Repair – 「Fault」の修復。説明にはコンポーネントが表示されます。
Severity	「Debug」、「Down」、「Critical」、「Major」、または「Minor」。
Date/Time	イベントが発生した日時。時間情報プロトコル (NTP) サーバーで ILOM 時間を設定できる場合、ILOM クロックは協定世界時 (UTC) を使用します。
Description	イベントの説明。

- **イベントログをクリアする** – イベントログをクリアするには、「Clear Event Log」ボタンをクリックします。確認のダイアログが表示されます。確認ダイアログで「OK」をクリックすると、エントリがクリアされます。

注 – ILOM イベントログには、IPMI エントリのコピーを含むさまざまな種類のイベントが蓄積されます。ILOM イベントログをクリアすると、IPMI エントリを含むログ内のすべてのエントリがクリアされます。ただし、ILOM イベントログエントリをクリアしても、IPMI ログに直接送信された実際のエントリはクリアされません。

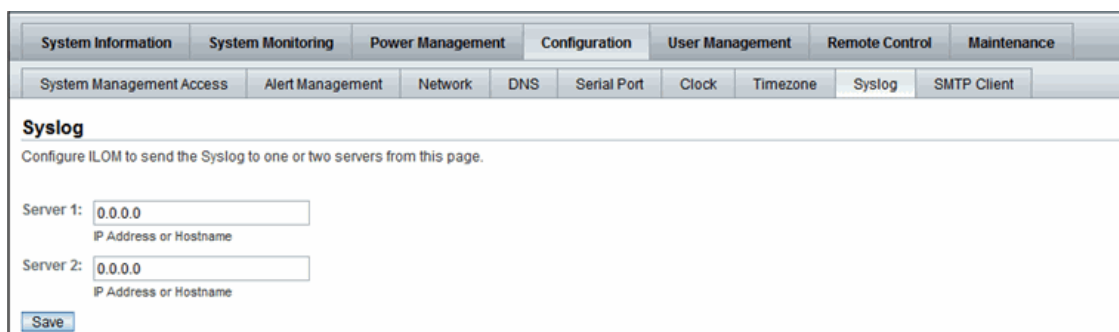
▼ リモート syslog レシーバの IP アドレスの構成

インストールを開始する前に

- リモート syslog レシーバの IP アドレスを構成するには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。

リモート syslog レシーバの IP アドレスを構成するには、次の手順に従います。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration」 --> 「Syslog」を選択します。
「Syslog」ページが表示されます。



System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance		
System Management Access	Alert Management	Network	DNS	Serial Port	Clock	Timezone	Syslog	SMTP Client

Syslog

Configure ILOM to send the Syslog to one or two servers from this page.

Server 1:
IP Address or Hostname

Server 2:
IP Address or Hostname

3. 「IP Address 1」および「IP Address 2」フィールドに、syslog データの送信先の 2 つの場所の IP アドレスを入力します。
4. 「Save」をクリックして設定を有効にします。

▼ 障害の表示およびクリア

インストールを開始する前に

- ILOM で障害をクリアするには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。また、サーバー SP または CMM に、ILOM ファームウェア 3.0.3 以降がインストールされている必要があります。

ILOM Web インタフェースを使用して障害を表示またはクリアするには、次の手順に従います。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。

2. ILOM によって検出された、障害の発生したコンポーネントの状態を表示するには、次の手順を実行します。
 - a. 「System Information」 --> 「Fault Management」 をクリックします。
「Fault Management」 ページが表示され、障害の発生したコンポーネントが、ID、FRU、およびタイムスタンプ別に一覧表示されます。
 - b. 障害の発生したコンポーネントのその他の情報を表示するには、そのコンポーネントの ID をクリックします。
障害の発生したコンポーネントのその他の情報がダイアログ内に表示されます。

注 – また、「Component Management」 ページで、コンポーネントの障害の状態を表示することもできます。「Component Management」 ページで障害の状態に関する情報を表示するには、コンポーネント名を選択します。

3. システム内の障害の発生したコンポーネントを修理または交換します。
障害の発生したコンポーネントの修理または交換が終わったあと、ILOM で障害の状態をクリアする必要があります。
4. ILOM で表示されている、障害の発生したコンポーネントの状態をクリアするには、次の手順を実行します。
 - a. 「System Information」 --> 「Components」 タブをクリックします。
 - b. 「Component Management」 ページで、障害の発生したコンポーネントの隣にあるラジオボタンを有効にして、「Clear Faults」 を選択します。

第7章

ストレージコンポーネントおよび Zone Manager の監視

項目

説明	リンク
HDD のストレージの詳細と RAID コントローラの表示および監視	<ul style="list-style-type: none">97 ページの「RAID コントローラの詳細の表示および監視」98 ページの「RAID コントローラに接続されているディスクの詳細の表示および監視」100 ページの「RAID コントローラのボリュームの詳細の表示および監視」
Zone Manager の有効化または無効化	<ul style="list-style-type: none">101 ページの「Zone Manager の有効化または無効化」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	• ストレージの監視およびゾーンの管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
• CLI	• ストレージコンポーネントおよび Zone Manager の監視	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

ストレージコンポーネントの表示および監視

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
HDD のストレージの詳細と RAID コントローラの表示および監視	<ul style="list-style-type: none">97 ページの「RAID コントローラの詳細の表示および監視」98 ページの「RAID コントローラに接続されているディスクの詳細の表示および監視」100 ページの「RAID コントローラのボリュームの詳細の表示および監視」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SP

インストールを開始する前に

- ストレージ監視機能が Oracle サーバーでサポートされていることを確認します。詳細については、サーバーの ILOM 補足ガイドまたはプラットフォーム管理ガイドを参照してください。
- ストレージ監視機能をサポートしている Oracle サーバーで ILOM のストレージ監視機能を使用するには、システム管理パックをダウンロードしてインストールする必要があります。この管理パックのダウンロード方法の詳細については、『Sun Server Hardware Management Pack ユーザーズガイド』(821-2181)を参照してください。
- ILOM 3.0.8 以降のバージョンの ILOM を使用する必要があります。
- 一部の Oracle サーバーでは、この章で説明されているストレージ監視機能のサポートを有効にすることができません。サーバーでストレージ監視機能のサポートが有効になっているかどうかを確認するには、サーバーの ILOM 補足ガイドまたはプラットフォーム管理ガイドを参照してください。
- ILOM のストレージ監視機能をサポートしている Oracle サーバーでストレージ監視機能を使用するには、システム管理パックをインストールする必要があります。この管理パックのダウンロード方法の詳細については、『Oracle Server Hardware Management Pack ユーザーズガイド』(821-2181)を参照してください。
- ストレージコンポーネントの表示および監視に関する概念情報と例については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)を参照してください。

▼ RAID コントローラの詳細の表示および監視

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. ILOM Web インタフェースで、「Storage」 --> 「RAID」 --> 「Controllers」 タブをクリックします。

「Controller Monitoring」 ページが表示され、システムにインストールされている RAID コントローラの構成の詳細が一覧表示されます。

Controller Monitoring

View information for RAID controllers. To get further details, click on a Controller Name. To view the topology for a controller, select the radio button next to that controller, and click *Show Topology*.

Controller Info

Show Topology

<input type="checkbox"/>	Controller Name	RAID Levels	Max Disks	Max RAIDs
<input type="radio"/>	controller@0d:00.0	0, 1, 1E	63	2
<input type="radio"/>	controller@0d:00.1	0, 1, 1E	63	2

3. インストールされている RAID コントローラのその他の詳細を表示するには、次の操作を行います。

- FRU プロパティとその値を表示するには、RAID コントローラ名をクリックします。

ダイアログが表示され、RAID コントローラの FRU プロパティとその値が一覧表示されます。

Property	Value
fru_manufacturer	LSI Logic
fru_model	0x0058
pci_vendor_id	0x00001000
pci_device_id	0x00000058
pci_subvendor_id	0x00001000
pci_subdevice_id	0x00003150
raid_levels	0, 1, 1E
max_disks	63
max_raids	2
max_hot_spare	0
max_global_hot_spare	2
min_stripe_size	0
max_stripe_size	0

- RAID コントローラのトポロジ情報を表示するには、RAID コントローラ名の隣にあるラジオボタンを選択して、「Show Topology」をクリックします。そのRAID コントローラのトポロジの詳細が表示されます。

Controller Topology

The controller topology below includes information for attached disks, configured RAID volumes, and disks that are part of each volume.

controller@0d:00.0			
Name	Status	Capacity (GB)	Device Name
disk_id0	-	136	/dev/sda
disk_id1	OK	136	/dev/sdb
disk_id2	OK	136	/dev/sdc
disk_id3	-	136	/dev/sdh
disk_id4	OK	136	/dev/sg4
disk_id5	-	136	/dev/sdf
disk_id6	-	136	/dev/sdd
disk_id7	OK	136	/dev/sg7
▶ raid_id4			Status: OK
▼ raid_id5			Status: OK
disk_id1	OK	136	/dev/sdb
disk_id2	OK	136	/dev/sdc

▼ RAID コントローラに接続されているディスクの詳細の表示および監視

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. ILOM Web インタフェースで、「Storage」 --> 「RAID」 --> 「Disks」 タブをクリックします。

「Disks Monitoring」 ページが表示され、RAID コントローラに接続されているディスクの構成の詳細が一覧表示されます。

Disk Monitoring

View information for all disks attached to RAID controllers. To view further details, click on a Disk Name.

Disk Name	Status	Serial Number	Capacity (GB)	Device Name
controller@0d:00.0/disk_id0	-	0998SX6X 3NM8SX6X	136	/dev/sda
controller@0d:00.0/disk_id1	OK	0998SX3L 3NM8SX3L	136	/dev/sdb
controller@0d:00.0/disk_id2	OK	0998T5PH 3NM8T5PH	136	/dev/sdc
controller@0d:00.0/disk_id3	-	0998MS6D 3NM8MS6D	136	/dev/sdh
controller@0d:00.0/disk_id4	OK	0998TS3A 3NM8TS3A	136	/dev/sg4
controller@0d:00.0/disk_id5	-	0998SVYT 3NM8SVYT	136	/dev/sdf
controller@0d:00.0/disk_id6	-	0998V37S 3NM8V37S	136	/dev/sdd
controller@0d:00.0/disk_id7	OK	0998TPGQ 3NM8TPGQ	136	/dev/sg7
controller@0d:00.1/disk_id0	-	0998SX6X 3NM8SX6Z	136	/dev/sdaz
controller@0d:00.1/disk_id1	-	0998SX3L 3NM8SX3Z	136	/dev/sdbz
controller@0d:00.1/disk_id2	-	0998T5PH 3NM8T5PZ	136	/dev/sdcz
controller@0d:00.1/disk_id3	-	0998MS6D 3NM8MS6Z	136	/dev/sdhz
controller@0d:00.1/disk_id4	OK	0998TS3A 3NM8TS3Z	136	/dev/sgz14
controller@0d:00.1/disk_id5	-	0998SVYT 3NM8SVYZ	136	/dev/sdfz
controller@0d:00.1/disk_id6	-	0998V37S 3NM8V37Z	136	/dev/sddz
controller@0d:00.1/disk_id7	OK	0998TPGQ 3NM8TPGZ	136	/dev/sgz17

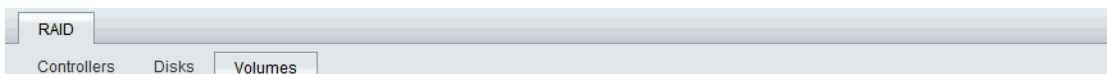
3. ディスクに関連付けられている FRU プロパティとその値を表示するには、ディスク名をクリックします。

ダイアログが表示され、ディスクの FRU プロパティとその値が一覧表示されます。

Property	Value
fru_manufacturer	SEAGATE
fru_serial_number	0998SX6X 3NM8SX6X
fru_part_number	ST914602SSUN146G
fru_version	0603
capacity	136
device_name	/dev/sda
disk_type	sas
system_drive_slot	/SYS/DBP/HDD0

▼ RAID コントローラのボリュームの詳細の表示 および監視

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. ILOM Web インタフェースで、「Storage」 --> 「RAID」 --> 「Volumes」 タブをクリックします。
「Volume Monitoring」 ページが表示され、RAID コントローラで構成されている RAID ボリュームの構成の詳細が一覧表示されます。



Volume Monitoring

View information for RAID volumes. To view further details, click on a Volume Name.

Volume Info				
Volume Name	Status	RAID Level	Capacity (GB)	Device Name
controller@0d:00.0/raid_id4	OK	1	135	/dev/sde
controller@0d:00.0/raid_id5	OK	1	135	/dev/sdef
controller@0d:00.1/raid_id6	OK	1	135	/dev/sdee

3. ボリュームに関連付けられている FRU プロパティとその値を表示するには、ボリューム名をクリックします。
ダイアログが表示され、ボリュームのプロパティとその値が一覧表示されます。

View volume information.

controller@0d:00.0/raid_id4	
Property	Value
level	1
status	OK
disk_capacity	135
device_name	/dev/sde

Zone Manager の有効化または無効化

Oracle の Sun Blade 6000 または Sun Blade 6048 モジュラーシステムでは、ILOM 3.0.10 以降に新しいゾーン管理機能が追加されています。ゾーン管理機能は、Oracle の Sun Blade 6000 または Sun Blade 6048 モジュラーシステムにインストールされている SAS-2 ストレージデバイスで使用できます。ILOM で SAS-2 シャーシストレージデバイスを管理する方法の詳細については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) CMM 管理ガイド – Sun Blade 6000/Sun Blade 6048 モジュラーシステム』(821-3083) を参照してください。

第8章

システム警告の管理

項目	
説明	リンク
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">• 104 ページの「インストールを開始する前に」
警告ルールを設定を管理する	<ul style="list-style-type: none">• 105 ページの「警告ルールを作成または編集する」• 106 ページの「警告ルールを無効にする」
テスト警告を生成して警告の設定が機能していることを確認する	<ul style="list-style-type: none">• 106 ページの「テスト警告を生成する」
警告ルールを保存する前にテスト電子メール警告を送信する	<ul style="list-style-type: none">• 107 ページの「特定の警告の宛先にテスト電子メール警告を送信する」
電子メールを使用してシステム警告を受信者に通知する	<ul style="list-style-type: none">• 108 ページの「SMTP クライアントを有効にする」
SNMP の MIB を ILOM から直接ダウンロードする	<ul style="list-style-type: none">• 109 ページの「SNMP の MIB をダウンロードする」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
<ul style="list-style-type: none">• 概念	<ul style="list-style-type: none">• システム監視と警告管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
<ul style="list-style-type: none">• CLI	<ul style="list-style-type: none">• システム警告の管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)
<ul style="list-style-type: none">• SNMP	<ul style="list-style-type: none">• 警告の管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』(820-7379)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

警告ルールの設定の管理

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">• 104 ページの「インストールを開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP
警告ルールを設定を管理する	<ul style="list-style-type: none">• 105 ページの「警告ルールを作成または編集する」• 106 ページの「警告ルールを無効にする」• 106 ページの「テスト警告を生成する」• 107 ページの「特定の警告の宛先にテスト電子メール警告を送信する」	<ul style="list-style-type: none">• CMM

インストールを開始する前に

- 電子メール通知警告を定義する場合は、電子メール通知の送信に使用する送信電子メールサーバーを ILOM で設定する必要があります。送信電子メールサーバーが設定されていないと、ILOM は正常に電子メール通知警告を生成できません。
- バージョンを SNMP v3 に設定して SNMP トラップ警告を定義する場合は、ILOM で SNMP ユーザーとして SNMP ユーザー名が定義されている必要があります。ILOM でユーザーが SNMP ユーザーとして定義されていないと、SNMP ユーザーは SNMP 警告メッセージを復号化できません。
- モジュラーシャーシシステムを使用している場合は、サーバー SP の警告ルール設定を CMM Web インタフェースから管理できます。CMM からサーバー SP の警告ルール設定を管理するには、ページの左フレームのサーバー SP (ブレード) を選択してから、ページの右フレームで「Configuration」 --> 「Alert Management」をクリックします。
- 警告ルール設定を管理するには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。
- テスト電子メール警告を送信するには、Read Only (o) の役割を有効にして、ILOM 3.0.4 以降のバージョンの ILOM を使用する必要があります。

▼ 警告ルールを作成または編集する

次の手順に従って、警告ルールを設定します。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「Alert Management (警告の管理)」を選択します。
「Alert Settings」ページが表示されます。

System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance		
System Management Access	Alert Management	Network	DNS	Serial Port	Clock	Timezone	Syslog	SMTP Client

Alert Settings

This shows the table of configured alerts. To send a test alert to a specific rule, select it and click the *Test Rule* button. IPMI Platform Event Traps (PETs), Email Alerts, and SNMP Traps. To configure an alert, click *Edit*.

Alerts				
Edit Test Rule				
<input type="checkbox"/>	Alert ID	Level	Alert Type	Destination Summary
<input type="radio"/>	1	disable	ipmipet	0.0.0.0
<input type="radio"/>	2	disable	ipmipet	0.0.0.0
<input type="radio"/>	3	disable	ipmipet	0.0.0.0
<input type="radio"/>	4	disable	ipmipet	0.0.0.0

3. 「Alert Settings」ページで、次の手順を実行します。
 - a. 作成または編集する警告ルールのラジオボタンを選択します。
 - b. 「Actions」ドロップダウンリストボックスで、「Edit (編集)」を選択します。
警告ルールに関連付けられたプロパティ値を示すダイアログが表示されます。
 - c. このプロパティダイアログボックスで、警告の種類、警告レベル、警告の宛先の値を指定します。
指定する警告の種類が SNMP トラップの場合、警告メッセージの受信を認証するためのコミュニティ名またはユーザー名の値を任意で定義できます。
警告ルールに指定できるプロパティ値の詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「警告管理について」を参照してください。
 - d. 「Save (保存)」をクリックして、指定した値を適用し、プロパティダイアログを閉じます。

▼ 警告ルールを無効にする

次の手順に従って、警告ルールを無効にします。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「Alert Management (警告の管理)」 を選択します。
「Alert Settings」 ページが表示されます。
3. 「Alert Settings」 ページで、無効にする警告ルールのラジオボタンを選択してから、「Actions」 ドロップダウンリストボックスの「Edit」 を選択します。
警告ルールについて定義可能なプロパティーを示すダイアログが表示されます。
4. このプロパティーダイアログボックスで、「Alert Levels (警告レベル)」 ドロップダウンリストボックスの「Disabled (無効)」 を選択します。
5. 「Save」 をクリックして、指定した値を適用し、プロパティーダイアログを閉じます。

▼ テスト警告を生成する

次の手順に従って、テスト警告を生成します。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「Alert Management (警告の管理)」 を選択します。
「Alert Settings」 ページが表示されます。
3. 「Alert Settings」 ページで、「Send Test Alert (警告のテスト送信)」 ボタンをクリックします。

ILOM は、「Alert Settings」 ページで有効になっている各警告ルール設定に対してテスト警告を生成します。

▼ 特定の警告の宛先にテスト電子メール警告を送信する

次の手順に従って、テスト電子メール警告を送信します。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「Alert Management (警告の管理)」を選択します。
「Alert Settings」ページが表示されます。
3. 「Alert Settings」ページで、次の手順を実行してテスト電子メール警告を送信します。
 - a. 警告ルールのラジオボタンを選択します。
 - b. 「Test Rule」ボタンをクリックして、テキスト電子メール警告を警告ルールの宛先に送信します。

電子メール通知警告用の SMTP クライアントの設定

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
電子メールを使用してシステム警告を受信者に通知する	<ul style="list-style-type: none">• 108 ページの「SMTP クライアントを有効にする」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP• CMM

インストールを開始する前に

- SMTP クライアントを有効にするには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。
- 設定済みの電子メール通知警告を生成するには、ILOM クライアントが SMTP クライアントとして動作し、電子メール警告メッセージを送信できるようにする必要があります。
- ILOM クライアントを SMTP クライアントとして有効にする前に、電子メール通知を処理する送信 SMTP 電子メールサーバーの IP アドレスとポート番号を確定してください。

▼ SMTP クライアントを有効にする

次の手順に従って、SMTP クライアントを有効にします。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration」 --> 「SMTP Client」 を選択します。
「SMTP Client」 ページが表示されます。
3. 「SMTP Client」 ページで、次の設定を指定して、電子メール通知警告の送信を有効にします。

SMTP 設定	説明
SMTP State	この状態を有効にするには、このチェックボックスを選択します。
SMTP Server IP	電子メール通知を処理する送信 SMTP 電子メールサーバーの IP アドレスを入力します。
SMTP Port	送信 SMTP 電子メールサーバーのポート番号を入力します。

4. 「Save (保存)」 をクリックして、SMTP 設定を適用します。

SNMP の MIB の ILOM からの直接ダウンロード

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
SNMP の MIB を ILOM から直接ダウンロードする	<ul style="list-style-type: none">• 109 ページの「SNMP の MIB をダウンロードする」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP• CMM

インストールを開始する前に

- SNMP の MIB を ILOM からダウンロードするには、Reset and Host Control (r) の役割が必要です。
- ILOM 3.0.4 以降のバージョンの ILOM を使用する必要があります。

▼ SNMP の MIB をダウンロードする

次の手順に従って、SNMP の MIB をダウンロードします。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration」 --> 「System Management Access」 --> 「SNMP」の順にクリックします。
「SNMP Management」ページが表示されます。
3. 「MIBs」ジャンプリンクをクリックするか、「MIBs」セクションまでスクロールダウンします。
ページの「MIBs」セクションが表示されます。

MIBs

The ILOM MIBs may be downloaded directly from the SP for use with an SNMP management application.

[Download](#)

[↶ Back to Top](#)

4. 「Download」をクリックして「Save」をクリックし、ファイルの保存先を入力します。
MIB を格納している zip ファイルが保存先サーバーに転送されます。

第9章

電源監視およびハードウェアインタフェースの管理

項目

説明	リンク
ILOM ファームウェアポイントリリース別の電力監視および管理機能の更新を識別する	<ul style="list-style-type: none">• 112 ページの「電源管理機能の更新の概要」
電源監視およびハードウェアインタフェースの管理の Web 手順	<ul style="list-style-type: none">• 114 ページの「システムの消費電力の監視」• 118 ページの「サーバーの電力使用量を管理するための電力ポリシーの設定」• 121 ページの「消費電力通知しきい値の設定」• 122 ページの「コンポーネント割り当て配電の監視と設定」• 130 ページの「サーバーの電力制限プロパティの設定」• 133 ページの「CMM の電源装置冗長性プロパティの監視または設定」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	• 電源監視およびハードウェアインタフェースの管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
• CLI	• 電源監視およびハードウェアインタフェースの管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。

http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights_mgr30#hic

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• SNMP	• 電源監視およびハードウェアインタフェースの管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』(820-7379)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

電源管理機能の更新の概要

表 9-1 に、ILOM 3.0 以降に行われた代表的な電力管理機能の拡張とドキュメントの更新内容を示します。

表 9-1 ILOM ファームウェアポイントリリース別の電源管理機能の更新

新規機能または拡張された機能	ファームウェアのポイントリリース	ドキュメントの変更内容	更新された Web 手順に関する参照先
消費電力メトリックを監視する	ILOM 3.0	<ul style="list-style-type: none">電源管理メトリックに関する新しい用語と定義「New System Monitoring」->「Power Management Consumption Metric」プロパティデバイスの消費電力を監視するための新しい CLI 手順と Web 手順を追加	<ul style="list-style-type: none">114 ページの「システムの消費電力の監視」
電力ポリシープロパティを設定する	ILOM 3.0	<ul style="list-style-type: none">新しい電力ポリシープロパティの説明電力ポリシーを設定するための新しい CLI 手順と Web 手順を追加	<ul style="list-style-type: none">118 ページの「サーバーの電力使用量を管理するための電力ポリシーの設定」
消費電力履歴を監視する	ILOM 3.0.3	<ul style="list-style-type: none">新しい消費電力履歴メトリック消費電力を監視するための新しい CLI 手順と Web 手順を追加	<ul style="list-style-type: none">116 ページの「電力統計情報と電力履歴を監視する」
消費電力通知しきい値を設定する	ILOM 3.0.4	<ul style="list-style-type: none">新しい消費電力通知しきい値の設定消費電力しきい値を設定するための新しい CLI 手順と Web 手順を追加	<ul style="list-style-type: none">121 ページの「消費電力通知しきい値の設定」
割り当て配電メトリックを監視する	ILOM 3.0.6	<ul style="list-style-type: none">新しいコンポーネント割り当て配電メトリック電力割り当てを監視するための新しい CLI 手順と Web 手順を追加ブレードスロットの許容電力を設定するための新しい CLI 手順と Web 手順を追加	<ul style="list-style-type: none">122 ページの「コンポーネント割り当て配電の監視と設定」

表 9-1 ILOM ファームウェアポイントリリース別の電源管理機能の更新 (続き)

新規機能または拡張された機能	ファームウェアのポイントリリース	ドキュメントの変更内容	更新された Web 手順に関する参照先
電力割当量プロパティを設定する	ILOM 3.0.6	<ul style="list-style-type: none"> 新しい電力割当量プロパティ 電力割当量プロパティを設定するための新しい CLI 手順と Web 手順を追加 	<ul style="list-style-type: none"> 130 ページの「サーバーの電力制限プロパティの設定」
CMM システムの電源冗長性プロパティを設定する	ILOM 3.0.6	<ul style="list-style-type: none"> CMM システムの新しい電源装置冗長性プロパティ CMM システムの電源装置冗長性プロパティを設定するための新しい CLI 手順と Web 手順を追加 	<ul style="list-style-type: none"> 133 ページの「CMM の電源装置冗長性プロパティの監視または設定」
サーバー電源の「Distribution」タブを「Allocation」タブに変更	ILOM 3.0.8	<ul style="list-style-type: none"> ILOM Web でサーバー SP 用の「Distribution」タブを「Allocation」タブに変更 サーバー電源割り当てプロパティを表示するための新しい Web 手順を追加 	<ul style="list-style-type: none"> 122 ページの「コンポーネント割り当て配電の監視と設定」
サーバーの「Budget」タブを「Limit」タブに変更	ILOM 3.0.8	<ul style="list-style-type: none"> ILOM Web でサーバー SP 用の「Budget」タブを「Limit」タブに変更 電源制限プロパティを設定するための新しい Web 手順を追加 	<ul style="list-style-type: none"> 130 ページの「サーバーの電力制限プロパティの設定」
Web インタフェースのレイアウトの更新 (CMM の「Power Management」)	ILOM 3.0.10	<ul style="list-style-type: none"> 新しい最上位タブ「Power Management」を ILOM Web インタフェースに追加 ILOM Web で CMM 用の「Power Consumption」タブのプロパティを変更 ILOM Web で CMM 用の「Distribution」タブを「Allocation」タブに変更 「Power Management Metrics」タブを CMM の ILOM Web インタフェースから削除 ブレードスロットの許可制限 (以前は割り当て可能電力と呼ばれていた) を設定するための Web 手順を更新 	<ul style="list-style-type: none"> 115 ページの「システムの消費電力を監視する」 125 ページの「CMM コンポーネントの電力割り当てを表示する」 129 ページの「ILOM 3.0.10 で CMM のブレードスロットの許可制限を設定する」 125 ページの「CMM コンポーネントの電力割り当てを表示する」
「Power Management」の「Statistic」タブ	ILOM 3.0.14	<ul style="list-style-type: none"> 「History」タブの「Power Statistics」テーブルを「Power Management」->「Statistics」タブに移動 	<ul style="list-style-type: none"> 116 ページの「電力統計情報と電力履歴を監視する」

システムの消費電力の監視

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
消費電力を監視する	<ul style="list-style-type: none">115 ページの「システムの消費電力を監視する」116 ページの「個々の電源装置の消費電力を監視する」	<ul style="list-style-type: none">x86 サーバー SPSPARC サーバーCMM
消費電力履歴を監視する	<ul style="list-style-type: none">116 ページの「電力統計情報と電力履歴を監視する」	<ul style="list-style-type: none">x86 サーバー SPSPARC サーバーCMM

インストールを開始する前に

- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』で定義されている電源監視の用語を確認します。
- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』のシステムの消費電力メトリックに関する節で説明されている Web インタフェースの強化を確認します。

注 – この章で説明する消費電力機能は、使用しているプラットフォームサーバーまたは CMM によっては実装されていない場合があります。この節で説明する消費電力機能が使用しているサーバーまたは CMM でサポートされているかどうかを確認するには、そのサーバー用に提供されている ILOM 補足マニュアルまたは管理マニュアルを参照してください。

- ILOM で最初に提供された消費電力メトリックにアクセスするには、ILOM 3.0 以降を実行している必要があります。消費電力履歴にアクセスするには、ILOM 3.0.3 以降を実行している必要があります。強化された消費電力プロパティおよび通知しきい値プロパティにアクセスするには、ILOM 3.0.4 以降を実行している必要があります。

注 – 消費電力履歴は、ILOM CLI および Web インタフェースを使用して提供されます。この情報は、IPMI や SNMP からは使用できません。

▼ システムの消費電力を監視する

1. サーバー SP または CMM の ILOM Web インタフェースにログインします。
2. ILOM Web インタフェースで、次のいずれかの手順を実行します。
 - ILOM 3.0.3 以降を使用している場合は、「Power Management」 --> 「Consumption」を選択します。
 - ILOM 3.0.3 より前の ILOM ファームウェアを実行している場合は、「System Monitoring」 --> 「Power Management」を選択します。
「Power Consumption」ページが表示されます。

注 - 電力の監視機能は、この機能のサーバープラットフォームへの実装によって異なります。詳細および手順については、プラットフォーム固有の ILOM 補足マニュアルまたはプラットフォーム管理マニュアルを参照してください。

3. 「Power Consumption」ページで、実電力、ターゲット制限、および許容ピークの電力メトリックを参照できます。

注 - 「Power Consumption」ページのプロパティは、サーバー SP については ILOM 3.0.8 で、CMM については ILOM 3.0.10 で更新されました。これらのプロパティの詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の電力メトリックの Web 強化に関する節を参照してください。

System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Re...
Consumption	Limit	Allocation	History		

Power Consumption

View actual system input power consumption, power consumption limit, and configure notification thresholds from this page. An l exceeds either threshold.

Actual Power: 10 watts
The input power the system is currently consuming.

Target Limit: 189 watts (*Limit on Peak Permitted.*)
Power capping is applied to achieve target limit.

Peak Permitted: 189 watts (*Configured limit is applied.*)
Maximum power the system will ever consume.

Notification Threshold 1: Enabled
0 watts
The default is: Disabled (0)

Notification Threshold 2: Enabled
0 watts
The default is: Disabled (0)

▼ 個々の電源装置の消費電力を監視する

- センサーの表示手順については、86 ページの「センサー測定値の表示」を参照してください。

▼ 電力統計情報と電力履歴を監視する

1. サーバー SP または CMM の ILOM Web インタフェースにログインします。
2. ILOM Web インタフェースで、次のいずれかの手順を実行します。
 - ILOM 3.0.3 より前の ILOM ファームウェアを実行している場合は、「System Monitoring」->「Power Management」を選択して「Power History」リンクをクリックします。
 - ILOM 3.0.3 以降を使用している場合は、「Power Management」->「History」を選択します。
 - ILOM 3.0.14 以降を使用している場合は、「Power Management」->「Statistics」を選択して電力統計情報を表示するか、「Power Management」->「History」を選択して電力履歴を表示します。

これらの電源監視履歴の用語については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の電源監視の用語に関する節を参照してください。

注 - ILOM 3.0.3 で「History」タブに表示されていた「Statistic」テーブルは、ILOM 3.0.14 では「Statistic」タブに移動しました。

■ CMM の電力履歴の例

Power History

Power Usage Average			
Sensor Name	15 Seconds Avg (Watts)	30 Seconds Avg (Watts)	60 Seconds Avg (Watts)
/CH/PS	1400.000	1400.000	1400.000
/CH/BL0/PS	No Data	No Data	No Data
/CH/BL1/PS	No Data	No Data	No Data
/CH/BL2/PS	No Data	No Data	No Data
/CH/BL3/PS	No Data	No Data	No Data
/CH/BL4/PS	No Data	No Data	No Data
/CH/BL5/PS	No Data	No Data	No Data
/CH/BL6/PS	No Data	No Data	No Data
/CH/BL7/PS	No Data	No Data	No Data
/CH/BL8/PS	10.000	10.000	10.000
/CH/BL9/PS	10.000	10.000	10.000

Power History						
Sensor Name	Sample Set	Min Power Consumed (Watts)	Avg Power Consumed (Watts)	Max Power Consumed (Watts)	Time Period	Depth
/CH/PS	0 (1 Minute Average, 1 Hour History)	1400.000 at Mar 22 01:47:24	1400.000	1400.000 at Mar 22 01:47:24	1 Minute Average	1 Hour History
/CH/PS	1 (1 Hour Average, 14 Day History)	1282.835 at Mar 21 05:49:25	1385.788	1400.000 at Mar 22 01:49:24	1 Hour Average	14 Day History
/CH/BL0/PS	0 (1 Minute Average, 1 Hour History)	No Data	No Data	No Data	1 Minute Average	1 Hour History

- 特定の期間にデバイスが消費した電力のサンプルデータセットを表示するには、「Power History」テーブルの「Sample Set」列のリンクをクリックします。

サーバーの電力使用量を管理するための電力ポリシーの設定

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
ポリシーを設定して消費電力を制御する	<ul style="list-style-type: none">• 119 ページの「消費電力ポリシーを設定する」	<ul style="list-style-type: none">• x86 サーバー SP (ILOM 3.0.4 より前)• SPARC サーバー
ポリシーを設定して電力上限を制御する	<ul style="list-style-type: none">• 120 ページの「電力上限のサーバー電力ポリシーを設定する」	<ul style="list-style-type: none">• x86 サーバー SP• SPARC サーバー

インストールを開始する前に

- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』で定義されている電源監視の用語を確認します。
- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の電力ポリシーの設定に関する節で説明されている Web インタフェースの強化を確認します。

注 – この節で説明する電力ポリシー機能は、使用しているプラットフォームサーバーまたは CMM によっては実装されていない場合があります。この節で説明する消費電力機能が使用しているサーバーまたは CMM でサポートされているかどうかを確認するには、そのサーバー用に提供されている ILOM 補足マニュアルまたは管理マニュアルを参照してください。

- x86 サーバー用の ILOM で消費電力ポリシーのプロパティを設定するには、Administrator (a) の役割の権限を持っていること、および ILOM 3.0.3 以前を実行していることが必要です。
- SPARC サーバー用の ILOM で消費電力ポリシーのプロパティを設定するには、Administrator (a) の役割の権限を持っていること、および ILOM 3.0 以降を実行していることが必要です。
- Web インタフェースの「Limit」タブで電力上限のポリシーを設定するには、Administrator (a) の役割の権限を持っていること、および ILOM 3.0.8 以降がサーバーにインストールされていることが必要です。

▼ 消費電力ポリシーを設定する

1. サーバー SP の Web インタフェースにログインします。
2. ILOM Web インタフェースで、次のいずれかの手順を実行します。
 - ILOM 3.0.3 以前を使用している場合は、「System Monitoring」-->「Power Management」を選択して「Power Policy」設定を表示します。
 - SPARC サーバーで ILOM 3.0.4 以降を使用している場合は、「Power Management」-->「Settings」を選択して「Power Policy」設定を表示します。

注 – 「Power Management Consumption」ページの「Power Policy」設定は、ILOM 3.0.4 で x86 サーバー用の ILOM Web インタフェースから削除されました。

3. 「Power Policy」リストボックスで、「Performance」または「Elastic」を選択します。
 - **Performance** – システムは、利用可能なすべての電力を使用できます。
 - **Elastic** – システムの電力使用量は、現在の使用率のレベルに合わせて変化します。たとえば、作業負荷が変動した場合でも、相対利用率が常に 70% で保持されるように、システムコンポーネントに供給する電力を増減します。

System Information	System Monitoring	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance
Sensor Readings	Indicators	Event Logs	Power Management		

Power Management

View and configure power management settings from this page.

⌵ Consumption ⌵ Settings

⌵ Power History

Consumption

Actual Power: 0.00 watts
Permitted Power: 762 watts
Available Power: 762 watts

[⤴ Back to Top](#)

Settings

Power Policy:

注 - 「Power Policy」設定は、ILOM 3.0.4 で x86 サーバー用の Web インタフェースと CLI インタフェースから削除されました。

4. 「Save」をクリックして新しい設定を適用します。

▼ 電力上限のサーバー電力ポリシーを設定する

1. サーバー SP の ILOM Web インタフェースにログインします。
2. ILOM Web インタフェースで、「Power Management」 --> 「Limit」タブを選択します。
3. 「Power Limit」ページで、次に示すように電力上限のポリシーを設定します。

プロパティ	説明
Policy	<p>「Policy」プロパティでは、電力上限ポリシーを設定できます。「Policy」プロパティでは、適用する電力上限の種類として次のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• Soft - Only cap if actual power exceeds Target Limit. - ソフト上限オプションを有効にすると、「Actual Power」を「Target Limit」内に戻すための猶予期間を設定できます。<ul style="list-style-type: none">- System Default - プラットフォームによって選択される最適な猶予期間。または- Custom - ユーザー指定の猶予期間。• Hard - Fixed cap keeps Peak Permitted power under Target Limit. - このオプションを有効にすると、電力上限が猶予期間なしで常に適用されます。
Violation Actions	<p>「Violation Actions」プロパティでは、設定された猶予期間内に電力制限を達成できなかった場合に ILOM で実行される設定を指定できます。</p> <p>次のいずれかのアクションを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• None - このオプションを有効にすると、電力制限を達成できなかった場合に、ILOM に「Status Error Message」が表示され、指定された電力制限を達成できないことが通知されます。または• Hard-Power-Off - このオプションを有効にすると、電力制限を達成できなかった場合に、ILOM で次のアクションが実行されます。<ul style="list-style-type: none">* 「Status Error Message」を表示します。* サーバーの強制電源切断を開始します。 <p>注 - 「Violation Actions」のデフォルトオプションは「None」です。</p>

注 - 電力上限のパフォーマンスを最適化するために、すべての詳細なサーバー電力制限プロパティでデフォルト値を使用することをお勧めします。

4. 電力制限プロパティの変更を適用するには、「Save」をクリックします。

消費電力通知しきい値の設定

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
消費電力通知しきい値を表示または設定する	<ul style="list-style-type: none">• 121 ページの「Web インタフェースを使用して通知しきい値を表示および設定する」	<ul style="list-style-type: none">• x86 サーバー• SPARC サーバー• CMM

インストールを開始する前に

- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』で定義されている電源監視の用語を確認します。
- ILOM 3.0.4 以降がサーバーまたは CMM にインストールされている必要があります。
- 消費電力の設定変数を変更するには、ILOM の Administrator (a) 権限が必要です。

▼ Web インタフェースを使用して通知しきい値を表示および設定する

1. サーバー SP または CMM の ILOM Web インタフェースにログインします。
2. Web インタフェースページで、「Power Management」-->「Consumption」をクリックします。
「Power Consumption」ページが表示されます。

3. 「Power Consumption」 ページで、次の手順を実行します。
 - a. 「Notification Threshold」 フィールドで、「Enabled」 チェックボックスを選択します。
 - b. プラットフォーム要件に基づいて、「Watts」 テキストボックスで通知しきい値を指定します。
 - c. 「Save」 をクリックして変更内容を適用します。

コンポーネント割り当て配電の監視と設定

項目	説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
サーバーまたは CMM のコンポーネント割り当てメトリックを表示する	<ul style="list-style-type: none"> • 123 ページの「サーバーコンポーネントの電力割り当てを表示する」 • 125 ページの「CMM コンポーネントの電力割り当てを表示する」 	<ul style="list-style-type: none"> • x86 サーバー • SPARC サーバー • CMM 	
シャーシのブレードスロットの許容電力を設定する	<ul style="list-style-type: none"> • 128 ページの「ILOM 3.0.6 で CMM のブレードスロットの許容電力を設定する」 • 129 ページの「ILOM 3.0.10 で CMM のブレードスロットの許可制限を設定する」 	<ul style="list-style-type: none"> • CMM 	

インストールを開始する前に

- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』 で定義されている電源監視の用語を確認します。
- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』 でコンポーネント割り当て配電に関する概念情報を確認します。
- ILOM 3.0.6 以降がサーバー SP または CMM にインストールされている必要があります。この節で説明する手順の中には、サーバー SP または CMM で ILOM 3.0.10 以降を実行していることが必要なものもあります (記載がある場合)。
- 消費電力または割り当ての設定変数を変更するには、ILOM の Administrator (a) 権限が必要です。

注 - ILOM 3.0.8 で、サーバー SP の「Power Management」 --> 「Distribution」 タブは「Allocation」に名前変更されました。ILOM 3.0.10 で、CMM の「Power Management」 --> 「Distribution」 タブは「Allocation」に名前変更されました。

▼ サーバーコンポーネントの電力割り当てを表示する

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. Web インタフェースで、次のいずれかの手順を実行します。
 - ILOM 3.0.6 を使用している場合は、「Power Management」 --> 「Distribution」タブを選択します。
 - ILOM 3.0.8 以降を使用している場合は、「Power Management」 --> 「Allocation」タブを選択します。

「Power Distribution」または「Power Allocation Plan」ページが表示されます。

System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Remote Control
Consumption	Limit	Allocation	History		

Power Allocation Plan

View system power requirements for capacity planning.

System Power Map

Power Values	Watts	Notes
Allocated Power	225	Power allocated for installed and hot pluggable components
Installed Hardware Minimum	21	Minimum power drawn by installed components
Peak Permitted Power	189	Configured limit is applied
Target Limit	189	Limits <i>Peak Permitted Power</i>

Per Component Power Map

Component	Allocated Power (Watts)	Can be C
CPUs (total)	60	Yes
MB_P0	60	Yes
memory (total)	10	No
MB_P0_D8	10	No
I/O (total)	80	No
HDD0	8	No
HDD1	8	No
HDD2	8	No
HDD3	8	No
MB_REM	18	No

3. 電力割り当てテーブルで、電力容量計画用の次のシステム電力要件を表示します。
 - **System Power Map** – このテーブルは、システム電力プロパティ「Allocated Power」、「Installed Hardware Minimum」、「Peak Permitted Power」、および「Target Limit」に割り当てられた電力の合計を示す値 (ワット単位) を反映しています。
 - **Per Component Power Map** – このテーブルは、サーバーコンポーネントカテゴリ (メモリーなど) およびサーバーコンポーネント (ME_PO_D0 など) ごとに割り当てられた電力を示す値 (ワット単位) を反映しています。また、割り当てられた電力値を制限できるかどうかを示します。

▼ ILOM 3.0.8 でサーバーの電力制限プロパティを設定する

1. サーバー SP の ILOM Web インタフェースにログインします。
2. ILOM Web インタフェースで、「Power Management」-->「Limit」タブを選択します。

注 – 「Power Management」-->「Distribution」タブは ILOM 3.0.8 で「Limit」に名前変更されました。

「Power Limit」ページが表示されます。

3. 「Power Limit」ページで、次の電力制限プロパティを表示または変更します。

電力制限プロパティ	説明
Power Limiting	電力制限を設定できるようにするには、このプロパティを有効にします。
Target Limit	「Target Limit」をワット単位またはパーセントで設定します。この値は、「Installed Hardware Minimum Power」と「Allocated Power」の間の範囲を反映しているはずですが、 注 – 「Installed Hardware Minimum Power」と「Allocated Power」の値は「Power Management」-->「Allocation」タブで参照できます。

電力制限プロパティ	説明
Policy	<p>「Policy」プロパティでは、電力上限ポリシーを設定できます。「Policy」プロパティでは、適用する電力上限の種類として次のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Soft – Only cap if actual power exceeds Target Limit. – ソフト上限オプションを有効にすると、「Actual Power」を「Target Limit」内に戻すための猶予期間を設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> - System Default – プラットフォームによって選択される最適な猶予期間。 または - Custom – ユーザー指定の猶予期間。 • Hard – Fixed cap keeps Peak Permitted power under Target Limit. – ハード上限オプションを有効にすると、電力上限が猶予期間なしで常に適用されます。
Violation Actions	<p>「Violation Actions」プロパティでは、設定された猶予期間内に電力制限を達成できなかった場合に ILOM で実行される設定を指定できます。次のいずれかのアクションを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • None – このオプションを有効にすると、電力制限を達成できなかった場合に、ILOM に「Status Error Message」が表示され、指定された電力制限を達成できないことが通知されます。 または • Hard-Power-Off – このオプションを選択すると、電力制限を達成できなかった場合に、ILOM で次のアクションが実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> * 「Status Error Message」を表示します。 * サーバーの強制電源切断を開始します。 <p>注 – 「Violation Actions」のデフォルトオプションは「None」です。</p>

注 – 電力上限のパフォーマンスを最適化するために、すべての詳細なサーバー電力制限プロパティでデフォルト値を使用することをお勧めします。

4. 電力制限プロパティの変更を適用するには、「Save」をクリックします。

▼ CMM コンポーネントの電力割り当てを表示する

1. ILOM CMM Web インタフェースにログインします。
2. CMM Web インタフェースページの左区画で CMM を選択し、次のいずれかの手順を実行します。
 - ILOM 3.0.6 以降を実行している場合は、「Power Management」-->「Distribution」タブを選択します。
 - ILOM 3.0.10 以降を実行している場合は、「Power Management」-->「Allocation」タブを選択します。

注 – CMM の「Power Management」 --> 「Distribution」 タブは ILOM 3.0.10 で「Allocation」に名前変更されました。

CMM の「Power Allocation Plan」ページが表示されます。

System Information	System Monitoring	Power Management	Storage	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance
Consumption	Allocation	Redundancy	History				

Power Allocation Plan

View system power requirements for capacity planning and configure the maximum power granted to blades at power on.

System Power Specification		
Power Values	Watts	Notes
Power Supply Maximum	12800	Maximum power the available PSUs can draw
Redundant Power	6400	Amount of <i>Power Supply Maximum</i> reserved by redundancy policy
Peak Permitted	6400	Maximum power the system is permitted to consume (redundancy policy is applied)
Allocated Power	3757	Sum of <i>Allocated Power</i> for chassis components and <i>Granted Power</i> for blades

Blade Power Map

Blades request *Required Power* at blade power on, and in response to changes in power capping configuration. If the requested power is not granted, the blade will not power on.

Blade Slot Power Summary		
Power Values	Watts	Notes
Grantable Power	2543	Remaining power the system can grant to blades without exceeding <i>Peak Permitted</i>
Unfilled Grant Requests	1356	Sum of <i>Required Power</i> for blades that have not yet been granted power

Blade Power Grants			
Edit			
Blade Slot	Grant Limit (Watts)	Required Power (Watts)	Granted Power (Watts)
- TOTAL	-	1919 (total)	583 (total)
0	1200	183	183
1	800	Empty Slot	-
2	1100	Empty Slot	-
3	1200	Empty Slot	-
4	1200	234	234
5	1200 (Ignored - auto-powered I/O blade)	146	146
6	1200	389	0
7	1200	371	0
8	1200	371	0
9	1200	225	0

Chassis Component Slot Power Map	
Component	Allocated Power (Watts)
TOTAL	3156 (total)
Reserved for Auto-Powered I/O Blades	1022
NEMs (total)	60 (total)
NEM0	60
NEM1	0
Fans (total)	456 (total)
FM0	64
FM1	64
FM2	64
FM3	64
FM4	64
FM5	64
PS0_FAN0	18
PS0_FAN1	18

3. CMM の「Power Allocation Plan」 ページで、電力割り当ての値を表示します。

- ILOM 3.0.6 以降の場合、これらの CMM 電力割り当ての値は次のように表示されます。

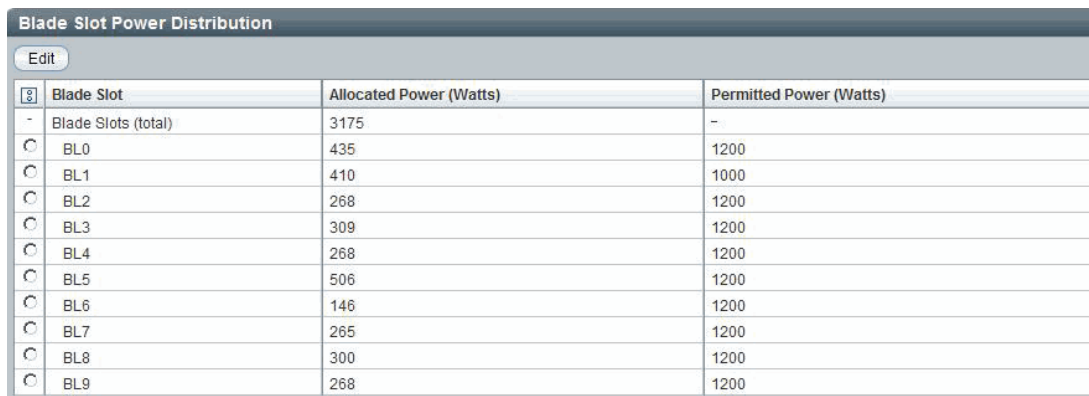
更新されたプロパティ名	詳細
Allocated Power	システムシャーシ内のすべての電力消費 CMM コンポーネントに割り当てられた電力の合計を示す値 (ワット単位)。
Allocatable Power	CMM がブレードスロットに割り当て可能な残りの電力の合計 (ワット単位)。
Blade Slot Power Distribution	次の電力割り当ての値を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• Allocated Power – このスロットのサーバーモジュール (ブレード) に割り当てられた電力の合計 (ワット単位)。CMM は常に、I/O サーバーモジュールが存在するかどうかに関係なく、未管理の I/O サーバーモジュールを処理するために十分な電力を割り当てます。• Permitted Power – このブレードスロットのサーバーモジュールに許可された最大電力割り当て。 <p>注 – サーバーモジュールスロットに割り当てられた許容電力を変更するには、128 ページの「ILOM 3.0.6 で CMM のブレードスロットの許容電力を設定する」を参照してください。</p>
Component Power Distribution	システム内のブレード以外の各コンポーネントに割り当てられた電力を表示します。

- ILOM 3.0.10 以降の場合、これらの CMM 電力割り当ての値は次のように表示されます。

更新されたプロパティ名	詳細
Grantable Power (名前が変更されたプロパティ)	ILOM 3.0.6 の「Allocatable Power」は ILOM 3.0.10 で「Grantable Power」に名前変更されました。 「Grantable Power」は、CMM が許可制限を超えることなくブレードスロットに割り当て可能な残りの電力の合計 (ワット単位) を示します。
Grant Limit (名前が変更されたプロパティ)	ILOM 3.0.6 の「Permitted Power」は ILOM 3.0.10 で「Grant Limit」に名前変更されました。 「Grant Limit」は、システムがブレードスロットに許可する最大電力を表します。ブレードの許可制限を設定する手順については、128 ページの「ILOM 3.0.6 で CMM のブレードスロットの許容電力を設定する」を参照してください。
Granted Power (名前が変更されたプロパティ)	ILOM 3.0.6 の「Allocated Power」は ILOM 3.0.10 で「Granted Power」に名前変更されました。 「Granted Power」は、単一のサーバーコンポーネント別 (メモリーモジュールなど)、サーバーコンポーネントのカテゴリ別 (すべてのメモリーモジュール)、またはすべてのサーバー電力消費コンポーネント別のいずれかで、最大消費電力の合計を表します。

▼ ILOM 3.0.6 で CMM のブレードスロットの許容電力を設定する

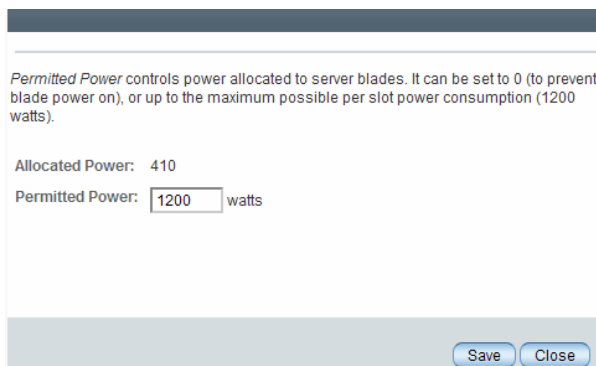
1. ILOM CMM Web インタフェースにログインします。
2. Web インタフェースページの左区画で CMM を選択し、「Power Management」 --> 「Distribution」 タブを選択します。
3. 「Blade Slot Power Distribution」 テーブルまでスクロールダウンします。



	Blade Slot	Allocated Power (Watts)	Permitted Power (Watts)
-	Blade Slots (total)	3175	-
<input type="radio"/>	BL0	435	1200
<input type="radio"/>	BL1	410	1000
<input type="radio"/>	BL2	268	1200
<input type="radio"/>	BL3	309	1200
<input type="radio"/>	BL4	268	1200
<input type="radio"/>	BL5	506	1200
<input type="radio"/>	BL6	146	1200
<input type="radio"/>	BL7	265	1200
<input type="radio"/>	BL8	300	1200
<input type="radio"/>	BL9	268	1200

4. 「Blade Slot Power Distribution」 テーブルで、次の手順を実行します。
 - a. 許容電力割り当てを変更するブレードスロットのラジオボタンを選択します。
 - b. 「Edit (編集)」 をクリックします。

「Allocated Power」 および 「Permitted Power」 の値に関する情報を示すダイアログが表示されます。



Permitted Power controls power allocated to server blades. It can be set to 0 (to prevent blade power on), or up to the maximum possible per slot power consumption (1200 watts).

Allocated Power: 410

Permitted Power: watts

- c. ダイアログで 「Permitted Power」 の値を変更し、「Save」 をクリックします。

注 – サーバーモジュールに電源が投入されないようにするために、「Permitted Power」の値を 0 に設定できます。

▼ ILOM 3.0.10 で CMM のブレードスロットの許可制限を設定する

1. CMM の ILOM Web インタフェースにログインします。

注 – ILOM でブレードスロットの電力プロパティ値を変更するには、Admin (a) の役割を持つユーザーアカウントが必要です。

2. Web インタフェースページの左区画で CMM を選択し、Web インタフェースページの右区画で「Power Management」-->「Allocation」タブを選択します。

CMM の「Power Allocation」ページが表示されます。

3. 「Blade Slot Grants」テーブルまでスクロールダウンします。

Blade Power Grants				
<input type="button" value="Edit"/>				
<input type="checkbox"/>	Blade Slot	Grant Limit (Watts)	Required Power (Watts)	Granted Power (W)
-	TOTAL	-	1919 (total)	952 (total)
<input type="radio"/>	0	1200	183	183
<input type="radio"/>	1	800	Empty Slot	-
<input type="radio"/>	2	1100	Empty Slot	-
<input type="radio"/>	3	1200	Empty Slot	-
<input type="radio"/>	4	1200	234	234
<input type="radio"/>	5	1200 (ignored - auto-powered I/O blade)	146	146
<input type="radio"/>	6	1200	389	389
<input type="radio"/>	7	1200	371	0
<input type="radio"/>	8	1200	371	0
<input type="radio"/>	9	1200	225	0

4. 「Blade Slot Grants」テーブルで、次の手順を実行します。
 - a. 変更するブレードスロットのラジオボタンを選択します。
 - b. 「Edit (編集)」をクリックします。
ブレードの電力設定情報を示すダイアログが表示されます。

- c. ダイアログで「Custom」を選択し、ワット数の値を指定して「Grant Limit」の値を変更し、「Save」をクリックします。

注 – ブレードに電源が投入されないようにするために、「Grant Limit」の値を 0 に設定できます。

サーバーの電力制限プロパティの設定

項目	リンク	プラットフォームの機能のサポート
サーバー SP の電力制限プロパティを設定する	<ul style="list-style-type: none"> • 131 ページの「サーバーの電力制限プロパティを設定する」 	<ul style="list-style-type: none"> • x86 サーバー • SPARC サーバー

インストールを開始する前に

- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』で定義されている電源監視の用語を確認します。
- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 概念ガイド』でサーバーの電力制限 (またはサーバーの電力割当量) に関する概念情報を確認します。
- サーバーの電力制限プロパティを設定するには、ILOM 3.0.6 以降がサーバーにインストールされている必要があります。
- 電源管理の設定変数を変更するには、ILOM の Administrator (a) 権限が必要です。

注 – ILOM 3.0.8 で、サーバー SP の「Power Management」-->「Budget」タブは「Limit」に名前変更されました。

▼ サーバーの電力制限プロパティを設定する

1. サーバー SP の ILOM Web インタフェースにログインします。
2. ILOM Web インタフェースで、次のいずれかの手順を実行します。
 - ILOM 3.0.6 を使用している場合は、「Power Management」-->「Budget」タブを選択します。
 - ILOM 3.0.8 以降を使用している場合は、「Power Management」-->「Limit」タブを選択します。
3. 「Power Limit」ページで、次に示すように、次の電力制限プロパティを表示または変更します。

電力制限プロパティ	説明
Power Limiting	電力制限を設定できるようにするには、このプロパティを有効にします。 注 – 「Power Limiting」は、ILOM 3.0.6 では「Budget」タブの「Activation State」という名前でした。
Target Limit	「Target Limit」をワット単位またはパーセントで設定します。この値は、「Installed Hardware Minimum Power」と「Allocated Power」の間の範囲を反映しているはずですが。 注 – 「Target Limit」は、ILOM 3.0.6 では「Budget」タブの「Power Limit」という名前でした。 注 – 「Installed Hardware Minimum Power」と「Allocated Power」の値は「Power Management」-->「Allocation」タブで参照できます。

電力制限プロパティ	説明
Status Error Message	<p>「Status Error Message」読み取り専用プロパティは、設定された電力制限を達成できなかった場合にのみ「Limit」ページに表示されます。</p> <p>注 – 「Status Error Message」読み取り専用プロパティは、ILOM 3.0.6 では「Budget」タブの「Status」という名前でした。</p>
Policy	<p>「Policy」プロパティでは、電力上限ポリシーを設定できます。「Policy」プロパティでは、適用する電力上限の種類として次のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Soft – Only cap if actual power exceeds Target Limit. – ソフト上限オプションを有効にすると、「Actual Power」を「Target Limit」内に戻すための猶予期間を設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> - System Default – プラットフォームによって選択される最適な猶予期間。 または - Custom – ユーザー指定の猶予期間。 • Hard – Fixed cap keeps Peak Permitted power under Target Limit. – ハード上限オプションを有効にすると、電力上限が猶予期間なしで常に適用されます。 <p>注 – 「Policy」は、ILOM 3.0.6 では「Budget」タブの「Time Limit」という名前でした。</p>
Violation Actions	<p>「Violation Actions」プロパティでは、設定された猶予期間内に電力制限を達成できなかった場合に ILOM で実行される設定を指定できます。</p> <p>次のいずれかのアクションを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • None – このオプションを有効にすると、電力制限を達成できなかった場合に、ILOM に「Status Error Message」が表示され、指定された電力制限を達成できないことが通知されます。 または • Hard-Power-Off – このオプションを有効にすると、電力制限を達成できなかった場合に、ILOM で次のアクションが実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> * 「Status Error Message」を表示します。 * サーバーの強制電源切断を開始します。 <p>注 – 「Violation Actions」のデフォルトオプションは「None」です。</p>

注 – 電力上限のパフォーマンスを最適化するために、すべての詳細なサーバー電力制限プロパティでデフォルト値を使用することをお勧めします。

4. 電力制限プロパティの変更を適用するには、「Save」をクリックします。

CMM の電源装置冗長性プロパティの監視または設定

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
CMM の電源装置冗長性プロパティを監視または設定する	<ul style="list-style-type: none">133 ページの「CMM の電源装置冗長性プロパティを表示または設定する」	<ul style="list-style-type: none">CMM

インストールを開始する前に

- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』で定義されている電源監視の用語を確認します。
- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』で CMM システムの電源装置冗長性に関する概念情報を確認します。
- CMM の電源装置冗長性プロパティを設定するには、ILOM 3.0.6 以降がサーバーにインストールされている必要があります。
- 電源管理の設定変数を変更するには、ILOM の Administrator (a) の役割の権限が必要です。

▼ CMM の電源装置冗長性プロパティを表示または設定する

1. ILOM CMM Web インタフェースにログインします。
2. CMM の Web インタフェースの左区画で CMM を選択し、Web インタフェースページの右区画で「Power Management」-->「Redundancy」タブを選択します。
「Power Management Redundancy」ページが表示されます。
3. 「Redundancy」ページで、プロパティを表示または設定します。
 - **Power Supply Redundancy Policy** - 冗長用に割り当てる電源装置の数を選択します。
 - **None** - 電源装置を予約しません。
 - **N+N** - 電源装置の半数を予約します。

注 - 冗長性ポリシーを変更すると、サーバーモジュール (ブレード) に割り当てるための CMM の許容電力量に影響します。シャーシの「Permitted Power」は、使用可能な電源装置から提供される電力から使用可能な冗長電力を引いた値に設定されます。また、システムで使用可能な冗長電力がない場合は、1つの電源装置が失われると、システムは「Permitted Power」を削減します。「Permitted Power」がすでに割り当てられている電力量より小さい値に減らされた場合は、サーバーモジュールをオフにして割り当てられた電力を減らす手順をすぐに実行してください。

- **Redundant Power** - この値はシステムによって提示されます。割り当てられていない使用可能な電力を表します。

4. 「Save」をクリックして変更内容を適用します。

第10章

ILOM 設定のバックアップおよび復元

項目

説明	リンク
ILOM 設定をバックアップする	• 136 ページの「ILOM 設定をバックアップする」
ILOM 設定を復元する	• 139 ページの「ILOM 設定を復元する」
ILOM 設定をデフォルト設定にリセットする	• 145 ページの「ILOM 設定をデフォルトにリセットする」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	• 設定の管理とファームウェアの更新	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
• CLI	• ILOM 設定のバックアップおよび復元	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

ILOM 設定のバックアップ

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
ILOM 設定をバックアップする	<ul style="list-style-type: none">• 136 ページの「ILOM 設定をバックアップする」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP• CMM

インストールを開始する前に

- ILOM 設定をバックアップするには、Admin (a)、User Management (u)、Console (c)、Reset and Host Control (r)、および Read Only (o) の役割を有効にする必要があります。
- 上記の役割を持たないユーザーアカウントを使用すると、作成される設定バックアップファイルに ILOM SP 設定のすべてのデータが含まれなくなる場合があります。

▼ ILOM 設定をバックアップする

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Maintenance」 --> 「Backup/Restore」を選択します。
「Configuration Backup/Restore」 ページが表示されます。

System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance
Firmware Upgrade	Backup/Restore	Configuration Management	Reset SP	Snapshot		

Configuration Backup/Restore

Perform system configuration backup or restore from this page. Select Backup or Restore from *Operation* menu. Choose a *Transfer Method* and fill in all required fields. You may ch data within a backup file or for decrypting such data when restoring a configuration. If a passphrase is not specified, then sensitive data will not be included in the backup file. Click f

Operation:

Transfer Method:

The downloaded file will be saved according to your browser settings.

Passphrase:

Confirm Passphrase:

3. 「Operation」 ドロップダウンリストから「Backup」を選択します。
4. 「Transfer Method」ドロップダウンリストから転送方法を選択します。
次の転送方法を使用できます。
 - Browser
 - TFTP
 - FTP
 - SFTP
 - SCP
 - HTTP
 - HTTPS
5. 「Browser」転送方法を選択すると、バックアップファイルはブラウザの設定に従って保存されます。
6. 「TFTP」転送方法を選択すると、次の図に示すプロンプトが表示され、次の情報を入力する必要があります。
 - **Host** – リモートホストの IP アドレスか、DNS を設定している場合はリモートホストの名前を入力します。
 - **Filepath** – 設定ファイルの保存先のパスを `directoryPath/filename` 形式で入力します。

Operation:

Transfer Method:

Host: Filepath:

7. 「SCP」、「FTP」、「SFTP」、「HTTP」、または「HTTPS」転送方法を選択すると、次の図に示すプロンプトが表示され、次の情報を入力する必要があります。
- **Host** – リモートホストの IP アドレスか、DNS を設定している場合はリモートホストの名前を入力します。
 - **Filepath** – 設定ファイルの保存先のパスを `directoryPath/filename` 形式で入力します。
 - **Username** – リモートシステムでのアカウントのユーザー名を入力します。
 - **Password** – リモートシステムでのアカウントのパスワードを入力します。

Operation:	<input type="text" value="Backup"/>		
Transfer Method:	<input type="text" value="SCP"/>		
Host:	<input type="text"/>	Filepath:	<input type="text"/>
Username:	<input type="text"/>	Password:	<input type="text"/>

8. パスワード、SSH 鍵、証明書などの機密データをバックアップする場合は、パスフレーズを入力する必要があります。「Passphrase」フィールドにパスフレーズを入力し、「Confirm Passphrase」フィールドでパスフレーズを確認入力します。
パスフレーズを入力しないと、機密データはバックアップされません。
9. バックアップ操作を開始するには、「Run」をクリックします。
バックアップ操作が実行されます。

注 – バックアップ操作の実行中は、ILOM SP 上のセッションが一時的に停止します。バックアップ操作が完了すると、セッションは正常動作を再開します。通常、バックアップ操作が完了するには 2 - 3 分かかります。

ILOM 設定の復元

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
ILOM 設定を復元する	<ul style="list-style-type: none">139 ページの「ILOM 設定を復元する」141 ページの「バックアップ XML ファイルを編集する」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SPSPARC システムのサーバー SPCMM

インストールを開始する前に

- ILOM 設定を復元するには、Admin (a)、User Management (u)、Console (c)、Reset and Host Control (r)、および Read Only (o) の役割を有効にする必要があります。
- 上記の役割を持たないユーザーアカウントを使用すると、設定ファイルの一部の情報が復元されない場合があります。復元操作の実行時には、バックアップファイルの作成に使用したユーザーアカウント以上の権限を持つユーザーアカウントを使用してください。そうしないと、バックアップされている設定データの一部が復元されない場合があります。復元されないすべての設定プロパティは、イベントログに表示されます。したがって、イベントログを確認すると、すべての設定プロパティが復元されたかどうかを検証できます。

▼ ILOM 設定を復元する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Maintenance」 --> 「Backup/Restore」を選択します。
「Configuration Backup/Restore」ページが表示されます。
3. 「Operation」ドロップダウンリストから「Restore」を選択します。
復元操作に使用される「Configuration Backup/Restore」ページが表示されます。

4. 「Transfer Method」ドロップダウンリストから転送方法を選択します。

次の転送方法を使用できます。

- Browser
- TFTP
- FTP
- SFTP
- SCP
- HTTP
- HTTPS

5. 「Browser」転送方法を選択する場合は、バックアップファイルのディレクトリパスおよびファイル名を入力するか、「Browse」ボタンをクリックしてバックアップファイルの位置を指定します。

6. 「TFTP」転送方法を選択すると、次の図に示すプロンプトが表示され、次の情報を入力する必要があります。

- **Host** – リモートホストの IP アドレスか、DNS を設定している場合はリモートホストの名前を入力します。
- **Filepath** – 設定ファイルの保存先のパスを `directoryPath/filename` 形式で入力します。



The screenshot shows a configuration window with the following elements:

- Operation:** A dropdown menu with "Restore" selected.
- Transfer Method:** A dropdown menu with "TFTP" selected.
- Host:** An empty text input field.
- Filepath:** An empty text input field.

7. 「SCP」、「FTP」、「SFTP」、「HTTP」、または「HTTPS」転送方法を選択すると、次の図に示すプロンプトが表示され、次の情報を入力する必要があります。

- **Host** – リモートホストの IP アドレスか、DNS を設定している場合はリモートホストの名前を入力します。
- **Filepath** – 設定ファイルのパスを `directoryPath/filename` 形式で入力します。
- **Username** – リモートシステムでのアカウントのユーザー名を入力します。
- **Password** – リモートシステムでのアカウントのパスワードを入力します。

Operation:	<input type="text" value="Restore"/>		
Transfer Method:	<input type="text" value="SCP"/>		
Host:	<input type="text"/>	Filepath:	<input type="text"/>
Username:	<input type="text"/>	Password:	<input type="text"/>

- バックアップファイルの作成時にパスワードが入力されている場合は、「Passphrase」フィールドにパスワードを入力し、「Confirm Passphrase」フィールドにパスワードを確認入力します。
パスワードは、バックアップファイルの作成時に使用したパスワードと同じである必要があります。
- 復元操作を開始するには、「Run」をクリックします。
復元操作が実行されます。

注 – 復元操作の実行中は、ILOM SP 上のセッションが一時的に停止します。復元操作が完了すると、セッションは正常動作を再開します。通常、復元操作が完了するには 2 - 3 分かかります。

▼ バックアップ XML ファイルを編集する

インストールを開始する前に

- バックアップされた XML ファイルを別のシステムで使用する前に、ファイルを編集して、特定のシステムに固有の情報 (IP アドレスなど) をすべて削除するようにしてください。

バックアップされた XML ファイルの例を次に示します。ファイルの内容は、この手順に合わせて省略されています。

```
<SP_config version="3.0">
  <entry>
    <property>/SP/check_physical_presence</property>
    <value>>false</value>
  </entry>
  <entry>
    <property>/SP/hostname</property>
    <value>labssystem12</value>
  </entry>
  <entry>
    <property>/SP/system_identifier</property>
    <value>SUN BLADE X8400 SERVER MODULE, ILOM v3.0.0.0, r32722
  </value>
  </entry>
  .
  .
  .
  <entry>
    <property>/SP/clock/datetime</property>
    <value>Mon May 12 15:31:09 2008</value>
  </entry>
  .
  .
  .
  <entry>
    <property>/SP/config/passphrase</property>
    <value encrypted="true">89541176be7c</value>
  </entry>
  .
  .
  .
  <entry>
    <property>/SP/network/pendingipaddress</property>
    <value>1.2.3.4</value>
  </entry>
  .
  .
  .
  <entry>
    <property>/SP/network/commitpending</property>
    <value>>true</value>
  </entry>
  .
  .
  .
```

```

<entry>
<property>/SP/services/snmp/sets</property>
<value>enabled</value>
</entry>
.
.
.
<entry>
<property>/SP/users/john/role</property>
<value>aucro</value>
</entry>
<entry>
<entry>
<property>/SP/users/john/password</property>
<value encrypted="true">c21f5a3df51db69fdf</value>
</entry>
</SP_config>

```

1. この XML ファイルの例で、次の点を確認します。

- パスワードとパスフレーズ以外の設定情報は平文です。
- ファイルの最初の設定エントリである `check_physical_presence` プロパティは、`false` に設定されています。デフォルト設定は `true` なので、この設定はデフォルトの ILOM 設定が変更されていることを表しています。
- `pendingipaddress` と `commitpending` の設定は、各サーバーに固有であるため、復元操作でバックアップ XML ファイルを使用する前に削除すべき設定の例です。
- ユーザーアカウントの `john` には、`a`、`u`、`c`、`r`、`o` の役割が設定されています。デフォルトの ILOM 設定ではユーザーアカウントが設定されていないため、このアカウントはデフォルトの ILOM 設定が変更されていることを表しています。
- SNMP の `sets` プロパティは、`enabled` に設定されています。デフォルト設定は `disabled` です。

2. 平文の設定情報を変更するには、値を変更するか、新しい設定情報を追加します。

例:

- ユーザー `john` に割り当てられている役割を変更するには、テキストを次のように変更します。

```

<entry>
<property>/SP/users/john/role</property>
<value>auo</value>
</entry>
<entry>

```

- 新しいユーザーアカウントを追加し、そのアカウントに a、u、c、r、o の役割を割り当てるには、ユーザー john のエントリのすぐ下に次のテキストを追加します。

```
<entry>
<property>/SP/users/bill/role</property>
<value>aucro</value>
</entry>
<entry>
```

- パスワードを変更するには、encrypted="true" 設定と暗号化されたパスワード文字列を削除し、パスワードを平文で入力します。たとえば、ユーザー john のパスワードを変更するには、テキストを次のように変更します。

```
<entry>
<property>/SP/users/john/password</property>
<value>newpassword</value>
</entry>
```

3. バックアップ XML ファイルに変更を加えたら、同じシステムや別のシステムでの復元操作に使用できるようにファイルを保存します。

ILOM 設定のリセット

項目

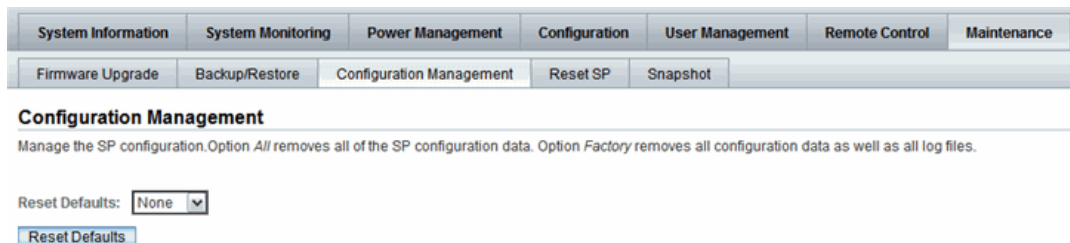
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
ILOM 設定をデフォルト設定にリセットする	<ul style="list-style-type: none"> • 145 ページの「ILOM 設定をデフォルトにリセットする」 	<ul style="list-style-type: none"> • x86 システムのサーバー SP • SPARC システムのサーバー SP • CMM

インストールを開始する前に

- ILOM 設定をデフォルトにリセットするには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。

▼ ILOM 設定をデフォルトにリセットする

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Maintenance (保守)」 --> 「Configuration Management」 を選択します。
「Configuration Management」 ページが表示されます。



3. 「Reset Defaults」 ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択して、「Reset Defaults」をクリックします。
 - **All** – ログファイル以外のすべての ILOM 設定データをデフォルト設定にリセットする場合は、「Reset Defaults」ドロップダウンリストから「All」を選択して、「Reset Defaults」をクリックします。ILOM SP が次に再起動するとき、設定がデフォルト設定に復元されます。
 - **Factory** – すべての ILOM 設定データをデフォルト設定にリセットし、ログファイルも消去する場合は、「Reset Defaults」ドロップダウンリストから「Factory」を選択して、「Reset Defaults」をクリックします。ILOM SP が次に再起動するとき、設定がデフォルト設定に復元され、ログファイルが消去されます。
 - **None** – 直前に発生したデフォルト設定へのリセット操作を取り消すには、「Reset Defaults」ドロップダウンリストから「None」を選択して、「Reset Defaults」をクリックします。ILOM SP の再起動前に「None」オプションが実行された場合のみ、前に発生したデフォルトへのリセット操作が取り消されます。

第11章

ILOM ファームウェアの更新

項目	
説明	リンク
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">• 149 ページの「作業を開始する前に」
ILOM ファームウェアの更新	<ul style="list-style-type: none">• 149 ページの「ILOM ファームウェアのバージョンを確認する」• 150 ページの「新しい ILOM ファームウェアイメージをダウンロードする」• 150 ページの「ファームウェアイメージを更新する」• 152 ページの「ファームウェア更新時のネットワーク障害から回復する」
ILOM SP のリセット	<ul style="list-style-type: none">• 153 ページの「ILOM SP をリセットする」

関連項目		
ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	• 設定の管理とファームウェアの更新	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
• CLI	• ILOM ファームウェアの更新	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)
• IPMI ホストと SNMP ホスト	• ILOM ファームウェア設定の構成	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』(820-7379)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• CLI と Web インタフェース (CMM のみ)	• ファームウェア更新手順	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) CMM 管理ガイド – Sun Blade 6000/Sun Blade 6048 モジュラーシステム』(821-3083)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。

http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights_mgr30#hic

ファームウェアの更新

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">• 149 ページの「作業を開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP
ILOM ファームウェアの更新	<ul style="list-style-type: none">• 149 ページの「ILOM ファームウェアのバージョンを確認する」• 150 ページの「新しい ILOM ファームウェアイメージをダウンロードする」• 150 ページの「ファームウェアイメージを更新する」• 152 ページの「ファームウェア更新時のネットワーク障害から回復する」	<ul style="list-style-type: none">• CMM

作業を開始する前に

この節の手順を実行する前に、次の要件を確認してください。

- システム上で現在動作している ILOM のバージョンを識別します。詳細は、[149 ページの「ILOM ファームウェアのバージョンを確認する」](#)を参照してください。
- Oracle Sun のダウンロード Web サイトから、使用しているサーバーまたは CMM のファームウェアイメージをダウンロードして、TFTP、FTP、または HTTP サーバーに配置します。
- プラットフォームによっては、サーバー SP のファームウェアを変更する前に、ホストオペレーティングシステムを停止する必要があります。
- Admin (a) 役割のアカウント権限をもつ ILOM ユーザー名とパスワードを取得します。システム上でファームウェアを更新するには、Admin (a) 権限が必要です。
- ファームウェアの更新処理の完了には数分かかります。この間、ほかの ILOM タスクを実行しないでください。ファームウェアの更新が完了すると、システムが再起動します。

注 – ILOM 3.0.10 以降では、Oracle Sun モジュラーシステムシャーシコンポーネントのファームウェアの更新を管理する新機能を使用できます。CMM シャーシコンポーネントの ILOM ファームウェアの更新に関する詳細とその手順については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) CMM 管理ガイド – Sun Blade 6000/Sun Blade 6048 モジュラーシステム』(821-3083)を参照してください。

▼ ILOM ファームウェアのバージョンを確認する

次の手順に従って、ファームウェアのバージョンを確認します。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Information」 --> 「Versions」を選択します。
現在のファームウェアのバージョン情報が表示されます。

▼ 新しい ILOM ファームウェアイメージをダウンロードする

1. <http://www.oracle.com/us/products/servers-storage/servers/index.html> にアクセスします。
2. ページの右側にある「Downloads」ボックスを展開し、「Drivers and Firmware」リンクをクリックします。
3. 該当する Sun サーバーのページに移動します。
4. 「Downloads and Firmware」タブを選択します。
5. 使用しているサーバーに該当する「Download」リンクをクリックします。

▼ ファームウェアイメージを更新する

作業を開始する前に

- プラットフォームで必要になる場合は、サーバー SP のファームウェアを更新する前に、ホストオペレーティングシステムを停止します。
- ホストオペレーティングシステムを正常に停止するには、ILOM Web インタフェースで「Remote Power Controls」->「Graceful Shutdown and Power Off」オプションを使用するか、ILOM CLI から `stop /SYS` コマンドを発行します。

次の手順に従って、ファームウェアイメージを更新します。

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Maintenance (保守)」->「Firmware Upgrade (ファームウェアのアップグレード)」を選択します。
「Firmware Upgrade」ページが表示されます。
3. 「Firmware Upgrade」ページで、「Enter Upgrade Mode」をクリックします。
「Upgrade Verification」ダイアログが表示され、更新プロセスが完了するとログインしているほかのユーザーのセッションが切断されることが通知されます。
4. 「Upgrade Verification」ダイアログで、「OK」をクリックして続行します。
「Firmware Upgrade」ページが表示されます。

5. 「Firmware Upgrade」 ページで、次の操作を実行します。
 - a. 次のいずれかの手順を実行して、イメージの場所を指定します。
 - 「Browse」 をクリックして、インストールするファームウェアイメージの場所を選択します。
 - 使用しているシステムでサポートされている場合は、「Specify URL」 をクリックします。ファームウェアイメージの場所を示す URL をテキストボックスに入力します。
 - b. 「Upload」 ボタンをクリックして、ファイルをアップロードし検証します。
ファイルがアップロードされ検証されるまで待ちます。
「Firmware Verification」 ページが表示されます。
6. 「Firmware Verification」 ページで、必要に応じて次のオプションを有効にします。
 - **Preserve Configuration** – ILOM の既存の設定を保存して更新プロセスの完了後に復元する場合は、このオプションを有効にします。
 - **Delay BIOS upgrade until next server poweroff** – システムが次に再起動するまで BIOS のアップグレードを延期する場合は、このオプションを有効にします。

注 – 「Delay BIOS upgrade」 オプションは、x86 システム上で ILOM 3.0 以降へファームウェアを更新する場合にのみ表示されます。

注 – BIOS のデフォルト設定は、SP ファームウェアの更新時に保持できません。SP ファームウェアの更新後に、デフォルト設定が新しい BIOS イメージ用に自動的に読み込まれます。

7. 「Start Upgrade」 をクリックして、アップグレードプロセスを開始するか、「Exit」 をクリックしてプロセスを取り消します。
「Start Upgrade」 をクリックすると、アップグレードプロセスが開始され、プロセスの続行を確認するプロンプトが表示されます。

8. プロンプトで「OK」をクリックして続行します。

「Update Status」ページが表示され、更新の進捗状況が表示されます。更新の進捗状況が 100% を示すと、ファームウェアの更新は完了です。

更新が完了すると、システムが自動的に再起動します。

注 – 更新の完了後、ILOM のWeb インタフェースが正しく再表示されないことがあります。ILOM Web インタフェースで情報が欠落している場合やエラーメッセージが表示される場合は、更新前のバージョンのキャッシュされているページが表示されている可能性があります。ブラウザのキャッシュをクリアしてブラウザを再表示してから、続行してください。

9. SP (または CMM) の ILOM Web インタフェースに再接続します。「System Information」->「Version」を選択して、SP または CMM のファームウェアバージョンが、インストールしたファームウェアイメージのバージョンと一致することを確認します。

注 – ファームウェアの更新前に ILOM 設定を保存しなかった場合、初期 ILOM セットアップ手順を実行して ILOM に再接続する必要があります。

▼ ファームウェア更新時のネットワーク障害から回復する

ローカルファイルを使用して ILOM Web インタフェースからファームウェア更新プロセスを実行しているときにネットワーク障害が発生すると、ILOM は自動的にシステムをタイムアウトして再起動します。

ファームウェア更新時のネットワーク障害から回復するには、次の手順を実行します。

1. ネットワークの問題に対処し、解決します。
2. ILOM SP に再接続します。
3. ファームウェア更新プロセスを再起動します。

ILOM SP のリセット

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
ILOM SP のリセット	<ul style="list-style-type: none">153 ページの「ILOM SP をリセットする」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SPSPARC システムのサーバー SP

作業を開始する前に

- SP をリセットするには、Reset and Host Control (r) の役割を有効にする必要があります。
- ILOM/BIOS ファームウェアを更新したら、ILOM SP をリセットする必要があります。

▼ ILOM SP をリセットする

ILOM サービスプロセッサ (SP) のリセットが必要な場合は、ホスト OS に影響を与えずにリセットできます。ただし、SP をリセットすると、現在の ILOM セッションが切断され、リセット中は SP が管理不可能な状態になります。

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. 「Maintenance (保守)」 --> 「Reset SP (SP のリセット)」を選択します。
「Reset Service Processor」ページが表示されます。
3. 「Reset SP」ボタンをクリックします。

ILOM が再起動します。ILOM の再起動中は、Web インタフェースを使用できません。

第12章

リモートホストのリダイレクトの管理および ILOM リモートコンソールのセキュリティ保護

項目	
説明	リンク
ILOM リモートコンソールの初期セットアップを実行する	<ul style="list-style-type: none">• 159 ページの「ILOM リモートコントロールのビデオリダイレクトを設定する」
ILOM リモートコンソールを使用してホストデバイスをリダイレクトする	<ul style="list-style-type: none">• 164 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールを起動する」• 166 ページの「デバイスのリダイレクトを開始、停止、または再開する」• 166 ページの「キーボード入力をリダイレクトする」• 167 ページの「キーボードモードとキー送信オプションを制御する」• 169 ページの「マウス入力をリダイレクトする」• 169 ページの「ストレージメディアをリダイレクトする」• 171 ページの「新規サーバーセッションを追加する」• 171 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールを終了する」
ILOM リモートコンソールをセキュリティ保護する	<ul style="list-style-type: none">• 172 ページの「ILOM リモートコンソールのロックオプションを編集する」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	• リモートホスト管理オプション	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』 (820-7370)
• CLI	• リモートホストの Storage Redirection の管理および ILOM リモートコンソールのセキュリティ保護	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』 (820-7376)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

リモートホストの管理

ILOM には、ホストのリモート管理のために各種オプションが用意されています。これらのオプションの詳細は、次の表を参照してください。

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	• 157 ページの「インストールを開始する前に」	• x86 システムのサーバー SP • SPARC システムのサーバー SP • CMM
Oracle ILOM リモートコンソール	• 158 ページの「ILOM リモートコンソールのビデオリダイレクトを有効にするための初期セットアップタスクの実行」 • 162 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールを使用したリダイレクトの開始」	• x86 システムのサーバー SP • SPARC システムサーバー SP (KVMS の状態の有効化のみ) • x86 システムのサーバー SP • SPARC システムのサーバー SP • CMM

注 – リモートホストの Storage Redirection コマンド行インタフェース (Command-Line Interface, CLI) の詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』を参照してください。

インストールを開始する前に

この章の手順を開始する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- Oracle ILOM リモートコンソールを使用するには、Admin (a) または Console (c) の役割のアカウントを使用する必要があります。
- Oracle ILOM リモートコンソールは、ビデオとシリアルコンソールの 2 つのリダイレクト方法をサポートしています。ビデオリダイレクトは、Oracle Sun x86 プロセッサベースのすべてのサーバーと SPARC プロセッサベースの一部のサーバーでサポートされています。シリアルコンソールリダイレクトは、すべての SPARC サーバーでサポートされていますが、x86 サーバーについては現時点ではサポートされていません。
- Oracle ILOM リモートコンソールを実行するには、JRE 1.5 以上 (Java 5.0 以上) のソフトウェアがローカルクライアントにインストールされている必要があります。Java Runtime Environment 1.5 をダウンロードするには、<http://java.com> にアクセスしてください。
- Oracle ILOM リモートコンソールは、次の表に示すオペレーティングシステム、Web ブラウザ、および JVM を搭載したローカルクライアントでサポートされています。

オペレーティングシステム	Web ブラウザ	Java 仮想マシン (Java Virtual Machine, JVM)
Oracle Solaris (9 および 10)	<ul style="list-style-type: none">• Mozilla 1.7.5 以上• Firefox 1.0 以上	<ul style="list-style-type: none">• 32 ビット JDK
Linux (Red Hat, SUSE, Ubuntu, Oracle)	<ul style="list-style-type: none">• Mozilla 1.7.5 以上• Firefox 1.0 以上• Opera 6.x 以上	<ul style="list-style-type: none">• 32 ビット JDK
Microsoft Windows (98, 2000, XP, Vista, および Windows 7)	<ul style="list-style-type: none">• Internet Explorer 6.0 以上• Mozilla 1.7.5 以上• Firefox 1.0 以上• Opera 6.x 以上	<ul style="list-style-type: none">• 32 ビット JDK

ILOM リモートコンソールのビデオリダイレクトを有効にするための初期セットアップタスクの実行

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
ビデオリダイレクトを設定する	<ul style="list-style-type: none">• 159 ページの「ILOM リモートコントロールのビデオリダイレクトを設定する」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムサーバー SP (KVMs の状態の有効化のみ)
Windows Internet Explorer を使用して ILOM リモートコンソールの (初回) 起動前に 32 ビット JDK ファイルを登録する	<ul style="list-style-type: none">• 161 ページの「Windows Internet Explorer の使用時に 32 ビット JDK ファイルの種類を登録する」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP

注 – ここで説明する初期セットアップ手順はビデオリダイレクトにのみ適用されます。シリアルコンソールリダイレクトのみを使用する場合、ここで説明する初期セットアップタスクは不要です。この初期セットアップをスキップして、[162 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールを使用したリダイレクトの開始」](#)に進むことができます。

▼ ILOM リモートコントロールのビデオリダイレクトを設定する

次の手順に従って、ホストサーバーのリモート管理に関する ILOM の設定を構成します。

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. 「Remote Control」 --> 「KVMS」 をクリックします。
「KVMS Settings」 ページが表示されます。



KVMS Settings

Configure the state of the Keyboard, Video, Mouse and Storage (KVMS) service. Select a mode for your local mouse to use while managing the host remotely. Select Absolute mouse mode if your host is running Windows OS or Solaris, or Relative mouse mode for Linux OS. The Service Processor must be reset for any change in mouse mode to take effect.

State: Enabled

Mouse Mode:

注 – 上の図に示されている「Remote Control」サブタブのオプションは、Sun サーバーによって異なります。同様に、「KVMS settings」ページの KVMS 設定オプションは、Sun サーバーによって異なります。詳細は、手順 3 に示されているリモートコントロール設定の説明を参照してください。

3. 「KVMS Settings」 ページのオプションを使用して、リモートサーバーを管理するための次のリモートコントロール設定を指定します。

リモートコントロール設定	適用対象	操作
KVMS State	ビデオリダイレクト	管理対象ホストのキーボード、ビデオ、マウス、およびストレージデバイスのリダイレクトを有効にするには、「Enabled」を選択します。選択を解除すると、KVMS デバイスのリダイレクトは無効になります。
Mouse Mode Settings	ビデオリダイレクト	次のいずれかのマウスモード設定を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Absolute – Solaris または Windows オペレーティングシステムを使用している場合に最大のパフォーマンスを引き出すには、「Absolute」マウスモードを選択します。「Absolute (絶対)」がデフォルトです。 • Relative – Linux オペレーティングシステムを使用している場合は「Relative (相対)」マウスモードを選択します。すべての Linux オペレーティングシステムで「Absolute (絶対)」モードがサポートされているわけではありません。 <p>注 – ILOM 3.0.4 およびそれ以降のバージョンの ILOM では、サーバー SP を再起動せずに「Relative」と「Absolute」の設定を切り替えることができます。変更は ILOM リモートコンソールですぐに有効になります。</p>

▼ Windows Internet Explorer の使用時に 32 ビット JDK ファイルの種類を登録する

ILOM リモートコンソールの起動に Windows Internet Explorer (IE) Web ブラウザを使用する場合は、IE を使用して Oracle ILOM リモートコンソールを起動する前に 32 ビット JDK ファイルをシステムに登録する必要があります。

次の手順に従って、32 ビット JDK ファイルを登録します。

1. Windows クライアントで、Windows エクスプローラ (Internet Explorer ではなく) を開きます。
2. Windows エクスプローラダイアログで、「ツール」 --> 「フォルダオプション」を選択し、「ファイルの種類」タブを選択します。
3. 「ファイルの種類」タブで、次の手順を実行します。
 - a. 「登録されているファイルの種類」リストで、「JNLP」ファイルの種類を選択し、「変更」をクリックします。
 - b. 「ファイルを開くプログラムの選択」ダイアログで、「参照」をクリックして 32 ビット JDK ファイルを選択します。
 - c. 「この種類のファイルを開くときは、選択したプログラムをいつも使う」チェックボックスを選択します。
 - d. 「OK」をクリックし、ILOM Web インタフェースで Storage Redirection のサービスを開始します。

Oracle ILOM リモートコンソールを使用したリダイレクトの開始

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">• 163 ページの「インストールを開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP• SPARC システムのサーバー SP• CMM
Oracle ILOM リモートコンソールを使用してリダイレクトを開始する	<ul style="list-style-type: none">• 164 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールを起動する」• 166 ページの「デバイスのリダイレクトを開始、停止、または再開する」• 166 ページの「キーボード入力をリダイレクトする」• 167 ページの「キーボードモードとキー送信オプションを制御する」• 169 ページの「マウス入力をリダイレクトする」• 169 ページの「ストレージメディアをリダイレクトする」• 171 ページの「新規サーバーセッションを追加する」• 171 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールを終了する」	

インストールを開始する前に

ここで説明するリモート管理手順を実行する前に、次の要件が満たされている必要があります。

- Java Runtime Environment (1.5 以降) がローカルシステムにインストールされている必要があります。最新の Java Runtime Environment をダウンロードするには、<http://java.com> にアクセスしてください。
- 次の手順の説明に従って、ILOM リモートコンソールの起動時に 32 ビット JDK ファイルを指定する必要があります。ただし、Windows Internet Explorer を使用して初めて ILOM リモートコンソールを起動する場合は、まず 32 ビット JDK ファイルをシステムに登録する必要があります。詳細は、[161 ページの「Windows Internet Explorer の使用時に 32 ビット JDK ファイルの種類を登録する」](#)を参照してください。
- Admin (a) または Console (c) の役割のアカウントを使用して ILOM SP Web インタフェースにログインする必要があります。Oracle ILOM リモートコンソールを起動するには、Admin または Console の役割のアカウントが必要です。
- ILOM Web インタフェースでリモートコントロール設定を構成済みである必要があります。詳細は、[159 ページの「ILOM リモートコントロールのビデオリダイレクトを設定する」](#)を参照してください。

▼ Oracle ILOM リモートコンソールを起動する

1. サーバー SP の ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Remote Control」 --> 「Redirection」 を選択します。
「Launch Redirection」 ページが表示されます。

System Information	System Monitoring	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance	
Redirection	KVMS	Remote Power Control	Diagnostics	Host Control	Host Boot Mode	Keyswitch

Launch Redirection

Manage the host remotely by redirecting the system console to your local machine. Launch the Sun ILOM Remote Console to utilize the RKVMS features. Select 16-bit high-quality color redirection for fast connections, or 8-bit lower-quality color redirection for slower connections. Select serial to access the Managed Host's serial console.

- I want to see redirection in 16-bit
- I want to see redirection in 8-bit
- I want to see serial redirection

[Launch Redirection](#)

Storage Redirection

You can optionally redirect local CDROM storage devices or CDROM image files from your workstation to the host by using the non-graphical storage redirection utility. This consists of a background service process running on your local machine that manages and maintains redirection to the host. This service is Java Web Start based and can be started by clicking 'Launch Service' below.

[Launch Service](#)

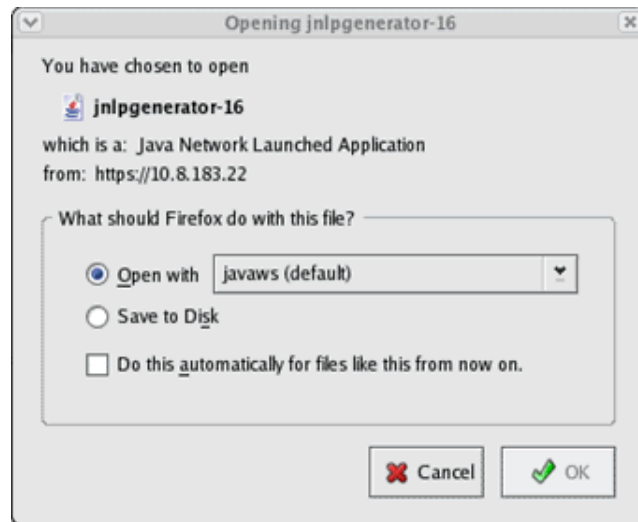
A scriptable, command-line Java client application is used to issue commands to the Service Processor for starting and stopping redirection of local storage devices and/or image files to one or more ILOM-enabled hosts. Click 'Download Client' below and save as StorageRedir.jar locally, and get started by running 'java -jar StorageRedir.jar -h' from a local command window prompt.

[Download Client](#)

注 - 使用しているプラットフォームによって、「Launch Redirection」ページに表示されるリダイレクトオプションの組み合わせは異なります。複数のオプションが表示されている場合は、このホストをリモート管理するために使用するリダイレクトの種類を選択してください。

3. リダイレクトされたシステムコンソールの表示方法を指定するには、いずれかのラジオボタンをクリックします。
4. 「Launch Redirection」 をクリックします。

プログラムを起動するために選択したファイルの種類を示すダイアログが表示されます。



5. 「Java Start Web Program」ダイアログで、次の手順を実行します。
 - a. 「Open with...」をクリックして 32 ビット JDK ファイルを指定します。
 - b. 「Do this automatically for files like this from now on」チェックボックスを選択します。

注 – サイトの名前が証明書の名前と一致していないことを示す、証明書に関する警告メッセージが表示される場合は、「Run」をクリックして続行します。

「Oracle ILOM Remote Console」ウィンドウが表示されます。

▼ デバイスのリダイレクトを開始、停止、または再開する

1. 「Oracle ILOM Remote Console」メニューバーで、「Redirection」をクリックします。
2. 「Redirection」メニューで、次のいずれかのリダイレクトオプションを指定します。

オプション	説明
Start Redirection (リダイレクトの開始)	「Start Redirection (リダイレクトの開始)」を選択すると、デバイスのリダイレクトが有効になります。「Start Redirection (リダイレクトの開始)」はデフォルトで有効になっています。
Restart Redirection	「Restart Redirection」を選択すると、デバイスのリダイレクトを停止して開始します。通常、このオプションは有効なりダイレクトがまだ確立されている場合に使用します。
Stop Redirection (リダイレクトの停止)	「Stop Redirection (リダイレクトの停止)」を選択すると、デバイスのリダイレクトが無効になります。

リダイレクト設定を変更することを確認する確認メッセージが表示されます。

3. 確認メッセージで、「Yes (はい)」をクリックして続行するか、「No (いいえ)」をクリックして操作を取り消します。

▼ キーボード入力をリダイレクトする

インストールを開始する前に

- この手順は、シリアルコンソールリダイレクトにのみ適用されます。
- 複数のユーザーがシステムコンソールに接続できますが、コンソールへの書き込みアクセスを持つことができるのは、一度に1人のユーザーだけです (つまり、システムコンソールにコマンドを入力できるユーザーは1人だけです)。ほかのユーザーが入力した文字はすべて無視されます。これは書き込みロックと呼ばれ、その他のユーザーセッションは読み取り専用モードになります。ほかのユーザーがシステムコンソールにログイン中でない場合は、キーボードリダイレクトを開始したときに自動的に書き込みロックが付与されます。ほかのユーザーがコンソールへの書き込みアクセスを持っている場合、それらのセッションの書き込みアクセスを強制的に解除することを要求するプロンプトが表示されます。

- サーバーリダイレクトセッションがリモートホストサーバー SP に対してアクティブになっている必要があります。詳細は、171 ページの「新規サーバーセッションを追加する」を参照してください。
- デバイスのリダイレクトが開始済みである必要があります。詳細は、166 ページの「デバイスのリダイレクトを開始、停止、または再開する」を参照してください。

次の手順に従って、ローカルクライアントにリモートホストサーバーのキーボードをリダイレクトします。

1. 「Remote Control」 --> 「KVMS」を選択します。
「KVMS Settings」ページが表示されます。
2. 「KVMS Settings」チェックボックスを選択して、キーボードのリモート管理状態を有効にします。
KVMS の状態はデフォルトで有効になっています。

▼ キーボードモードとキー送信オプションを制御する

インストールを開始する前に

- サーバーリダイレクトセッションがリモートホストサーバー SP に対してアクティブになっている必要があります。詳細は、171 ページの「新規サーバーセッションを追加する」を参照してください。
- デバイスのリダイレクトが開始済みである必要があります。詳細は、166 ページの「デバイスのリダイレクトを開始、停止、または再開する」を参照してください。
- キーボードリダイレクトが有効になっている必要があります。詳細は、166 ページの「キーボード入力をリダイレクトする」を参照してください。

次の手順に従って、キーボードモードと個々のキー送信オプションを制御します。

1. 「Oracle ILOM Remote Console」ウィンドウで、「Keyboard」メニューをクリックします。

2. 「Keyboard」メニューで、次のキーボード設定を指定します。

オプション	説明
Auto-keybreak Mode	「Auto-keybreak Mode」を選択すると、キーを押すたびにキーブ레이크が自動的に送信されます。このオプションを使用すると、低速ネットワーク接続でキーボードに関する問題を解決する場合に役立ちます。「Auto-keybreak Mode」はデフォルトで有効になっています。
Stateful Key Locking	クライアントがステートフルキーロックを使用している場合は、「Stateful Key Locking」を選択します。「Stateful Key Locking」は、Caps Lock、Num Lock、および Scroll Lock の 3 つのロックキーに適用されます。
Left Alt Key* *Windows クライアントで使用不可	左側の Alt キーのオンとオフを切り替えるには、「Left Alt Key (左 Alt キー)」を選択します。
Right Alt Key* *Windows クライアントで使用不可	英語以外のキーボードで右側の Alt キーのオンとオフを切り替えるには、「Right Alt Key (右 Alt キー)」を選択します。 このオプションが有効になっている場合は、キーの 3 番目のキー文字を入力できます。このキーボードオプションでは、Alt Graph キーと同じ機能を利用できます。
F10	F10 ファンクションキーを適用するには、「F10」を選択します (通常は BIOS で使用)。
Control Alt Delete	Control-Alt-Delete シーケンスを送信するには、「Control Alt Delete」を選択します。
Control Space	Control-Space シーケンスを送信し、リモートホストでの入力を有効にするには、「Control Space」を選択します。
Caps Lock	Caps Lock キーを送信し、ロシア語やギリシャ語のキーボードでの入力を有効にするには、「Caps Lock」を選択します。

注 - シリアルリダイレクト時には、これらのキーボード設定すべてが適用されるわけではありません。

▼ マウス入力をリダイレクトする

インストールを開始する前に

- マウスリダイレクトは、ビデオリダイレクト設定でのみサポートされます。
- 「Mouse Mode」を「Absolute」または「Relative」に設定します。159 ページの「ILOM リモートコントロールのビデオリダイレクトを設定する」を参照してください。
- サーバーリダイレクトセッションがリモートホストサーバー SP に対してアクティブになっている必要があります。詳細は、171 ページの「新規サーバーセッションを追加する」を参照してください。
- デバイスのリダイレクトが開始済みである必要があります。詳細は、166 ページの「デバイスのリダイレクトを開始、停止、または再開する」を参照してください。

次の手順に従って、ローカルクライアントにリモートホストサーバーのマウスをリダイレクトします。

1. 「Remote Control」-->「KVMS」を選択します。
「KVMS Settings」ページが表示されます。
2. 「KVMS State」チェックボックスを選択して、マウスのリモートホスト管理状態を有効にします。
「KVMS State」はデフォルトで「Enabled」に設定されています。

▼ ストレージメディアをリダイレクトする

インストールを開始する前に

- サーバーリダイレクトセッションがリモートホストサーバー SP に対してアクティブになっている必要があります。詳細は、171 ページの「新規サーバーセッションを追加する」を参照してください。
- デバイスのリダイレクトが開始済みである必要があります。詳細は、166 ページの「デバイスのリダイレクトを開始、停止、または再開する」を参照してください。
- Solaris のクライアントシステムの場合、ストレージデバイスをリダイレクトする前に、次の操作を実行する必要があります。
 - ボリュームマネージャーが有効な場合は、この機能を無効にする必要があります。
 - 次のコマンドを入力して、Oracle ILOM リモートコンソールを実行しているプロセッサに root 権限を割り当てます。

```
su to root
```

```
ppriv -s +file_dac_read pid_javarconsole
```

次の手順に従って、ストレージメディア (CD/DVD または ISO イメージ) をデスクトップからホストサーバーにリダイレクトします。

1. 「Oracle ILOM Remote Console」メニューバーで、「Devices」を選択します。
2. 「Devices」メニューで、次の操作を実行します。
 - a. 適切なストレージデバイスまたはイメージの設定を有効にします。

オプション	説明
CD-ROM	ローカル CD デバイスを有効にするには、「CD-ROM」を選択します。このオプションを選択すると、CD デバイスがリモートホストサーバーに直接接続されているかのように、ローカル CD-ROM ドライブが動作します。
Floppy (フロッピー)	ローカルフロッピーデバイスを有効にするには、「Floppy (フロッピー)」を選択します。このオプションを選択すると、フロッピーデバイスがリモートホストサーバーに直接接続されているかのように、ローカルフロッピードライブが動作します。
CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)	ローカルクライアントまたはネットワーク共有上の CD-ROM イメージの場所を指定するには、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。
フロッピー イメージ	ローカルクライアントまたはネットワーク共有上のフロッピーイメージの場所を指定するには、「Floppy Image (フロッピーディスクイメージ)」を選択します。

注 – フロッピーストレージメディアのリダイレクトは、SPARC システムではサポートされていません。

注 – 配布メディア (CD/DVD) からソフトウェアをインストールする場合は、リダイレクトされたドライブにメディアが挿入されていることを確認します。ISO イメージからソフトウェアをインストールする場合は、ISO イメージがローカルクライアントまたはネットワーク共有ファイルシステムに保存されていることを確認します。

ストレージドライブの場所またはイメージファイルの場所の指定を求めるダイアログが表示されます。

- b. ストレージドライブの場所またはイメージファイルの場所を指定するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 「Drive Selection」ダイアログで、ドライブの場所を選択または入力し、「OK」をクリックします。
 - 「File Open」ダイアログで、イメージの場所を参照し、「OK」をクリックします。

3. あとでホスト上のこれらのストレージ設定を再利用するには、「Devices (デバイス)」 --> 「Save as Host Default」をクリックします。

▼ 新規サーバーセッションを追加する

1. 「Oracle ILOM Remote Console」ウィンドウで、「Redirection」 --> 「New Session」を選択します。
「New Session Creation」ダイアログが表示されます。
2. 「New Session Creation」ダイアログで、リモートホストサーバー SP の IP アドレスを入力してから、「OK」をクリックします。
ログインダイアログが表示されます。
3. ログインダイアログで、ユーザー名とパスワードを入力します。
新しく追加したリモートホストサーバーのセッションタブが、Oracle ILOM リモートコンソールのタブセットに表示されます。

注 – ログインダイアログでは、新しいセッションをビデオリダイレクト (すべての x64 システムと一部の SPARC システムでサポートされます) とシリアルリダイレクト (現時点では SPARC システムでサポートされます) のどちらにするかも選択します。サポートされるリダイレクトの種類の詳細は、使用しているプラットフォームのマニュアルを参照してください。

▼ Oracle ILOM リモートコンソールを終了する

次の手順に従って、Oracle ILOM リモートコンソールを終了し、すべてのリモートサーバーセッションを閉じます。

- 「Oracle ILOM Remote Console」メニューバーで、「Redirection」 --> 「Quit」を選択します。

ILOM リモートコンソールのセキュリティー保護

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">172 ページの「インストールを開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SP
ILOM リモートコンソールのロック設定を編集する	<ul style="list-style-type: none">172 ページの「ILOM リモートコンソールのロックオプションを編集する」	<ul style="list-style-type: none">SPARC システムのサーバー SPCMM

インストールを開始する前に

- ILOM で ILOM リモートコンソールのロックオプションを有効にするには、ユーザーアカウントに Console (c) の役割の権限が関連付けられている必要があります。
- サーバー SP で ILOM 3.0.4 以降を実行している必要があります。

▼ ILOM リモートコンソールのロックオプションを編集する

1. ILOM SP Web インタフェースまたは CMM ILOM Web インタフェースにログインします。

注 - CMM Web インタフェースへのログイン時に、ILOM リモートコンソールの KVMS ロックオプションを有効または無効にする SP ターゲットに移動します。

2. Web インタフェースページで、「Remote Console」-->「KVMS」を選択します。「KVMS Settings」と「Host Lock Settings」のオプションを指定できる「KVMS」ページが表示されます。
3. 「KVMS」ページの「Host Lock Settings」セクションで、次のいずれかのタスクを実行します。

タスク	指示
標準の Windows ホストのロックモードオプションを有効にする。	<ul style="list-style-type: none"> 「Lock Mode」リストボックスで、「Windows」を選択します。
カスタムホストロックモード機能を有効にする。	<ol style="list-style-type: none"> 「Lock Mode」リストボックスで、「Custom」を選択します。 「Custom Lock Modifiers」リストボックスで、オペレーティングシステムで定義済みのキーボードショートカット修飾子と一致するカスタム修飾子を最大 4 つ選択します。 「Custom Lock Key」リストボックスで、オペレーティングシステムで定義済みのキーボードショートカットキーと一致するキーを選択します。
ホストロックモード機能を無効にする。	<ul style="list-style-type: none"> 「Lock Mode」リストボックスで、「Disabled」を選択します。

4. 「Save」をクリックして変更内容を適用します。

第13章

リモートホストの電源状態の管理

項目

説明	リンク
リモートサーバーモジュールまたは CMM の電源状態を制御する	<ul style="list-style-type: none">• 176 ページの「リモートサーバー SP または CMM の電源状態の制御」
x86 ホストの起動デバイス設定を制御する	<ul style="list-style-type: none">• 178 ページの「x86 システムの BIOS 起動デバイスのホスト制御の管理」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	• リモートホスト管理オプション	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
• CLI	• リモートホストの電源状態の管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights_mgr30#hic

リモートサーバー SP または CMM の電源状態の制御

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">176 ページの「インストールを開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">x86 システムのサーバー SP
リモートホストサーバーの電源状態を制御する	<ul style="list-style-type: none">176 ページの「サーバー SP Web を使用してリモートホストサーバーの電源状態を制御する」177 ページの「CMM Web インタフェースを使用してリモートシャーシの電源状態を制御する」	<ul style="list-style-type: none">SPARC システムのサーバー SPCMM

インストールを開始する前に

- リモートホストサーバーの電源状態を制御するには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。

▼ サーバー SP Web を使用してリモートホストサーバーの電源状態を制御する

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. 「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブをクリックします。
「Server Power Control」ページが表示されます。

3. 「Server Power Control」ページから、「Action」メニューで次のいずれかのオプションを選択することにより、ホストサーバーの電源状態をリモート制御できます。
 - **Reset** – リモートホストサーバーをただちに再起動します。
 - **Immediate Power Off** – リモートホストサーバーの電源をただちに切断します。
 - **Graceful Shutdown and Power Off** – リモートホストサーバーの電源を切る前に OS を正常に停止します。
 - **Power On** (デフォルト) – リモートホストサーバーの電源を投入します。
 - **Power Cycle** – リモートホストサーバーの電源をただちに切断し、そのあとでリモートホストサーバーの電源を投入します。

▼ CMM Web インタフェースを使用してリモートシャーシの電源状態を制御する

1. CMM の ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブをクリックします。
「Server Power Control」ページが表示されます。
3. 「CMM Remote Power Control」ページから、「/CH」(シャーシ)または「/CH/BL#」(個々のブレードスロット番号)の横にあるラジオボタンを選択し、「Action」メニューで次のいずれかのオプションを選択することにより、シャーシとそのシステムコンポーネントの電源状態をリモート制御できます。
 - **Immediate Power Off** – ブレードを含むシャーシコンポーネントの電源をただちに切断します。
 - **Graceful Shutdown and Power Off** – ブレードで OS を正常に停止してからシステムコンポーネントの電源を切ります。
 - **Power On** – システムポリシーに従って、シャーシとブレードの電源を投入します。
 - **Power Cycle** – ブレードの電源を切断し、そのあとでシステムの電源を自動的に再投入します。「/CH」では選択できません。

x86 システムの BIOS 起動デバイスの ホスト制御の管理

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">• 178 ページの「インストールを開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP
BIOS でのホスト起動デバイスの順序をオーバーライドする	<ul style="list-style-type: none">• 179 ページの「BIOS ホスト起動デバイスのオーバーライドを設定する」	

インストールを開始する前に

- ホスト起動デバイスの設定変数を変更するには、Reset and Host Control (r) の役割が必要です。
- ホスト制御の BIOS 起動デバイス機能は、x86 システム SP でサポートされています。この機能は CMM または SPARC システム SP ではサポートされていません。SPARC システムの ILOM ホスト制御の起動オプションに関する詳細は、そのシステム用に公開されているオンラインの ILOM 補足マニュアルまたはプラットフォーム管理マニュアルを参照してください。

次の手順に従って、ホスト制御機能を使用して ILOM から BIOS 起動デバイス設定をオーバーライドします。

▼ BIOS ホスト起動デバイスのオーバーライドを設定する

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. 「Remote Control」 --> 「Host Control」 を選択します。
「Host Control」 ページが表示されます。

System Information	System Monitoring	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance
Redirection	KVMs	Remote Power Control	Diagnostics	Host Control	

Host Control

View and configure the host control information. Next Boot Device configures what the next boot device will be at the next poweron. This change is not permanent.

Next Boot Device:

3. 「Host Control」 ページで、「Next Boot Device」 リストボックスをクリックして起動デバイスオプションを指定します。
指定できる起動デバイスオプションは次のとおりです。
 - default - 値を default に設定すると、BIOS 設定はオーバーライドされません。default に設定すると以前の設定内容もすべてクリアされます。
 - pxe - 値を pxe に設定すると、次回のホスト起動時に BIOS の起動順序設定は一時的に無視され、ホストは PXE の起動指定に従ってネットワークから起動します。
 - disk - 値を disk に設定すると、次回のホスト起動時に BIOS の起動順序設定は一時的に無視され、BIOS が選択した最初のディスクから起動します。どのディスクが選ばれるかは、構成によって異なります。通常、ホストではこのオプションがデフォルトで使用されるため、このオプションを選択してもホストの動作は変更されない可能性があります。
 - diagnostic - 値を diagnostic に設定すると、次回のホスト起動時に BIOS の起動順序設定は一時的に無視され、ホストは診断パーティションに起動します (構成されている場合)。
 - cdrom - 値を cdrom に設定すると、次回のホスト起動時に BIOS の起動順序設定は一時的に無視され、ホストは接続されている CD-ROM または DVD デバイスから起動します。
 - bios - 値を bios に設定すると、次回のホスト起動時に BIOS の起動順序設定は一時的に無視され、ホストは BIOS 設定画面にブートします。
4. 「Save」 をクリックして変更を有効にします。

第14章

SPARC サーバーでの TPM と LDom の状態の管理

項目

説明	リンク
SPARC サーバーでの TPM の状態を制御する	• 182 ページの「SPARC サーバーでの TPM の状態の制御」
SPARC サーバー上の論理ドメイン (LDom) の設定を管理する	• 183 ページの「SPARC サーバーでの LDom 設定の管理」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	• リモートホスト管理オプション	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
• CLI	• SPARC サーバーでの TPM と LDom の状態の管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

SPARC サーバーでの TPM の状態の制御

項目		プラットフォームの機能のサポート
説明	リンク	
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">182 ページの「作業を開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">SPARC システム SP
SPARC サーバーでの TPM の状態を制御する	<ul style="list-style-type: none">182 ページの「SPARC サーバーでの TPM の状態を制御する」	

作業を開始する前に

- ILOM の TPM 機能は SPARC サーバーでのみ使用できます。
- SPARC サーバーで、TPM をサポートするバージョンの Oracle Solaris が実行されている必要があります。

Solaris での TPM のサポートの設定に関する詳細は、Solaris のドキュメントまたは使用しているサーバーに付属しているプラットフォームのドキュメントを参照してください。

- SPARC サーバー SP で ILOM 3.0.8 以降のバージョンを使用している必要があります。
- ILOM で TPM 設定を変更するには、Reset and Host Control (r) ユーザーアカウントが必要です。

▼ SPARC サーバーでの TPM の状態を制御する

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. 「Remote Control」 --> 「TPM」 タブをクリックします。
「TPM Settings」 ページが表示されます。

3. 「TPM Settings」 ページで、次のいずれかの処理を実行します。

- TPM の状態を有効にし、SPARC サーバーの次の電源投入時にサーバーでこの状態 (有効) をアクティブにするには、次の各 TPM 設定で「True」を選択します。
 - **Enable** - 「Enable True」チェックボックスを選択して、SPARC サーバー上の TPM の状態を有効にします。
 - **Activate** - 「Activate True」チェックボックスを選択して、SPARC サーバーの次の電源投入時にサーバーで設定の変更をアクティブにします。

または

- SPARC サーバーの次の電源投入時にサーバーで TPM の有効な状態を消去する (無効にする) には、次の 3 つの TPM 設定で「True」を選択します。
 - **Enable** - 「Enable True」チェックボックスを選択して、SPARC 上の TPM の状態を無効にします。
 - **Activate** - 「Activate True」チェックボックスを選択して、SPARC サーバーで設定の変更をアクティブにします。
 - **Forceclear** - 「Forceclear True」チェックボックスを選択して、SPARC サーバーの次の電源投入時に TPM の有効な状態をサーバーから消去します。

SPARC サーバーでの LDom 設定の管理

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">• 184 ページの「作業を開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">• SPARC システム SP
ILOM の格納されている LDom 設定を表示および管理する	<ul style="list-style-type: none">• 184 ページの「SPARC T3 シリーズのサーバーに格納されている LDom 設定を表示する」• 185 ページの「格納されている LDom 設定に対してホストの電源を設定する」• 186 ページの「格納されている LDom 設定に対してホストの電源を指定する」	

作業を開始する前に

格納されている LDom 設定の ILOM 設定を表示および管理するには、次の要件を満たす必要があります。

- 適切な ILOM ポイントリリースファームウェアがインストールされている SPARC サーバーの ILOM にアクセスする必要があります (次の「注」を参照)。

注 – SPARC T3 シリーズのサーバーから LDom のターゲットおよびプロパティを表示するには、ILOM 3.0.12 以降が必要です。次の場合は ILOM 2.0.0 以降が必要です。(1) ホスト SPARC サーバーで使用する LDom 設定を指定する場合。(2) ホスト SPARC サーバーから制御ドメインの起動プロパティ値を管理する場合。

- Oracle VM Server for SPARC (Logical Domains Manager) 2.0 以降のソフトウェアがホスト SPARC サーバーにインストールされている必要があります。
- ホスト SPARC サーバーに LDom 設定が格納されている必要があります。ホスト SPARC サーバーで LDom 設定を作成して保存する方法については、『Logical Domains 1.3 管理ガイド』(821-1077) を参照してください。
- 次の項目を設定するには、ILOM の Remote Host Reset and Host Control (r) 権限が必要です。
 - LDom の bootmode ターゲット
 - 第一ドメインまたはゲストドメインの Bootmode プロパティ値

▼ SPARC T3 シリーズのサーバーに格納されている LDom 設定を表示する

1. SPARC T3 シリーズのサーバーで ILOM Web インタフェースにログインします。
2. Web インタフェースで、「Remote Host」 --> 「Host Domains」を選択します。
3. 「Domain Configurations」テーブルに、LDom Manager に現在格納されている LDom 設定のリストが表示されます。

Redirection KVMS Remote Power Control Diagnostics Host Control Host Boot Mode Host Domain Keyswitch TPM

Host Domain

Configure host domain control settings and view the host domain configurations.

Auto Boot: Enabled
Disabling auto boot will stop the domain at the OK prompt after reset.

Boot Guests: Enabled
Disabling boot guests will allow only the control domain (primary) to boot at the next power on.

Domain Configurations

Configuration Name	Created Time	Number of Domains
LDMCONFIG0	1970-01-01 00:00:01	3
LDMCONFIG1	1970-01-01 00:01:05	6
LDMCONFIG2	1970-01-01 00:02:09	9
LDMCONFIG3	1970-01-01 00:03:13	12
LDMCONFIG4	1970-01-01 00:04:17	15

4. 「Host Domain」 ページで行った変更を確定するには、「Save」をクリックします。

▼ 格納されている LDom 設定に対してホストの電源を設定する

1. SPARC サーバーで ILOM Web インタフェースにログインします。
2. Web インタフェースで、「Remote Host」 --> 「Host Domains」を選択します。
3. 「Host Domain」 ページで、「Auto Boot」または「Boot Guest」のチェックボックスを有効または無効にします。

デフォルトでは、ホスト制御ドメインおよびゲストドメインの「Auto Boot」チェックボックスは「Enabled」に設定されており、ドメインはサーバーが電源投入またはリセットされたときに起動します。

制御ドメインの auto-boot プロパティ値を無効にすると、次の電源投入またはリセット後にドメインは自動的に再起動せず、OpenBoot の ok プロンプトで停止します。ゲストドメインの boot_guests プロパティ値を無効にすると、次の電源投入またはリセット後にゲストドメインが起動しなくなります。

▼ 格納されている LDom 設定に対してホストの電源を指定する

1. SPARC サーバーで iLOM Web インタフェースにログインします。
2. Web インタフェースで、「Remote Host」->「Host Boot Mode」を選択します。

System Information System Monitoring Power Management Storage Configuration User Management Remote Control Maintenance

Redirection KVMs Remote Power Control Diagnostics Host Control Host Boot Mode Host Domain Keyswitch TPM

Host Boot Mode Settings

Configure boot mode settings. Select an option for state, either 'Normal' or 'Reset NVRAM'. Enter the boot script and LDOM configuration.

State:

Expiration Date: Tue Jan 19 03:14:07 2038

Script:

LDOM Config:

3. 「Host Boot Mode Settings」ページで、次の情報を指定して、サーバーで使用されるデフォルトの起動方法をオーバーライドします。

フィールド	手順と説明
State	<p>「State」リストボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• Normal – 次のリセット時に、現在の NVRAM 変数設定が保持されます。• Reset NVRAM – 次のリセット時に、すべての OpenBoot 変数がデフォルト設定に戻されます。 <p>「State」はリセット時の起動モードを指定します。</p> <p>注 – 「Reset NVRAM」の値は、次のサーバーリセット後または 10 分後に「Normal」に戻ります。「Config」および「Script」プロパティは期限切れにならず、次のサーバーリセット時または手動でフィールドを空白にしたときにクリアされます。</p>
Script	<p>起動スクリプトを指定します。</p> <p>「Script」は、ホストサーバーの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。このコマンドは、現在の /HOST/bootmode 設定には影響を与えません。</p>
LDOM Config	<p>格納されている LDom 設定ファイル名を指定します。</p>

4. 「Host Boot Mode Settings」ページで行った変更を確定するには、「Save」をクリックします。

第15章

リモートホストシステムの診断の実行

項目

説明	リンク
x64 システムのハードウェア問題を診断する	• 188 ページの「x86 システムのハードウェア問題の診断」
SPARC システムのハードウェア問題を診断する	• 190 ページの「SPARC システムのハードウェア問題の診断」
Oracle の保守担当者がシステムの問題の診断に使用するデータを収集する	• 191 ページの「システムの問題を診断するための SP データの収集」

関連項目

ILOM	章または節	マニュアル
• 概念	• x86 または SPARC システムの診断 • システムの問題を診断するために SP データを収集する	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)
• CLI	• 診断 • システムの問題を診断するために SP データを収集する	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376)

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

x86 システムのハードウェア問題の診断

項目		
説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">• 188 ページの「作業を開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">• x86 システムのサーバー SP
x86 システムのハードウェア問題を診断する	<ul style="list-style-type: none">• 188 ページの「x86 システムの PC-Check 診断を設定する」• 189 ページの「NMI を生成する」	

注 – 代表的な x86 診断ツールの詳細は、『Oracle x86 サーバー診断ガイド』(821-2218) を参照してください。

作業を開始する前に

- x86 システムのハードウェア問題を診断するには、Reset and Host Control (r) の役割を有効にする必要があります。

▼ x86 システムの PC-Check 診断を設定する

注 – PC-Check 診断を設定したら、診断テストを実行する前にホストをリセットする必要があります。

次の手順に従って、PC-Check 診断を設定します。

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. 「Remote Control」 --> 「Diagnostics」を選択します。
「Diagnostics」ページが表示されます。

3. 「Run Diagnostics on Boot」 ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **Disabled** – リモートホストサーバーの起動時に、PC-Check 診断テストを実行しない場合は、「Disabled」を選択します。
 - **Enabled** – リモートホストサーバーの起動時に、基本的な PC-Check 診断テストを実行する場合は、「Enabled」を選択します。これらの基本診断テストの実行には、通常、5 分ほどかかります。
 - **Extended** – リモートホストサーバーの起動時に、拡張 PC-Check 診断テストを実行する場合は、「Extended」を選択します。これらの拡張診断テストの実行には、通常、20 から 40 分かかります。
 - **Manual** – リモートホストサーバーの起動時に、選択した PC-Check 診断テストを実行する場合は、「Manual」を選択します。
4. 「Save」をクリックして設定を有効にします。

「Manual」オプションを選択した場合は、ホストのリセット後に PC-Check 診断のグラフィカルインタフェースが表示されます。このインタフェースから、実行する PC-Check 診断テストを選択できます。

▼ NMI を生成する



注意 – ホストオペレーティングシステムの設定によっては、マスク不可能な割り込み (Non-Maskable Interrupt, NMI) を生成すると、オペレーティングシステムがクラッシュしたり、応答しなくなったり、外部デバッガからの入力を待機したりする場合があります。

次の手順に従って、NMI を生成します。

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. 「Remote Control」 --> 「Diagnostics」を選択します。

「Diagnostics」ページが表示されます。
3. 「Generate NMI」 ボタンをクリックします。

ホストオペレーティングシステムへのマスク不可能な割り込み (NMI) が生成されます。

SPARC システムのハードウェア問題の診断

項目

説明	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">190 ページの「作業を開始する前に」	<ul style="list-style-type: none">SPARC システムのサーバー SP
SPARC システムのハードウェア問題を診断する	<ul style="list-style-type: none">190 ページの「SPARC システムの診断を設定する」	

作業を開始する前に

- SPARC プロセッサベースのシステムで診断テストを設定および実行するには、Reset and Host Control (r) の役割を有効にする必要があります。

▼ SPARC システムの診断を設定する

次の手順に従って、SPARC システムの診断を設定します。

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. 「Remote Control」 --> 「Diagnostics」 を選択します。
「Diagnostics」 ページが表示されます。
3. 「Trigger」 の値を選択します。
 - **Power On** - 電源投入時に診断を実行します。
 - **User Reset** - ユーザーによるリセット時に診断を実行します。
 - **Error Reset** - エラーによるリセット時に診断を実行します。

4. 各トリガータイプに対する「Verbosity」の値を選択します。
 - **None** – 障害が検出されないかぎり、診断の実行時にシステムコンソールには出力が表示されません。
 - **Min** – システムコンソールに表示される出力内容は限定的です (デフォルト値)。
 - **Normal** – 実行されている各テストの名前と結果を含む中程度の量の出力がシステムコンソールに表示されます。
 - **Debug** – テストされているデバイスと各テストのデバッグ出力を含む詳細なデバッグの出力がシステムコンソールに表示されます。
5. 各トリガータイプに対する「Level」の値を選択します。
 - **Min** – 最小レベルの診断を実行してシステムを検証します。
 - **Max** – 最大セットの診断を実行してシステムの健全性を完全に検証します (デフォルト値)。
6. 「Mode」の値を選択します。
 - **Off** – 診断を一切実行しません。
 - **Normal** – 診断を実行します (デフォルト値)。
7. 「Save」をクリックして設定を有効にします。

システムの問題を診断するための SP データの収集

項目	リンク	プラットフォームの機能のサポート
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none"> • 192 ページの「作業を開始する前に」 	<ul style="list-style-type: none"> • Oracle の保守担当者向けの機能のみ
SP データを収集する	<ul style="list-style-type: none"> • 192 ページの「システムの問題を診断するために SP データを収集する」 	

作業を開始する前に

- サービススナップショットユーティリティを使用して SP データを収集するには、Admin (a) の役割を有効にする必要があります。

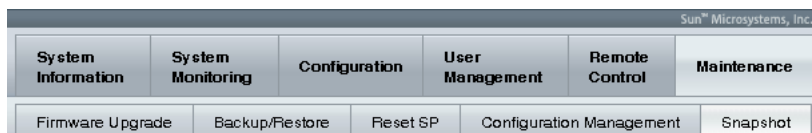
次の手順に従って、ホスト制御機能を使用して ILOM から BIOS 起動デバイス設定をオーバーライドします。



注意 – ILOM サービススナップショットユーティリティの目的は、Oracle の保守担当者がシステムの問題の診断に使用するデータを収集することです。Oracle の保守担当者からの依頼がないかぎり、ユーザーはこのユーティリティを決して実行しないでください。

▼ システムの問題を診断するために SP データを収集する

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。
2. 「Maintenance」 --> 「Snapshot」 を選択します。
「Service Snapshot Utility」 ページが表示されます。



Service Snapshot Utility

This page allows you to run the service snapshot utility to collect environmental, log, error, and FRUID data.

Data Set:

Collect Only Log Files From Data Set: Enabled

Encrypt Output File: Enabled

Transfer Output File

Transfer Method:

The downloaded file will be saved according to your browser settings.

3. 収集するデータセット (「Normal」、 「FRUID」、 「Full」、 または「Custom」) を選択します。
 - **Normal** – ILOM、 オペレーティングシステム、 およびハードウェアの情報を収集します。
 - **FRUID** – ILOM 3.0.3 以降で使用できます。「Normal」 設定オプションで収集されるデータに加えて、 サーバーで現在設定されている FRU に関する情報を収集します。
 - **Full** – すべてのデータを収集します。「Full」 を選択すると、 システムがリセットされる場合があります。
 - **Custom** – 次のデータセットから 1 つ以上選択できます。
 - ILOM Data
 - Hardware Data
 - Basic OS Data
 - Diagnostic Data
 - FRUID Data
4. データセットからログファイルだけを収集する場合は、「Enabled」 チェックボックスをクリックします。
5. 出力ファイルを暗号化する場合は、「Enabled」 チェックボックスをクリックします。
6. 次のいずれかの出力ファイル転送方法を選択します。
 - Browser
 - SFTP
 - FTP
7. 「Run」 をクリックします。

「Save As」 ダイアログボックスが表示されます。
8. このダイアログボックスで、 ファイルを保存するディレクトリとそのファイル名を指定します。
9. 「OK」 をクリックします。

指定したディレクトリにファイルが保存されます。

付録 A

IPv4 または IPv6 の ILOM 接続問題の診断

IPv6 の使用時に ILOM への接続に関する問題が生じた場合は、表 A-1 を参照すると、IPv6 を使用して ILOM にアクセスする際によく生じる問題の解決に役立ちます。

表 A-1 IPv6 の一般的な接続の問題と推奨される解決策

IPv6 の一般的な接続の問題	推奨される解決策
IPv6 アドレスを使用して ILOM Web インタフェースにアクセスできない。	URL の IPv6 アドレスが次のように角括弧で囲まれていることを確認します。 <code>https://[fe80::221:28ff:fe77:1402]</code>
IPv6 アドレスを使用してファイルをダウンロードできない。	URL の IPv6 アドレスが次のように角括弧で囲まれていることを確認します。 <code>load -source tftp://[fec0:a:8:b7:214:rfff:fe01:851d]desktop.pkg</code>
ネットワーククライアントから IPv6 を使用して ILOM にアクセスできない。	別のサブネット上の場合、次のことを試します。 <ul style="list-style-type: none">• ILOM が動的または静的なアドレス (リンクローカルアドレスだけでなく) を持っていることを確認します。• ネットワーククライアントで IPv6 アドレス (リンクローカルアドレスだけでなく) が設定されていることを確認します。 同じサブネットまたは別のサブネット上の場合、次のことを試します。 <ul style="list-style-type: none">• ILOM Web インタフェースの「Network Settings」ページまたは ILOM CLI の <code>/SP/network/ipv6</code> ターゲットで「IPv6 State」の設定が有効になっていることを確認します。• 制限付きシェルで <code>ping6</code> を実行します。• 制限付きシェルで <code>tracert</code> を実行します。

表 A-1 IPv6 の一般的な接続の問題と推奨される解決策 (続き)

IPv6 の一般的な接続の問題	推奨される解決策
IPv4 と IPv6 のデュアルスタックネットワーク環境内でクライアントから ILOM にアクセスできない。	<p>次の設定が有効になっていることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「State」。「State」の設定は、ILOM Web インタフェースの「Network Settings」ページまたは CLI の /SP/network ターゲットで有効にすることができます。 • 「IPv6 State」。「IPv6 State」の設定は、ILOM Web インタフェースの「Network Settings」ページまたは /SP/network/ipv6 ターゲットで有効にすることができます。
ネットワーククライアントから IPv4 を使用して ILOM にアクセスできない。	ILOM Web インタフェースの「Network Settings」ページまたは ILOM CLI の /SP/network ターゲットで「State」の設定が有効になっていることを確認します。

ローカル相互接続インタフェースの 手動によるホスト OS 設定のガイド ライン

ローカル相互接続インタフェースの ILOM SP 接続ポイント用にルーティングの宛先とならない IPv4 アドレスを手動で設定する場合は、ローカル相互接続インタフェースのホスト OS 接続ポイント用にもルーティングの宛先とならない IPv4 アドレスを手動で設定する必要があります。次に、ホスト OS 接続ポイント用に静的でルーティングの宛先とならない IPv4 アドレスを設定するための一般的なガイドラインをオペレーティングシステムごとに示します。ホストオペレーティングシステムでの IP アドレスの設定についての詳細は、ベンダーのオペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

注 – ILOM は、ホストオペレーティングシステムに対する USB Ethernet インタフェースとしてサーバーにインストールされる内蔵 USB Ethernet デバイスを提供します。

表 B-1 ホスト OS で内蔵 USB Ethernet デバイスを設定するための一般的なガイドライン

オペレーティングシステム	一般的なガイドライン
Windows Server 2008	<p>Windows によって内蔵 USB Ethernet デバイスが検出されたあと、おそらくこのデバイスのデバイスドライバを特定するように求められます。実際にはドライバは不要であるため、.inf ファイルを特定することで内蔵 USB Ethernet デバイスの通信スタックは満たされるはずですが、.inf ファイルは、Oracle Hardware Management Pack 2.1.0 ソフトウェア配布から入手できます。この管理パックソフトウェアは Oracle のソフトウェア製品ダウンロードページ (www.oracle.com) からダウンロードでき、この管理パックソフトウェアから .inf ファイルを抽出できます。管理パックソフトウェアからの .inf ファイルの抽出についての詳細は、『Oracle Server Hardware Management Pack ユーザーズガイド』(821-2181) を参照してください。</p> <p>Oracle Hardware Management Pack 2.1.0 ソフトウェア配布から .inf ファイルを適用したら、コントロールパネル(「スタート」->「コントロールパネル」)にある「Microsoft Windows Network」設定オプションを使用して、ローカル相互接続インタフェースのホスト OS 接続ポイント用に静的 IP アドレスを設定できます。</p> <p>Windows 2008 での IPv4 アドレスの設定についての詳細は、Microsoft Windows オペレーティングシステムのドキュメントまたは Microsoft TechNet サイト (http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc754203%28WS.10%29.aspx) を参照してください。</p>
Linux	<p>Oracle Sun プラットフォームサーバーでサポートされているほとんどの Linux オペレーティングシステムのインストールには、内蔵 Ethernet デバイスのデバイスドライバのインストールが含まれます。</p> <p>通常、内蔵 USB Ethernet デバイスは Linux オペレーティングシステムによって自動的に検出されます。内蔵 Ethernet デバイスは、一般に usb0 として表示されます。ただし、内蔵 Ethernet デバイスの名前は、Linux オペレーティングシステムのディストリビューションによって異なる場合があります。</p> <p>次の手順は、一般にサーバーにある内蔵 USB Ethernet デバイスを表す usb0 に対応する静的 IP アドレスを設定する方法を示しています。</p> <pre data-bbox="351 1065 959 1256">\>lsusb usb0 \> ifconfig usb0 169.254.182.77 \> ifconfig usb0 netmask 255.255.255.0 \> ifconfig usb0 broadcast 169.254.182.255 \> ifconfig usb0 \> ip addr show usb0</pre> <p>注 - 一般的な ifconfig 手順を実行するのではなく、インタフェースの設定をスクリプト化することもできます。ただし、正確なネットワークスクリプトは Linux ディストリビューションによって異なります。通常、Linux の動作バージョンにはネットワークスクリプトをモデル化するための例が含まれています。</p> <p>Linux オペレーティングシステムを使用してデバイスの IP アドレスを設定する方法の詳細は、Linux オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。</p>

表 B-1 ホスト OS で内蔵 USB Ethernet デバイスを設定するための一般的なガイドライン (続き)

オペレーティングシステム 一般的なガイドライン

Solaris

Oracle Sun プラットフォームサーバー上のほとんどの Solaris オペレーティングシステムのインストールには、内蔵 USB Ethernet デバイスのデバイスドライバのインストールが含まれます。このドライバがサポートされていなかった場合は、Oracle Hardware Management Pack 2.1.0 以降のソフトウェアからこのドライバを抽出できます。Ethernet インタフェース用に Solaris 固有の OS ドライバを抽出する方法の詳細は、『Oracle Server Hardware Management Pack ユーザーズガイド』(821-2181) を参照してください。

通常、内蔵 USB Ethernet デバイスは Solaris オペレーティングシステムによって自動的に検出されます。内蔵 Ethernet デバイスは、一般に `usbecm0` として表示されます。ただし、内蔵 Ethernet デバイスの名前は、Solaris オペレーティングシステムのディストリビューションによって異なる場合があります。

Solaris オペレーティングシステムによってローカル USB Ethernet デバイスが認識されたら、USB Ethernet デバイスの IP インタフェースを設定する必要があります。

次の手順は、一般にサーバーにある内蔵 USB Ethernet デバイスを表す `usbecm0` に対応する静的 IP アドレスを設定する方法を示しています。

- 次のコマンドを入力して、IP インタフェースを `plumb` または `unplumb` します。

```
ifconfig usbecm0 plumb
```

```
ifconfig usbecm0 unplumb
```

- 次のコマンドを入力して、アドレス情報を設定します。

```
ifconfig usbecm0 netmask 255.255.255.0 broadcast 169.254.182.255  
169.254.182.77
```

- インタフェースを設定するには、次のように入力します。

```
ifconfig usbecm0 up
```

- インタフェースを停止するには、次のように入力します。

```
ifconfig usbecm0 down
```

- アクティブなインタフェースを表示するには、次のように入力します。

```
ifconfig -a
```

- 接続をテストするには、Solaris ホストまたは SP 内蔵 USB Ethernet デバイスに対して `ping` を実行します。

```
ping <Solaris ホストの IPv4 アドレス>
```

```
ping <SP-Ethernet USB の IPv4 アドレス>
```

注 – 一般的な `ifconfig` 手順を実行するのではなく、インタフェースの設定をスクリプト化することもできます。ただし、正確なネットワークスクリプトは Solaris ディストリビューションによって異なる場合があります。通常、動作バージョンにはネットワークスクリプトをモデル化するための例が含まれています。

Solaris オペレーティングシステムを使用してデバイスの静的 IP アドレスを設定する方法の詳細は、Solaris オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

注 - 内蔵 USB Ethernet デバイスドライバがオペレーティングシステムのインストールに含まれていなかった場合は、Oracle Hardware Management Pack 2.1.0 以降のソフトウェアから Ethernet デバイスのデバイスドライバを入手できます。管理パックからのこのファイルの抽出についての詳細は、『Oracle Server Hardware Management Pack ユーザーズガイド』(821-2181) を参照してください。

索引

A

Active Directory

- イベントクラス, 66
 - イベントクラスのカスタムフィルタ, 65
- 厳密な証明書モード, 61
- 証明書, 60
- 証明書の削除, 61
- 証明書のロード, 61
- 証明書ファイルのアップロード, 61
- 設定, 57
- テーブル, 62
 - Admin Groups, 62
 - Alternate Servers, 63
 - Custom Groups, 63
 - DNS Locator Queries, 64
 - Operator Groups, 62
 - User Domains, 63
- トラブルシューティング, 65

H

HTTP または HTTPS Web アクセス

- 使用可能への切り替え, ?? ~ 38, 37 ~ ??

I

ILOM 設定の復元, 139

ILOM からのログアウト, 19

- Web インタフェースの使用, 19

ILOM 設定

- リセット, 144
- 復元, 139

ILOM 設定のリセット, 153

ILOM のバージョン番号, xiii

ILOM へのログイン, 15

IP アドレス

- 割り当てまたは変更, 38

K

KVMS, 159

L

LDAP

- LDAP サーバーの設定, 67
- LDAP 用に ILOM を構成, 68
- オブジェクトクラス, 67

LDAP/SSL

- Admin Groups, 74
- Alternate Servers, 74
- Custom Groups, 74
- Operator Groups, 74
- User Domains, 74
- Web インタフェースのテーブル, 73
- イベントクラス, 77
- 証明書ファイルのアップロード, 72
- 設定, 69
- テーブル, 73

- Admin Groups, 74

- Alternative Servers, 75

- Custom Groups, 74

- User Domains, 75

- 認証および承認のトラブルシューティング, 76

- テーブル

- Operator Groups, 74

- P**
PC-Check 診断, 188
- R**
RADIUS
設定, 78
- S**
Secure Shell (SSH) 設定
新しい鍵の生成, 41
サーバーの再起動, 41
設定, 40
有効化または無効化, 40
Secure Socket Layer (SSL) 証明書
証明書のアップロード, 39
SMTP クライアント, 107
使用可能への切り替え, 108
SPARC サーバー
TPM と LDom の状態の管理, 181
SSH 鍵, 41
削除, 56
サポートされる転送方法, 55
 Browser, 55
 FTP, 55
 HTTP, 55
 HTTPS, 55
 SCP, 55
 SFTP, 55
設定, 54
サポートされる転送方法
 TFTP, 55
追加, 54
- W**
Web インタフェース
概要, 2, 1
コンポーネント, 5
サポートされているブラウザ, 2
ボタン, 6
- X**
XML ファイル
バックアップ, 141
- い**
イベントログ
 カスタムフィルタ, 76
 出力のフィルタ, 89
 表示およびクリア, 91
- お**
オペレータの役割, 52
- か**
管理者の役割, 52
- き**
キー送信オプション, 167
キーボードおよびマウスのリダイレクト, 167
キーボード/ビデオ/マウス/スクリーン
 (KVMS), 159
キーボードモード, 167
- く**
クロック設定
設定, 88
- け**
警告
 テスト警告の生成, 106
 電子メール通知の生成, 108
警告ルール
 作成または編集, 105
 使用不可への切り替え, 106
 テストの生成, 106
警告ルールの作成または編集, 105
- こ**
構成
 バックアップ, 135
 復元, 135
コンポーネント
 イベントログ, 86
 インジケータ, 86
 監視, 85
 管理, 82
 サービスへの復帰, 84
 情報の表示, 82

情報の変更, 82
センサー, 86
取り外す準備, 84
有効化および無効化, 84

さ

サービススナップショットユーティリティ, 192
データセット, 193
サービスプロセッサ (SP)
収集および診断, 192
リセット, 153

し

識別名 (DN) 形式, 63
システムインジケータ, 87
システム識別子
割り当て, 34
システム識別子を指定するフィールド, 34
システムの場所を指定するフィールド, 34
システムの連絡先を指定するフィールド, 34
シャーシ監視モジュール (CMM)、IP アドレスの設定
Ethernet 接続を使用した編集, 38
出力先変更
開始、停止、再開, 166
キーボード入力, 166
ストレージメディア, 169
マウス入力, 169
リモートコンソールのビデオ, 158

消費電力

監視, 114
個々の電源装置の監視, 116
システムの監視, 115

証明書の削除, 73

証明書のロード, 73

シリアルポート、内部
ボーレートの設定, 36

シリアルポートの出力
ILOM Web インタフェースを使用した切り
替え, 36

シングルサインオン
設定, 49

診断, 187

自動 IP アドレス, 27

す

ストレージコンポーネント
監視, 95

せ

静的 IP アドレス, 28
セッションタイムアウト
設定, 49
リセット, 49
センサー測定値, 86

た

タイムゾーン設定
設定, 89
表示または設定, 89

と

ドキュメント, xi
ドメインネームサービス (DNS)
表示と構成, 34

な

ナビゲーションタブ, 9

ね

ネットワーク設定
pending および active プロパティ, 26
表示と構成, 27

は

場所, 34
バックアップ XML ファイル, 141
編集、パスワード, 143
編集、役割, 143
編集、ユーザーアカウントの追加, 143
編集、例, 143
バックアップおよび復元, 135
バックアップ操作
Web インタフェースの使用, 136
機密データの要件, 138
サポートされる転送方法, 137
推奨されるユーザーアカウントの役割, 136
パスフレーズ、使用しない場合, 138

ひ

ビデオリダイレクト, 159, 158

ふ

ファームウェア

x64 システムへのダウンロード, 150

アップグレード, 151

イメージの更新, 150

検証, 151

更新セッションのトラブルシューティング, 152

バージョンの識別, 149

復元操作

サポートされる転送方法, 140

推奨されるユーザーの役割, 139

セッションの一時的な停止, 141

パスフレーズの要件, 141

ブラウザおよびソフトウェアの要件, 2

プロファイル

選択, 51

ほ

ホストの電源状態

制御, 175, 176

ホスト名

割り当て, 34

ポート ID, 64

ポーレート

設定, 36

ま

マスク不可能な割り込み (NMI)

生成, 189

め

ネットワーク設定

設定, 25

や

役割

Admin (a), 51

Advanced, 51

Console (c), 51

Read Only (o), 51

Reset and Host Control (r), 51

Service (s), 51

User Management (u), 51

ゆ

ユーザーアカウント

削除, 53

設定, 51

追加, 50

役割の割り当て, 50

ユーザーセッション

表示, 53

ユーザープロファイル

変更, 52

り

リモート syslog, 93

リモートコンソール

キーボードおよびマウスのリダイレクト, 167

キーボード制御モード, 167

起動, 162

シリアルリダイレクト, 166

新規サーバーセッション, 171

ストレージデバイスまたは ISO イメージのリダイレクト, 170 ~ 171

セッションの終了, 171

ビデオリダイレクト, 159

リモートコントロールの設定, 159

リモート診断設定

SPARC システム, 190

x64 システム, 188

リモートホスト

管理, 155

電源状態の管理, 175